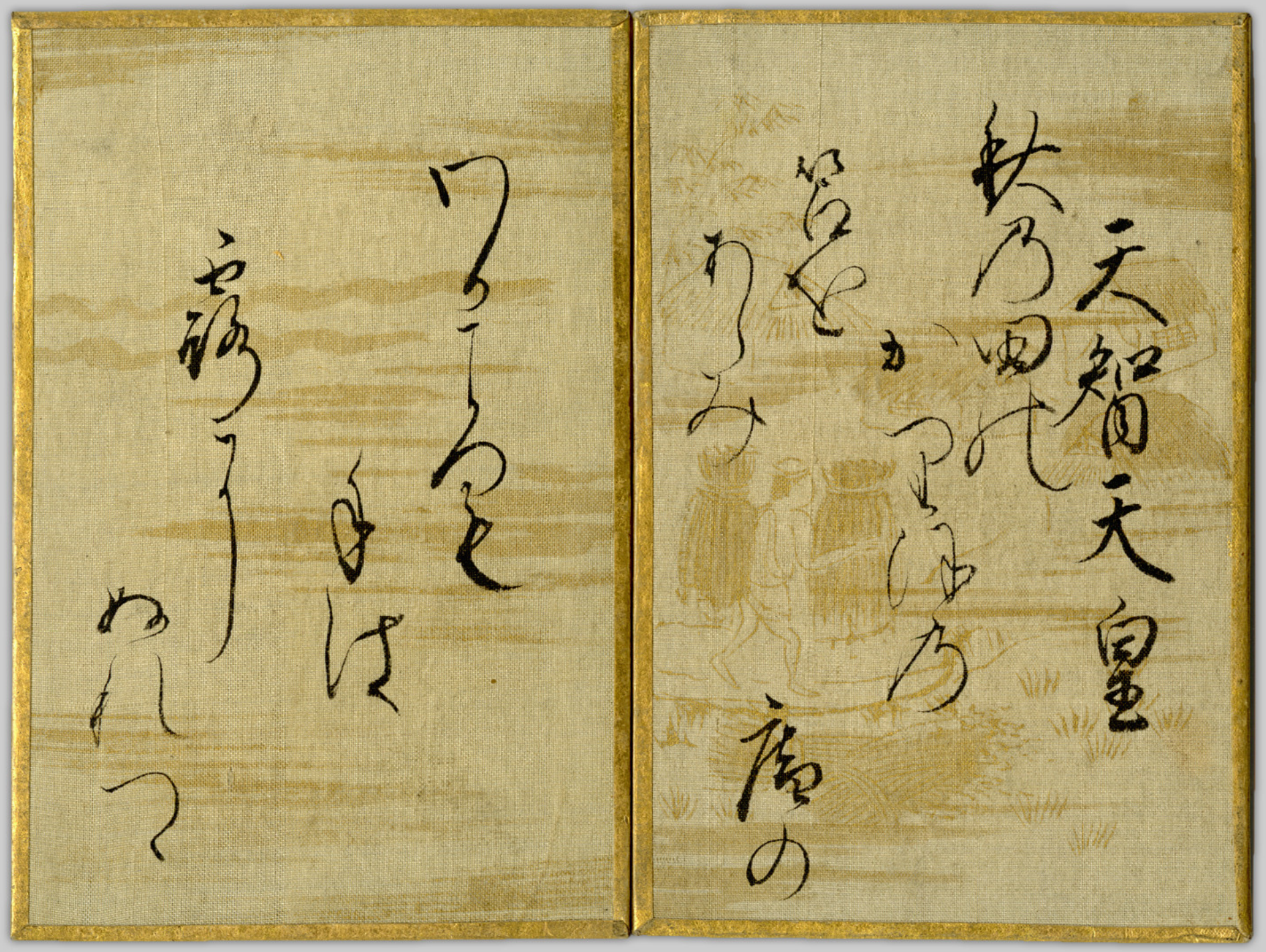
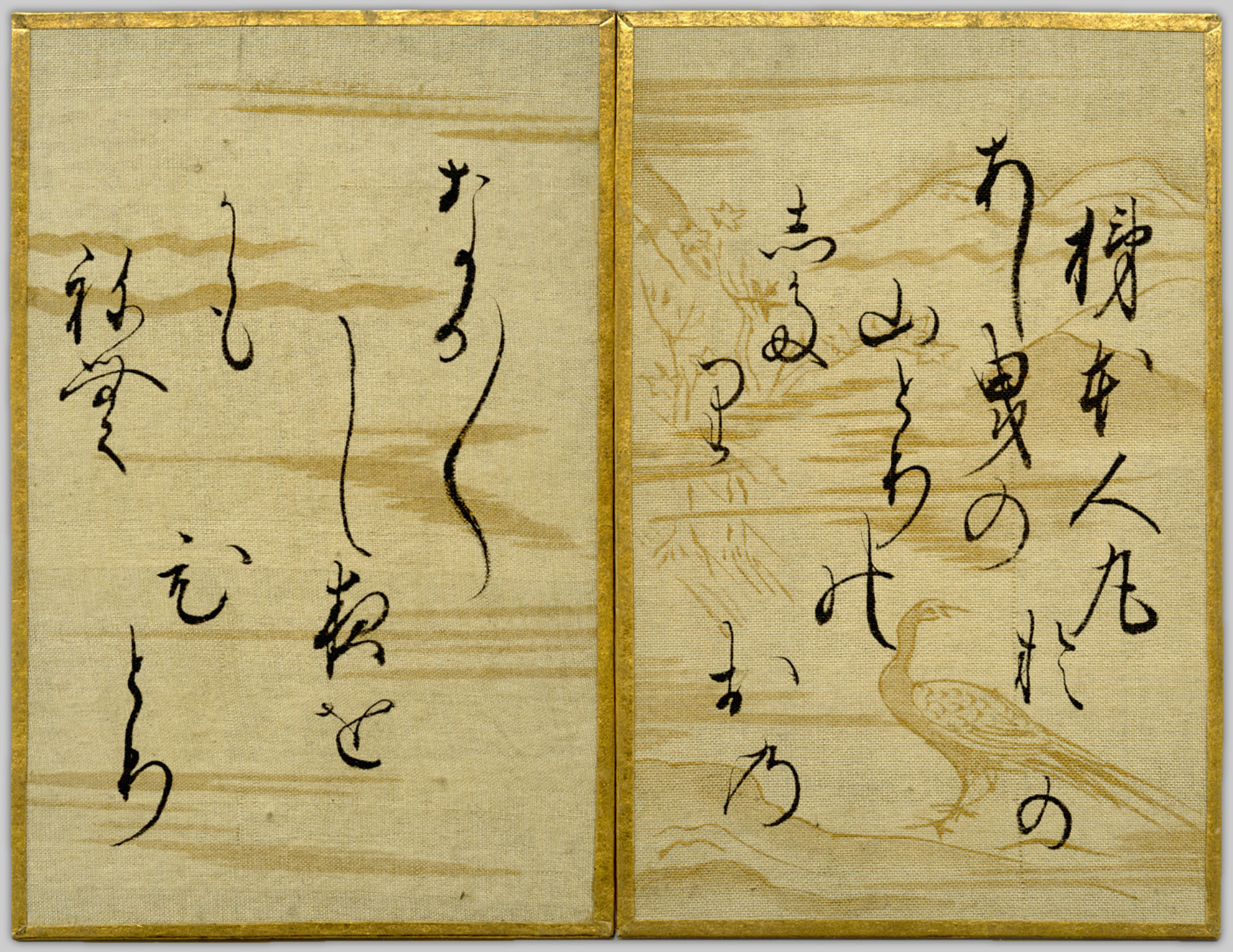
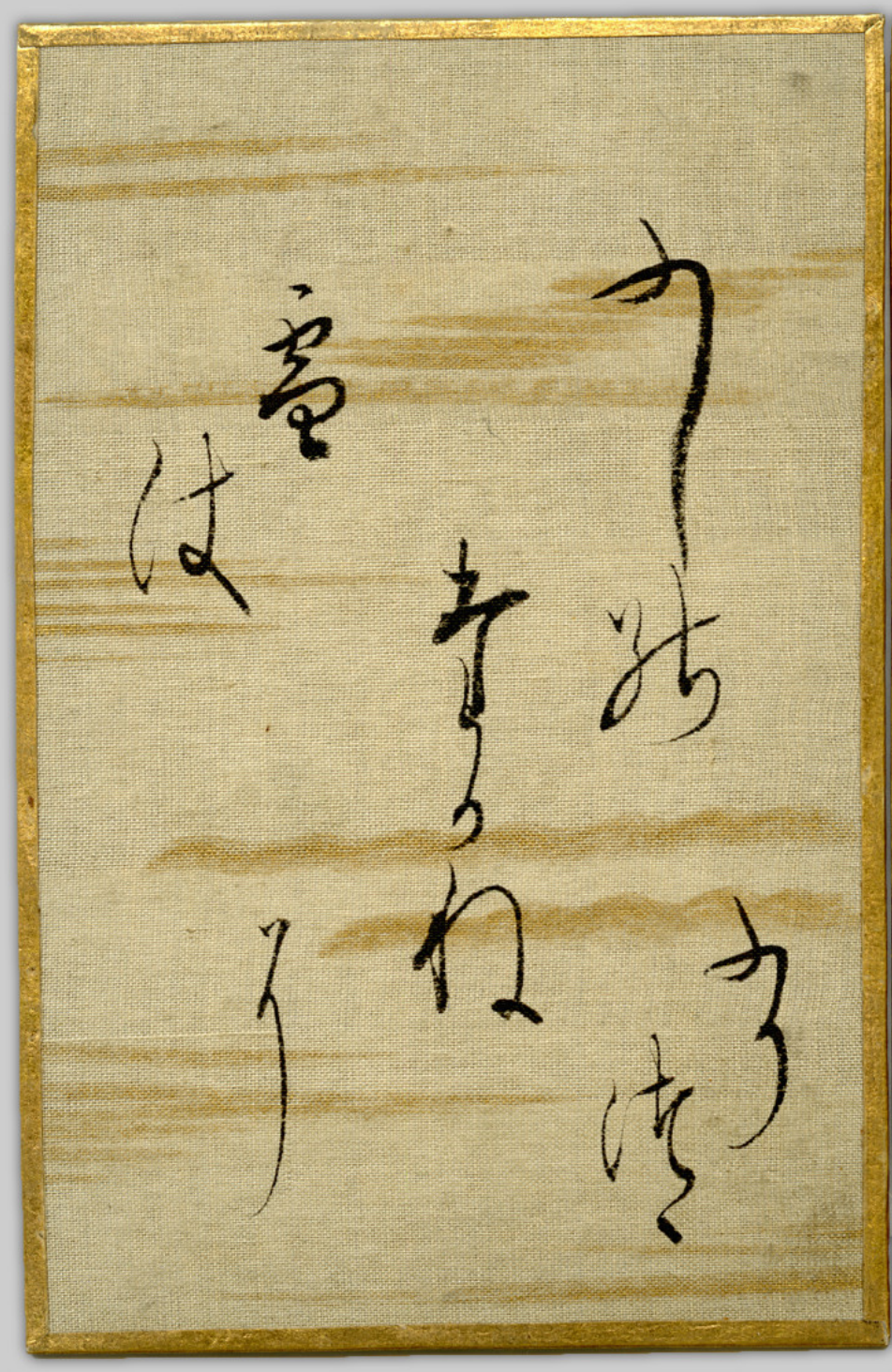
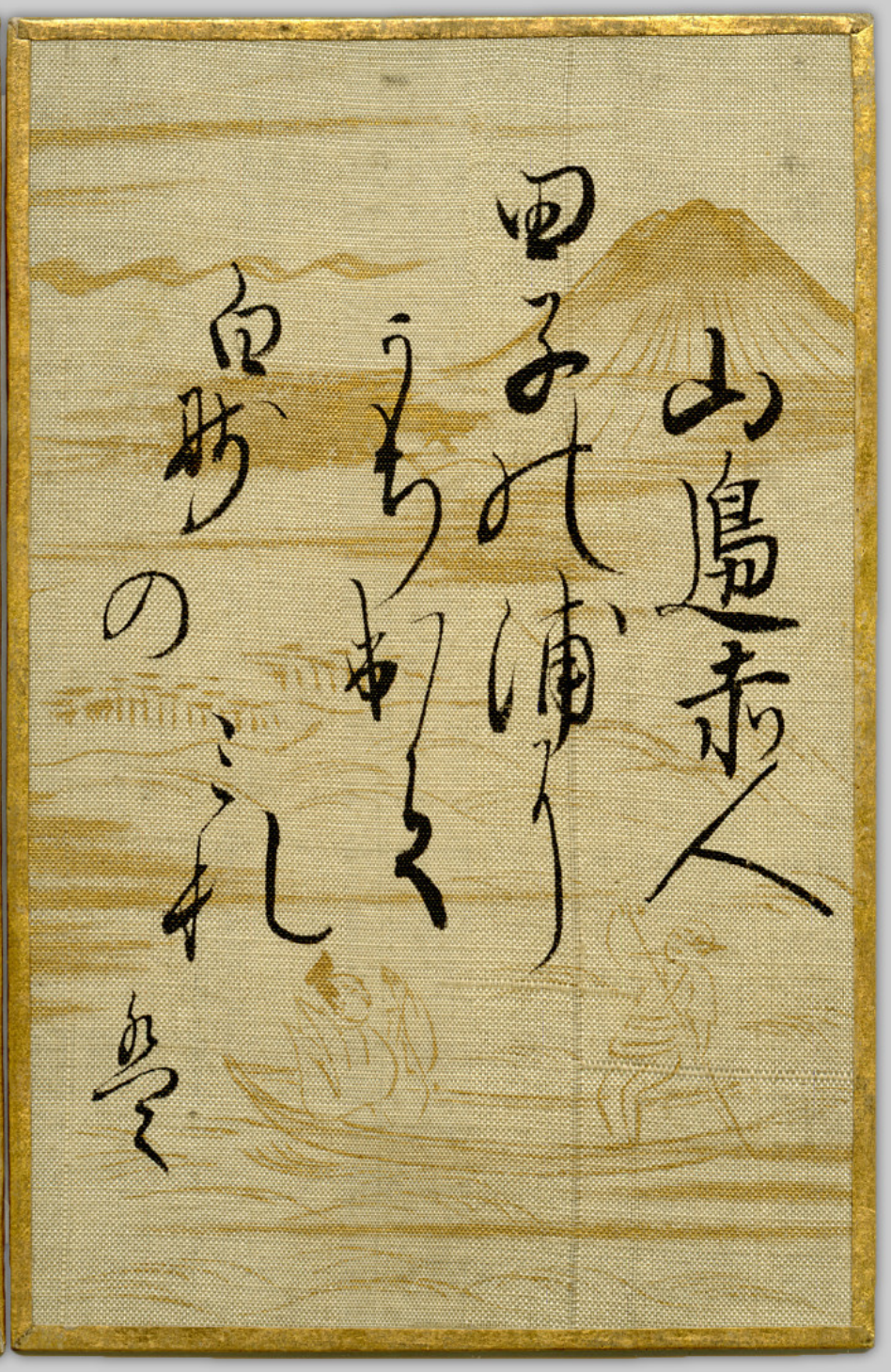


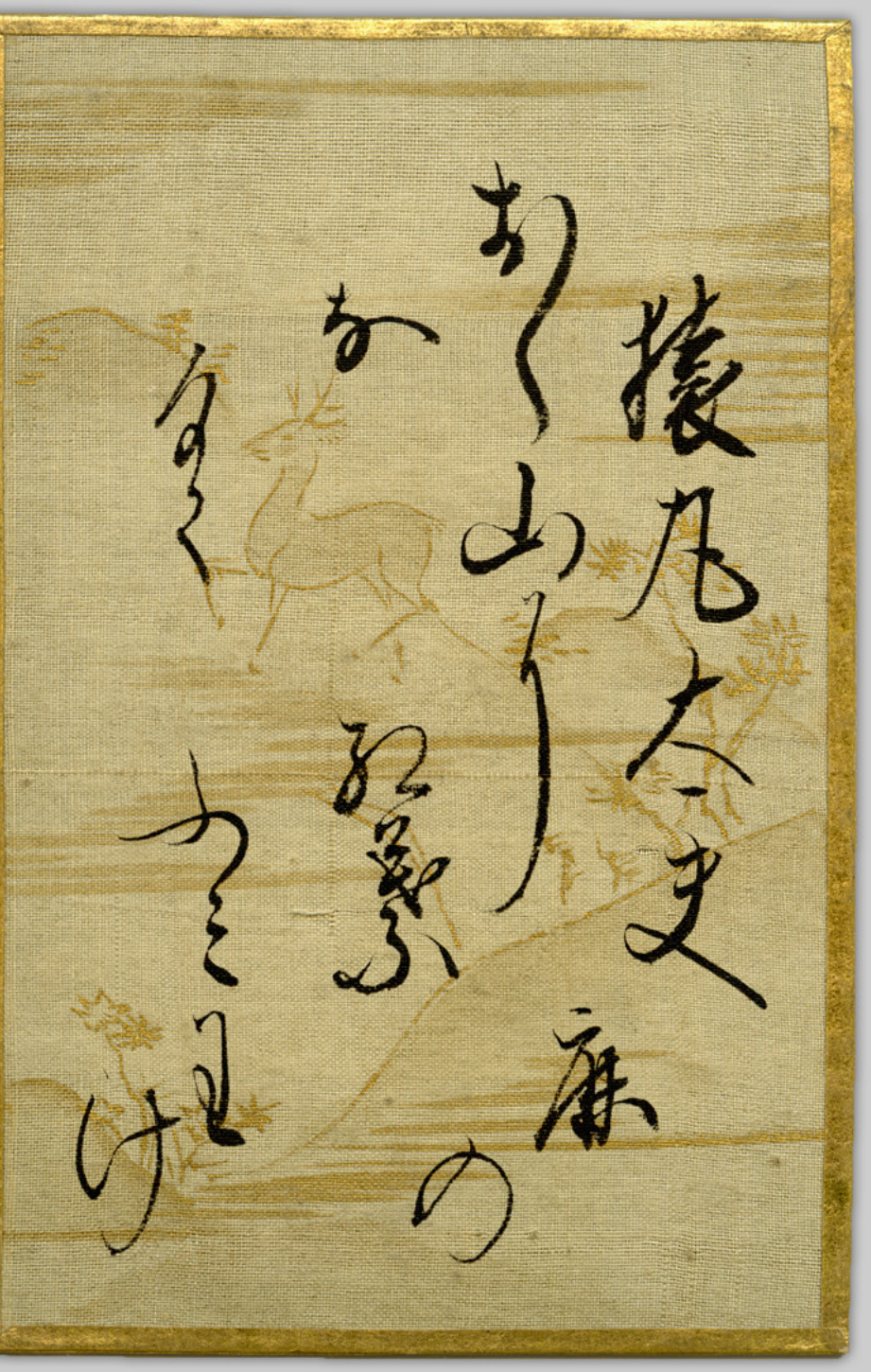
持統天皇
春すきて
夏きにけらし
白たへの

ころも
ほすてふ
あまの
かく山



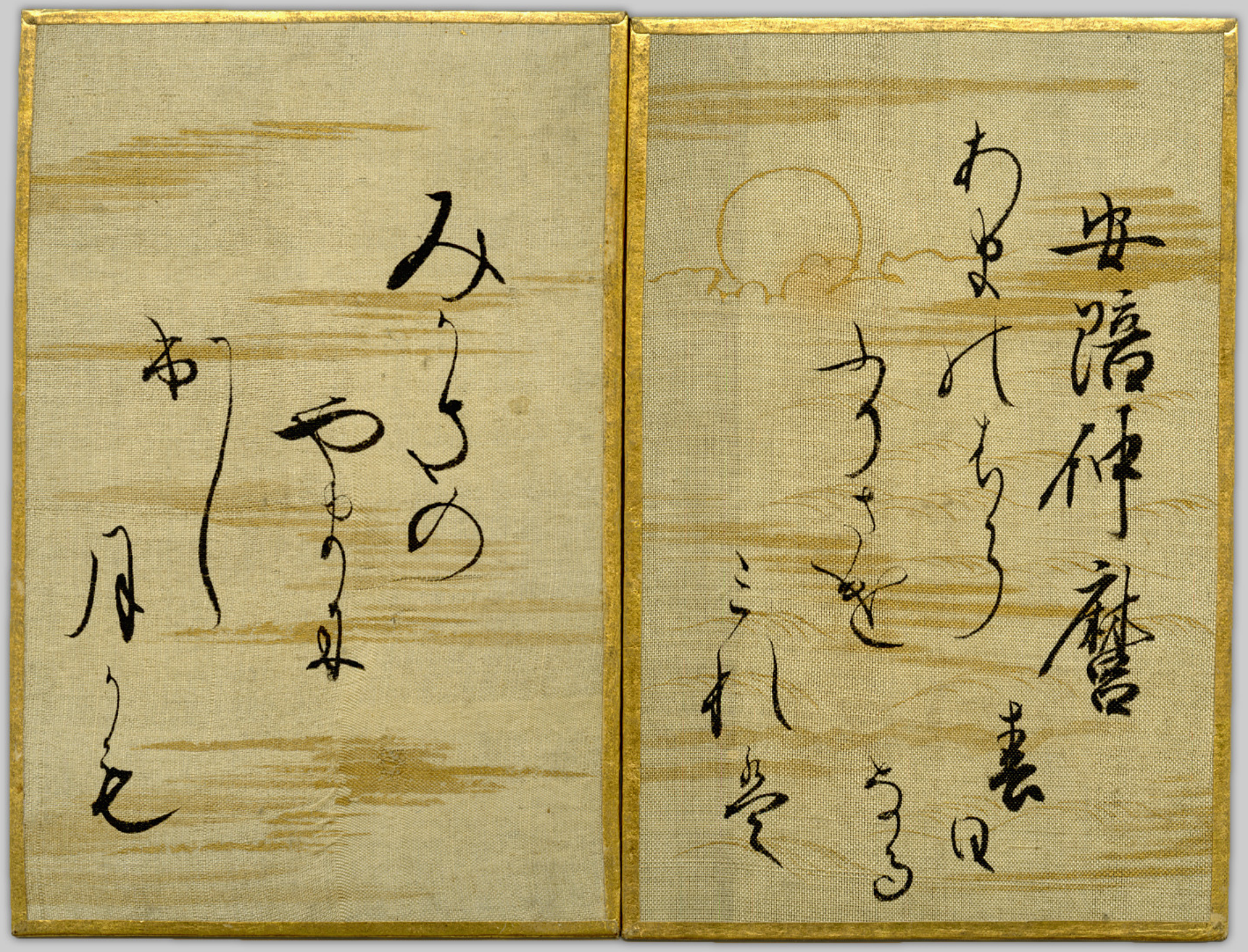


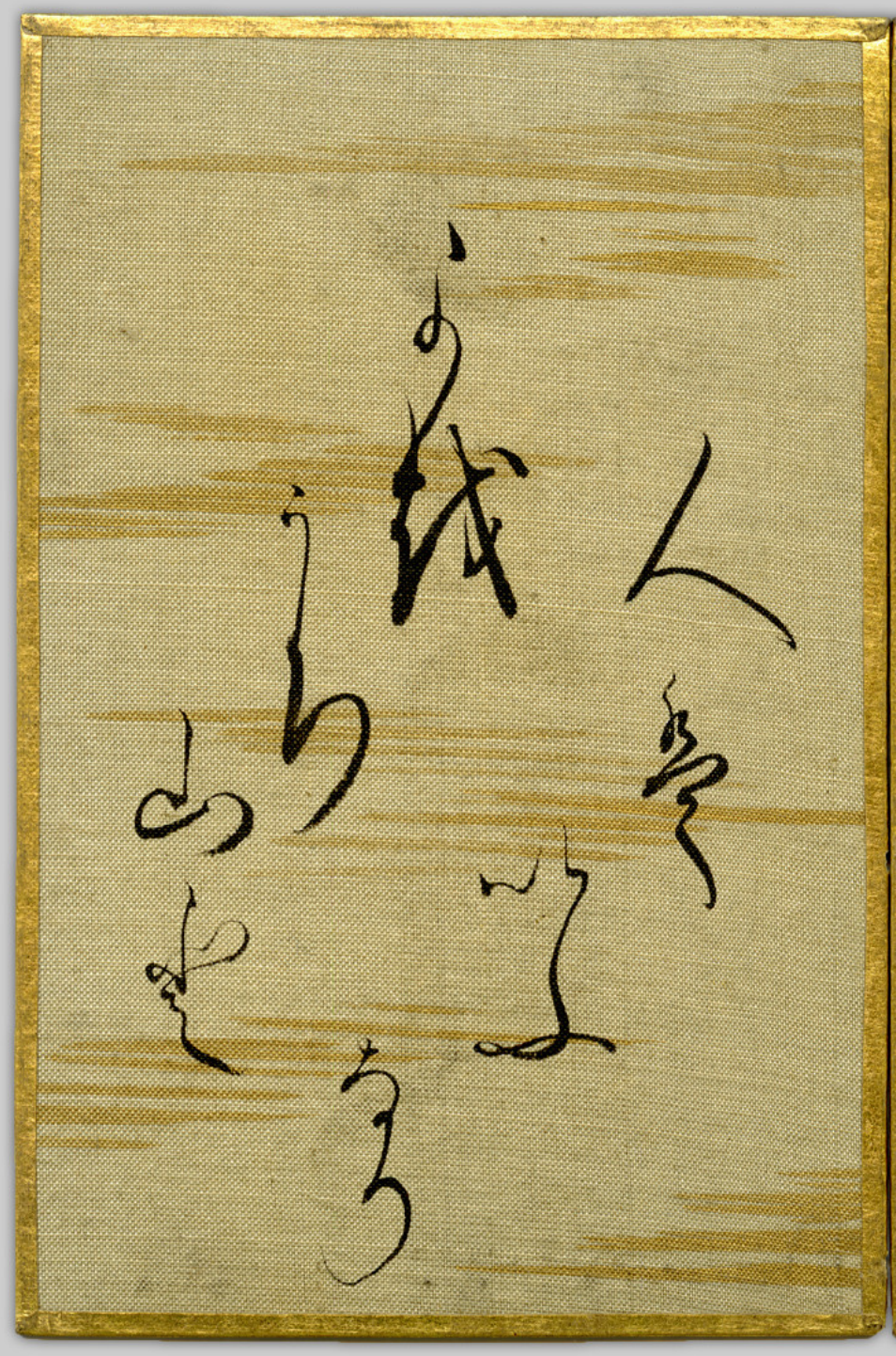


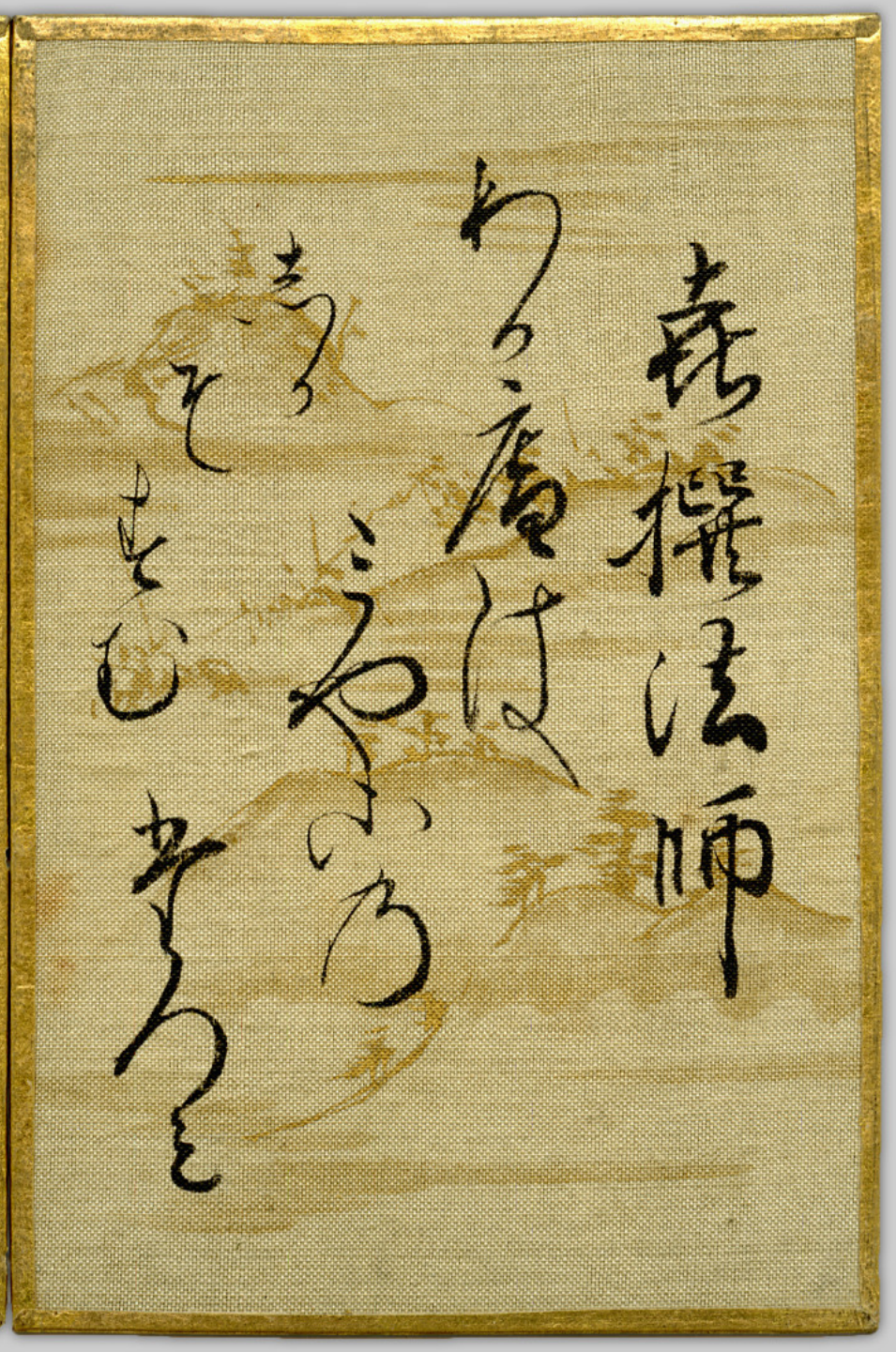


中納言大伴
鵲北
語をる
橋
ア
ゝ
君
乃

青の
おも
と
みれ
は
夏
を
を







小野小町

花乃冬は

うつ津の

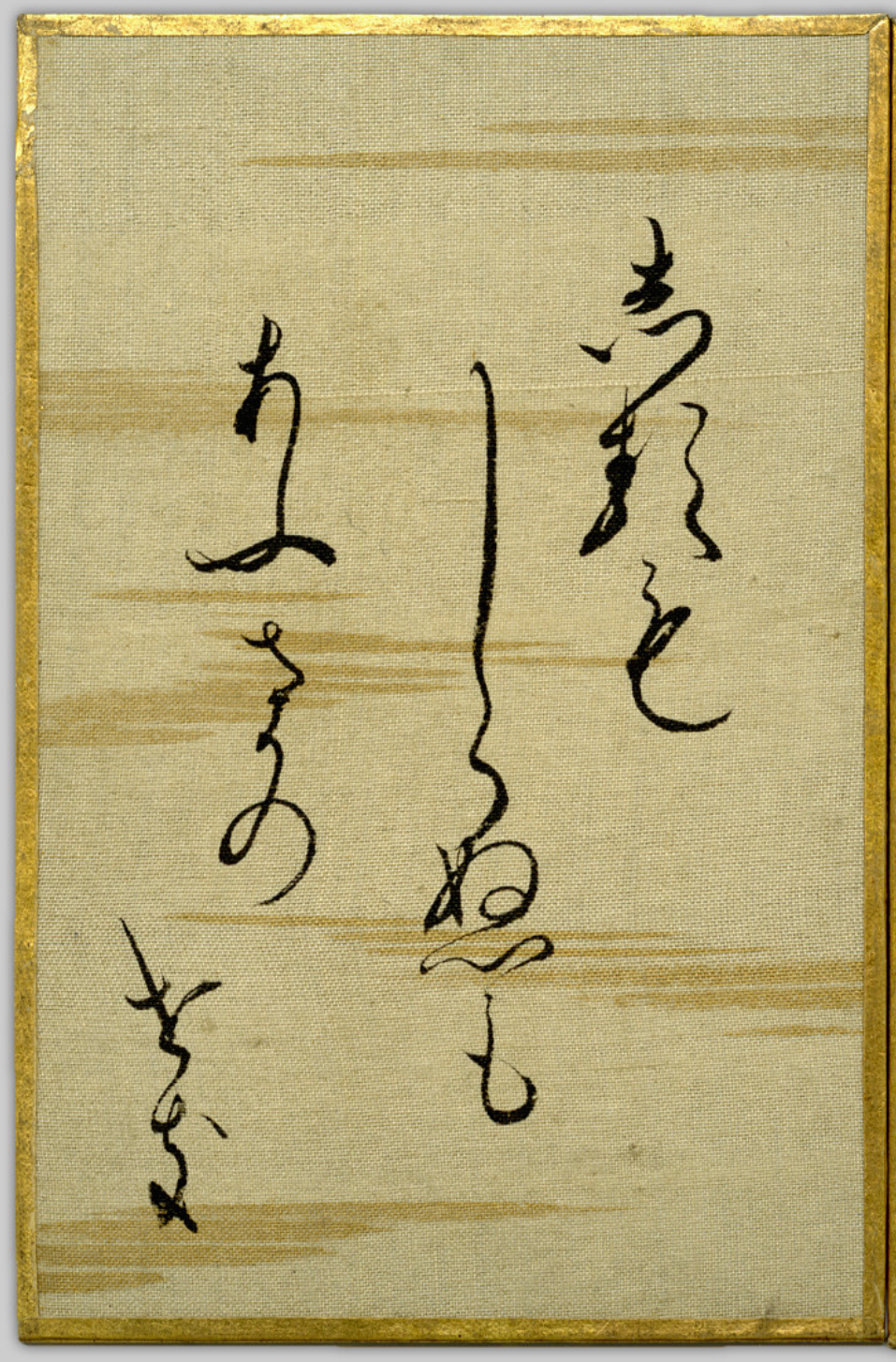
春の

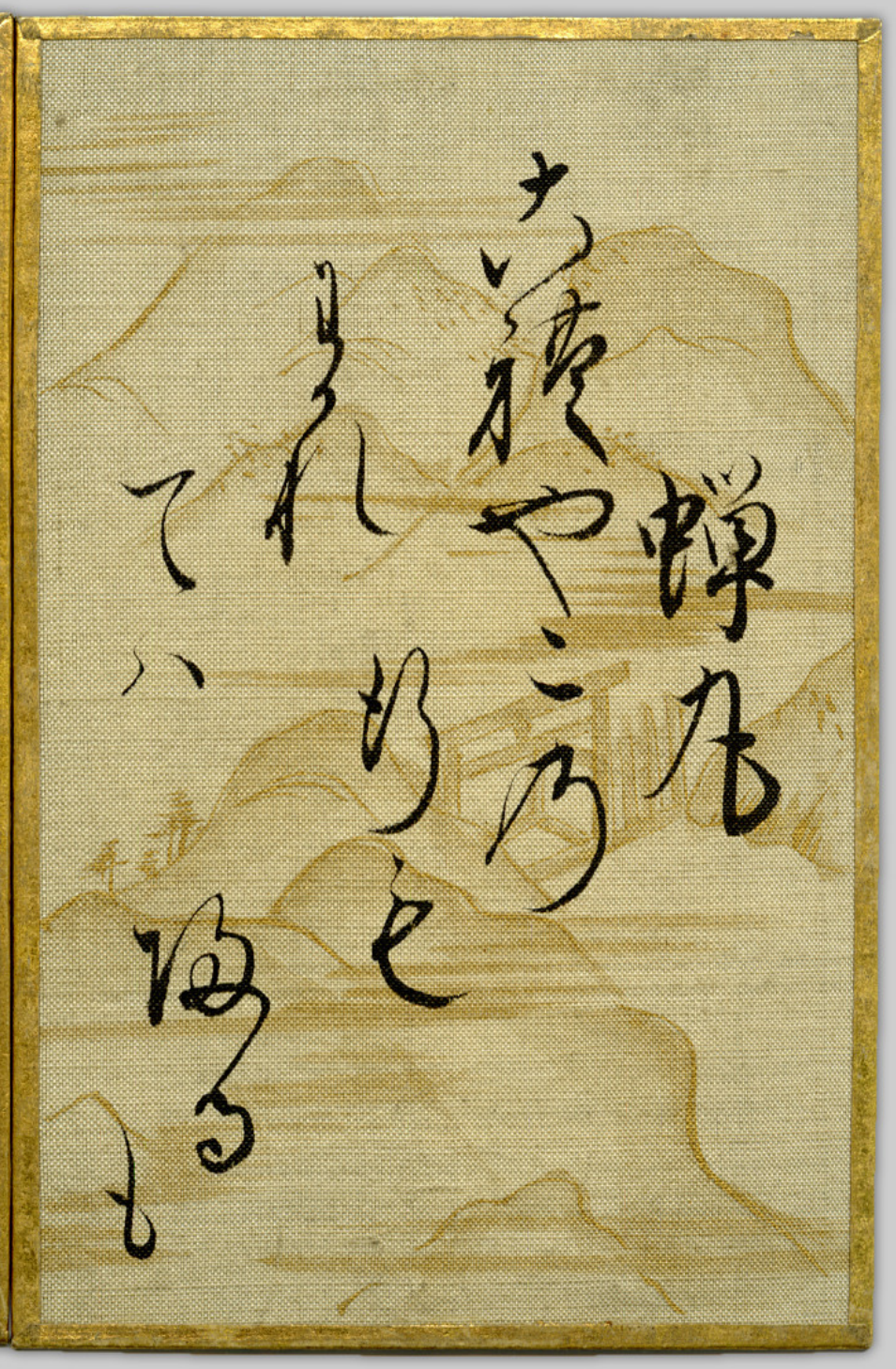
なくあ

[illegible]

[illegible]

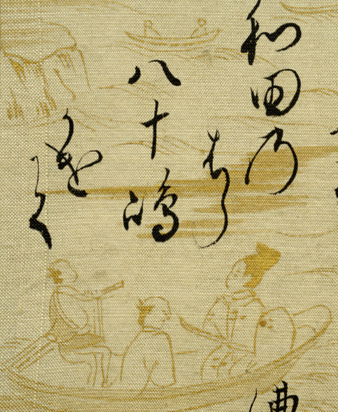
[illegible]



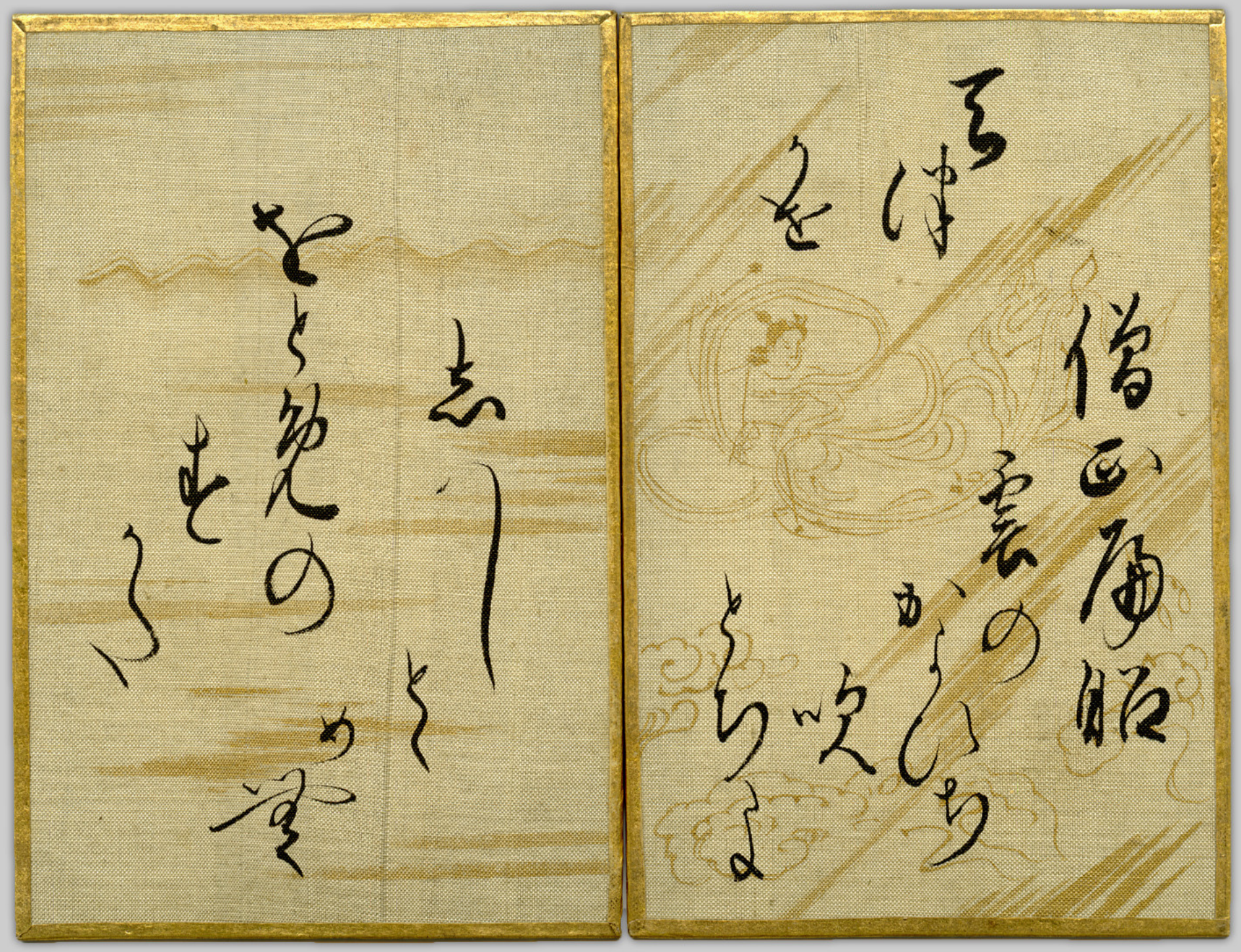


参議篁

和田乃原
八十嶋
かけて
漕出ぬと



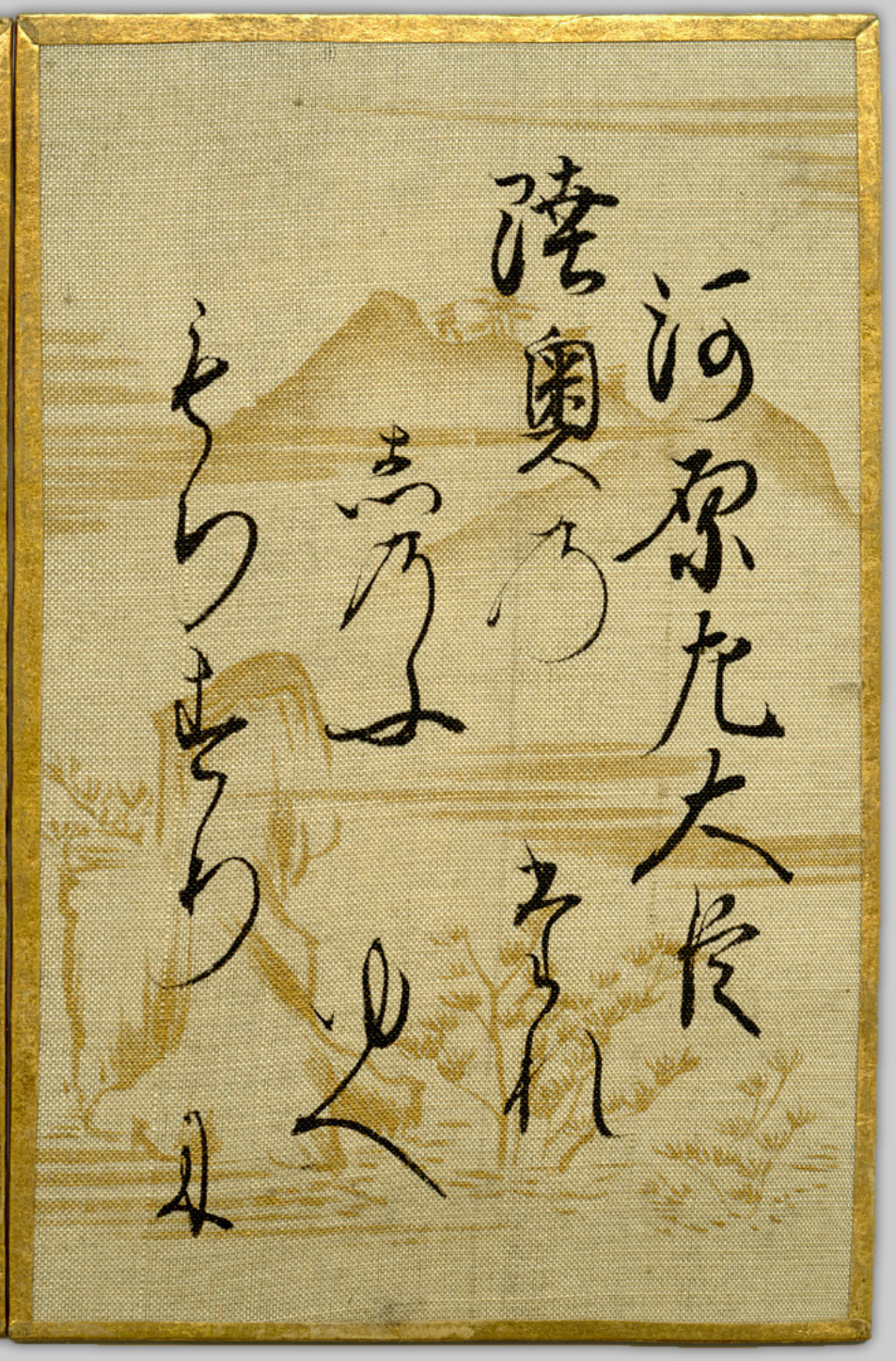
人には
つけよ
あまの
つり舟



陽成院

筑波祢の
みねより
落つる
みなの川

恋そつもりて
淵となりぬる

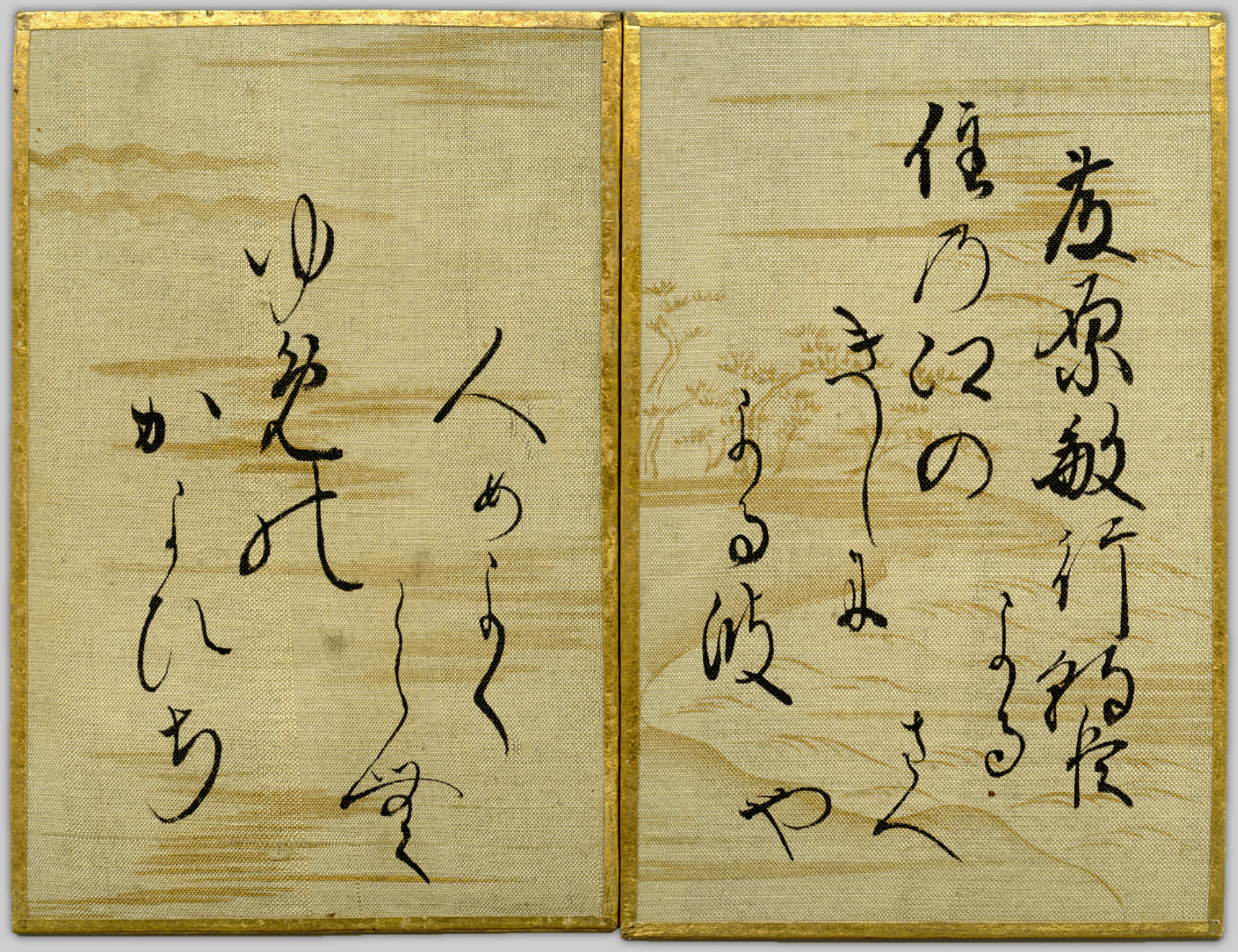


君かため
春の
野に出て
わかな
つむ

光孝天皇

わかころもてに
雪は
ふりつゝ

中納言行平

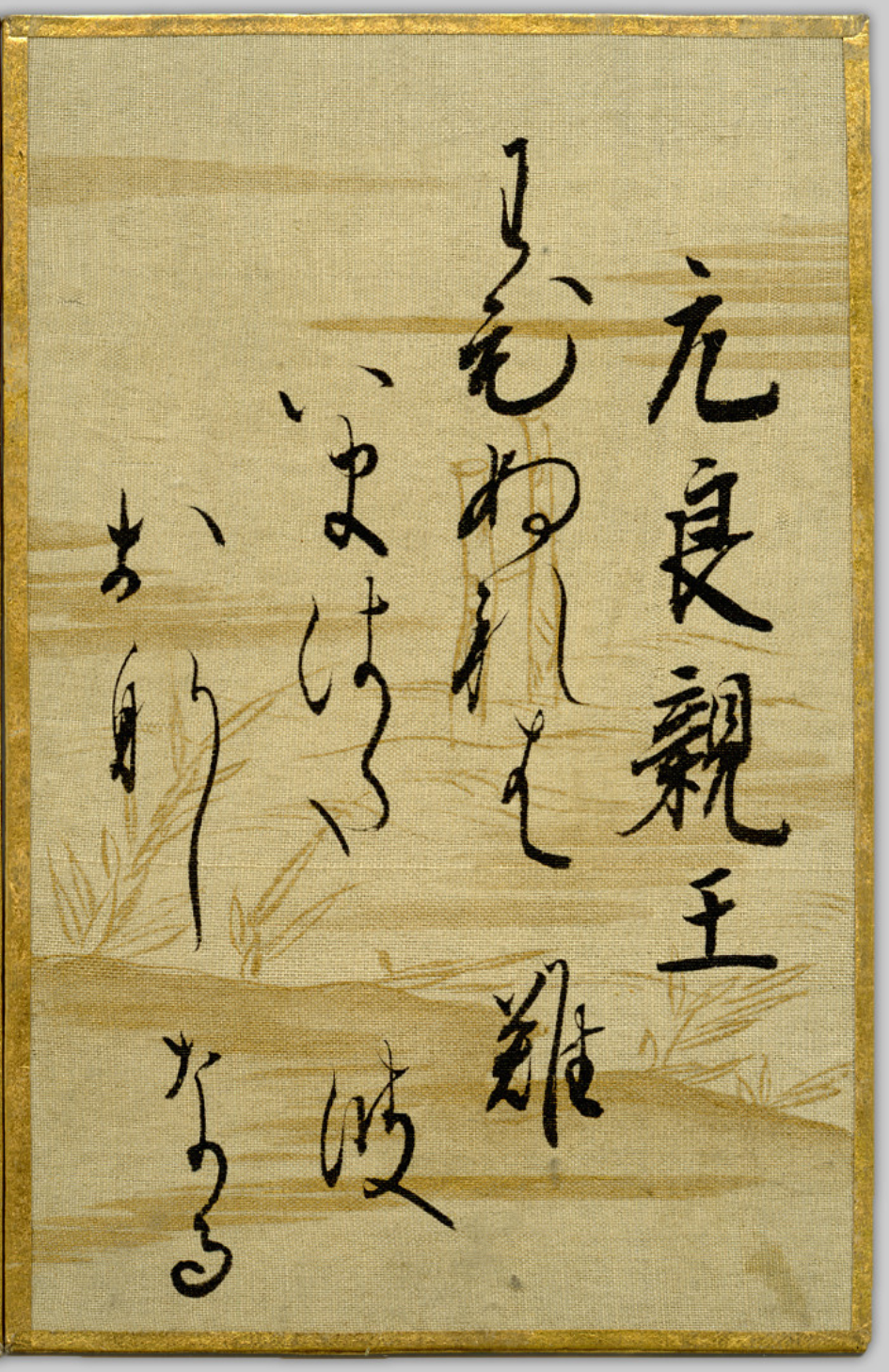


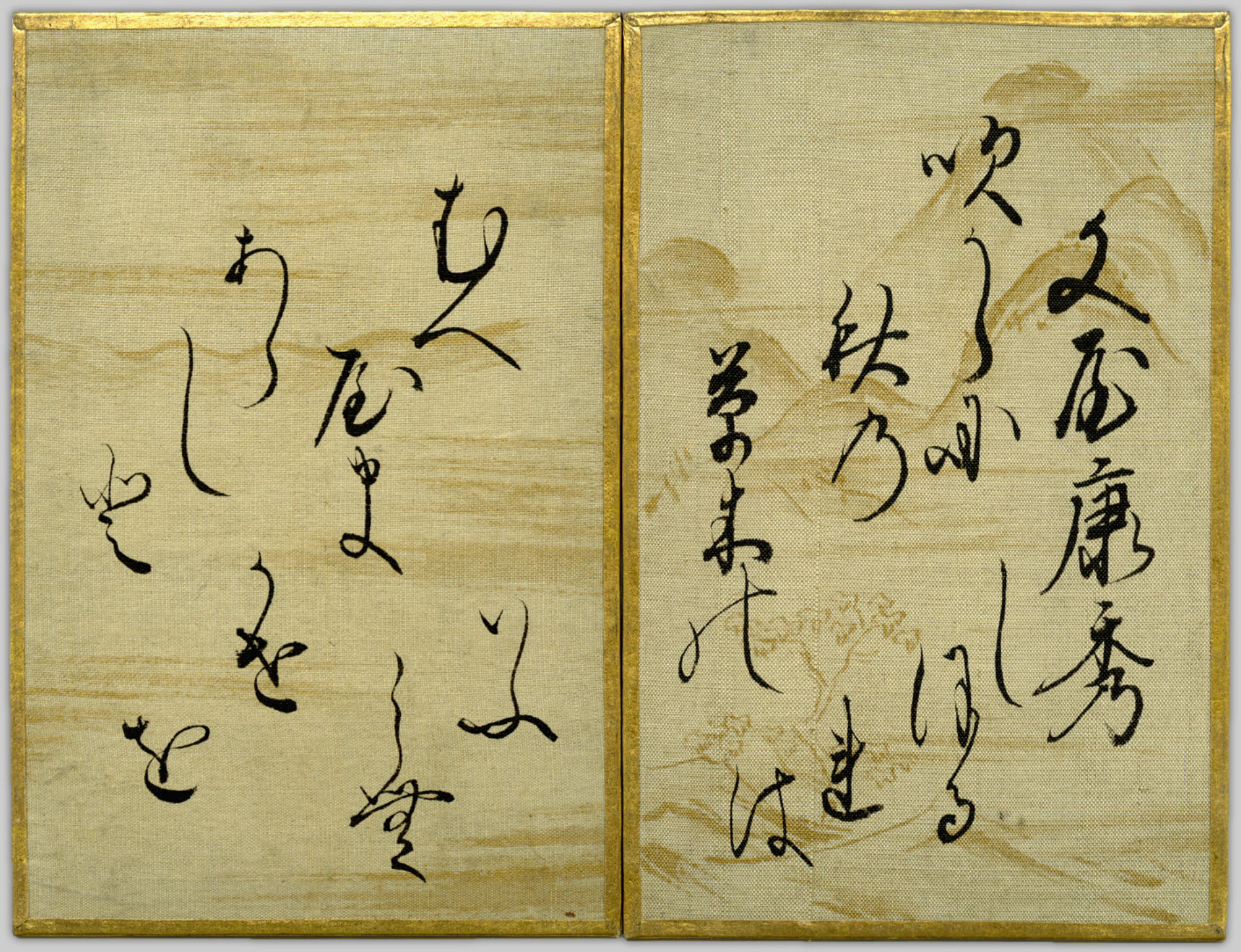
伊勢

難波かた
みしかきあしの
ふし乃まも

すくしてよとや
あはてこの世を

元良親王

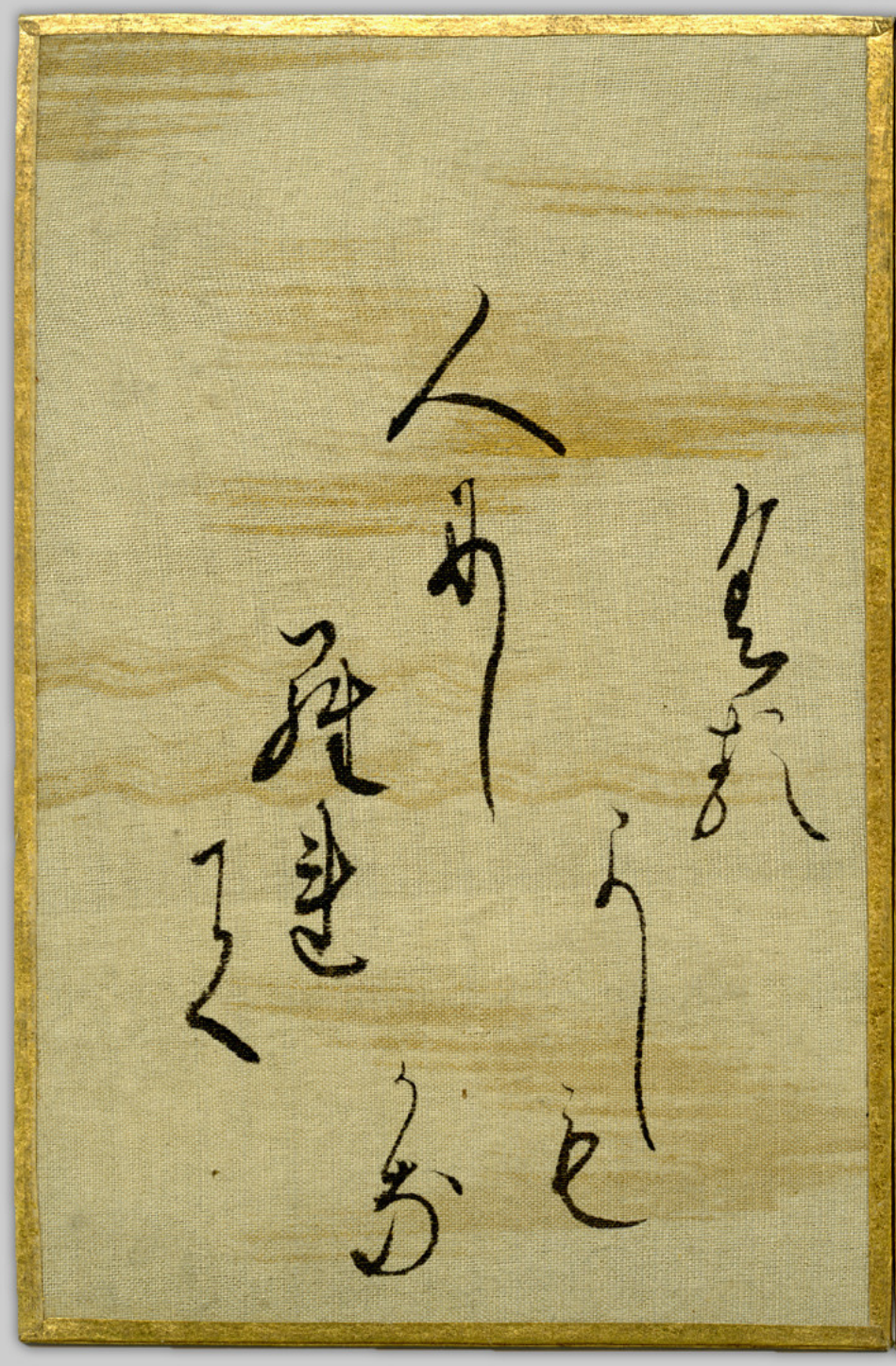


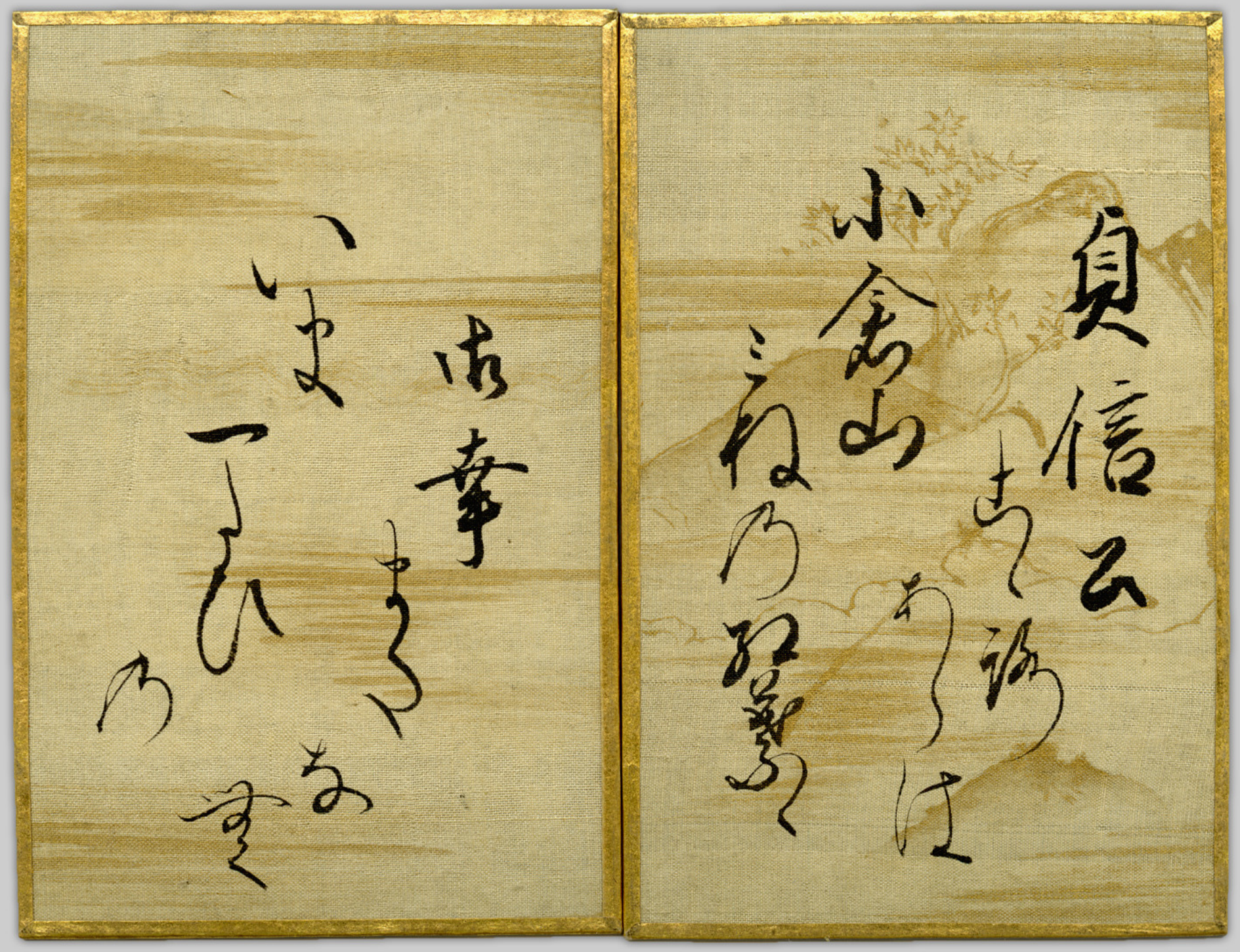


大江千里

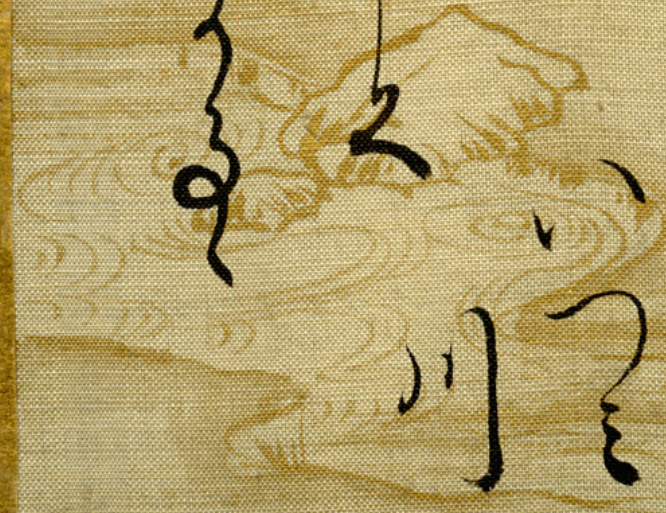
月見れば
ちぢにものこそ
かなしけれ
わが身ひとつの
秋にはあらねど

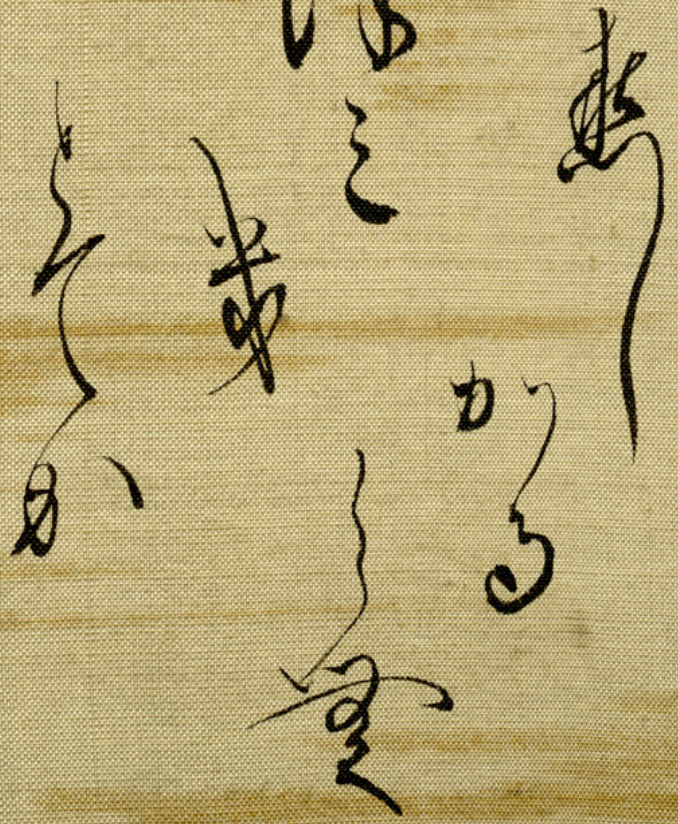
三條右大臣

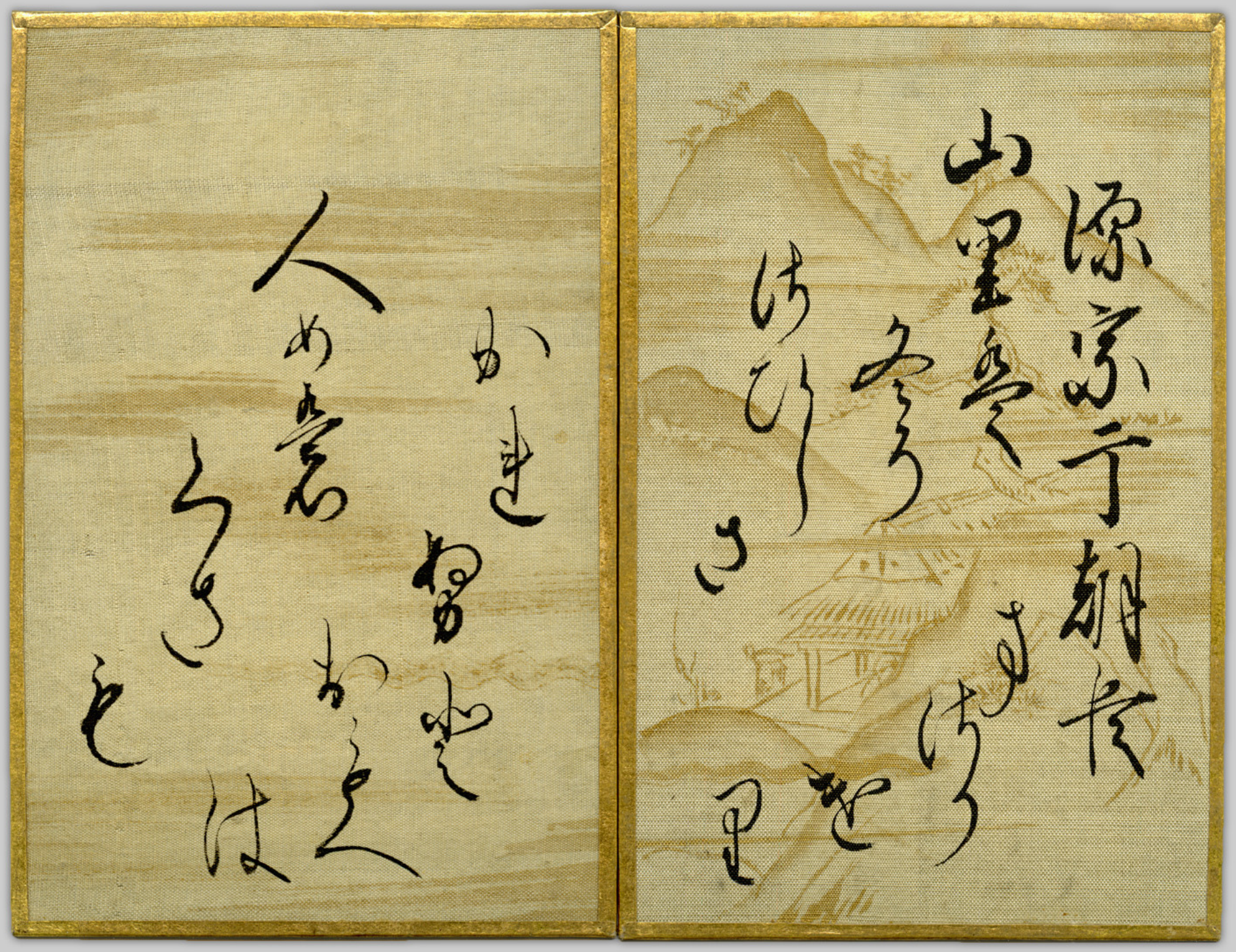


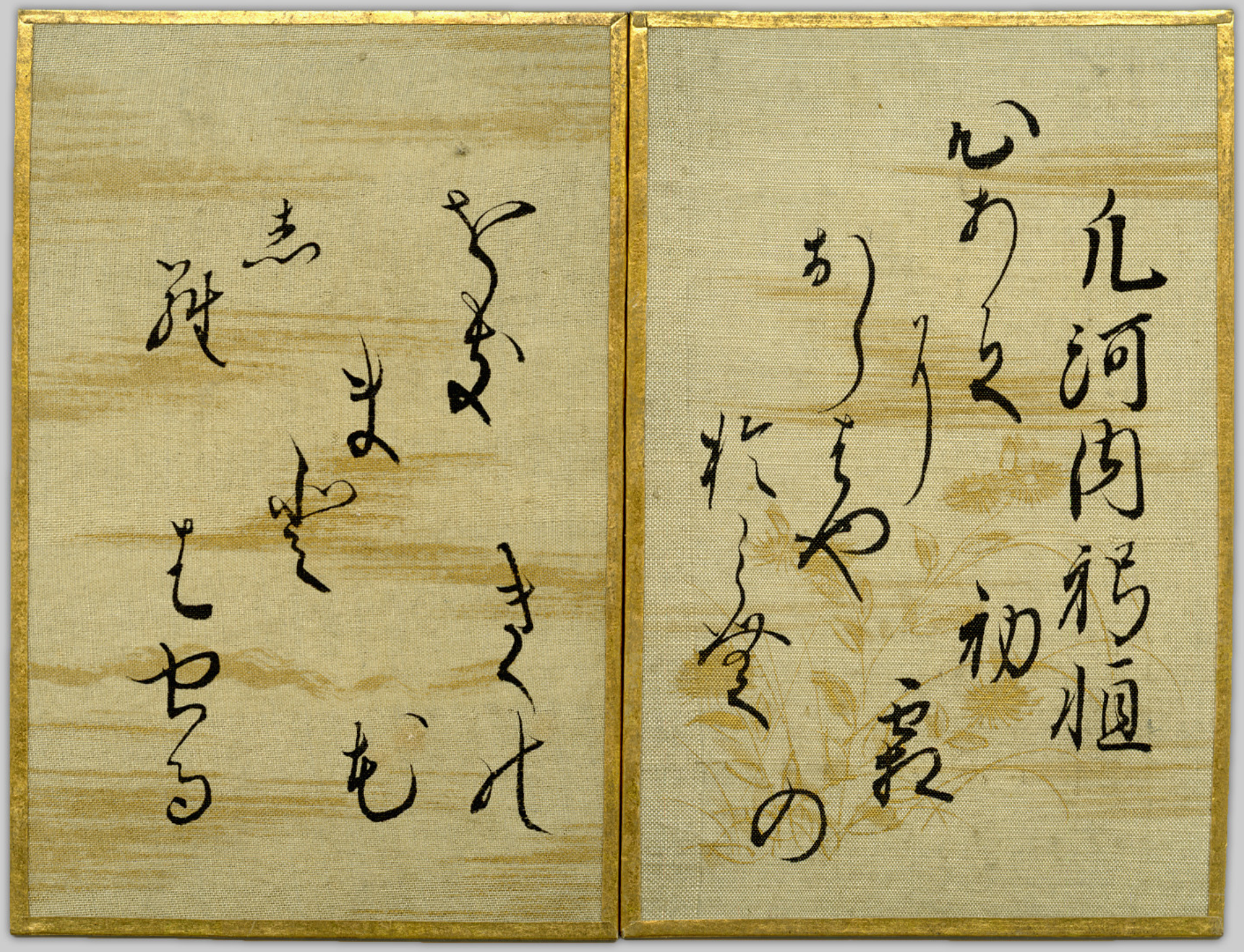


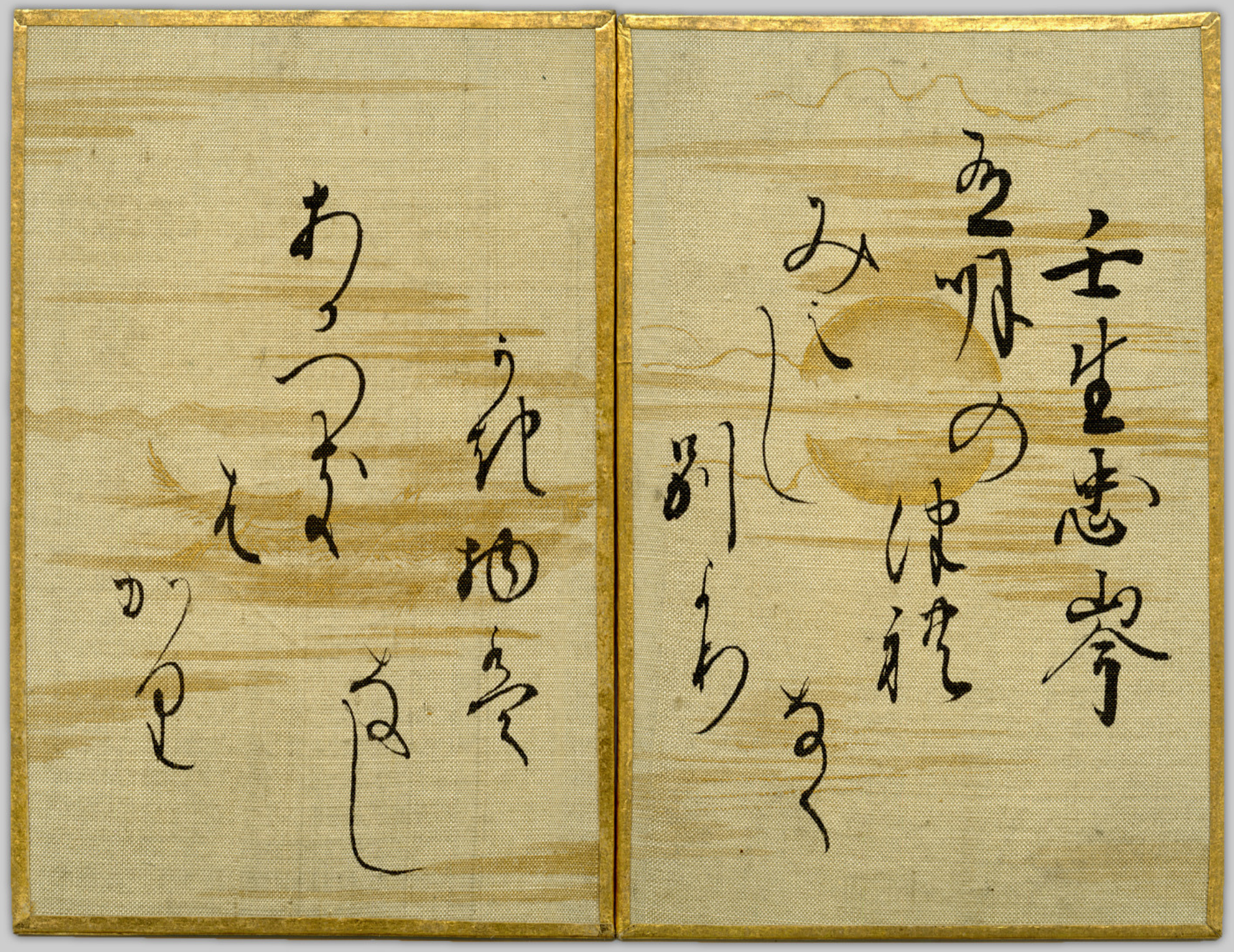
中納言兼輔
みの原
はなれ
なる
川



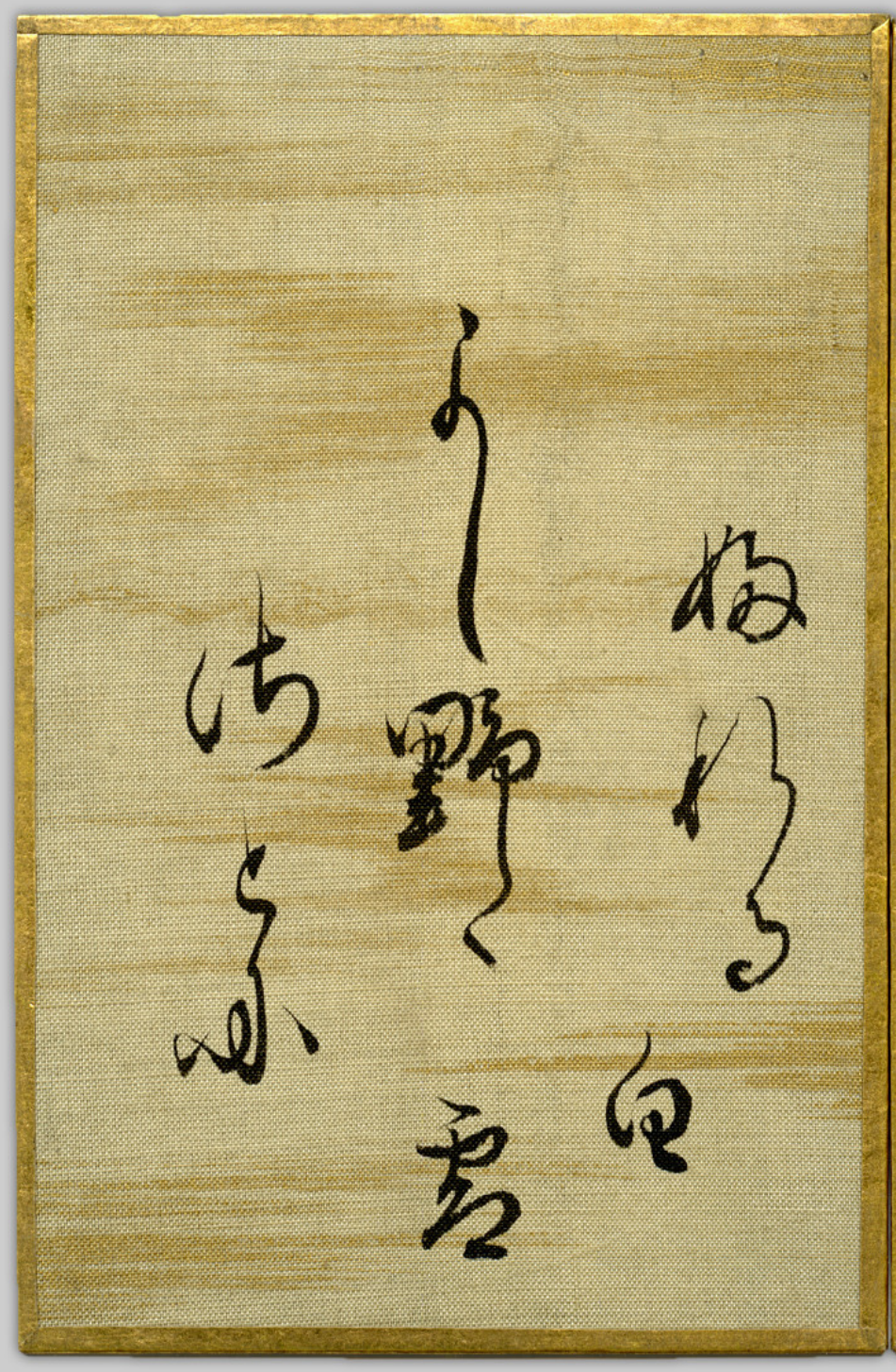








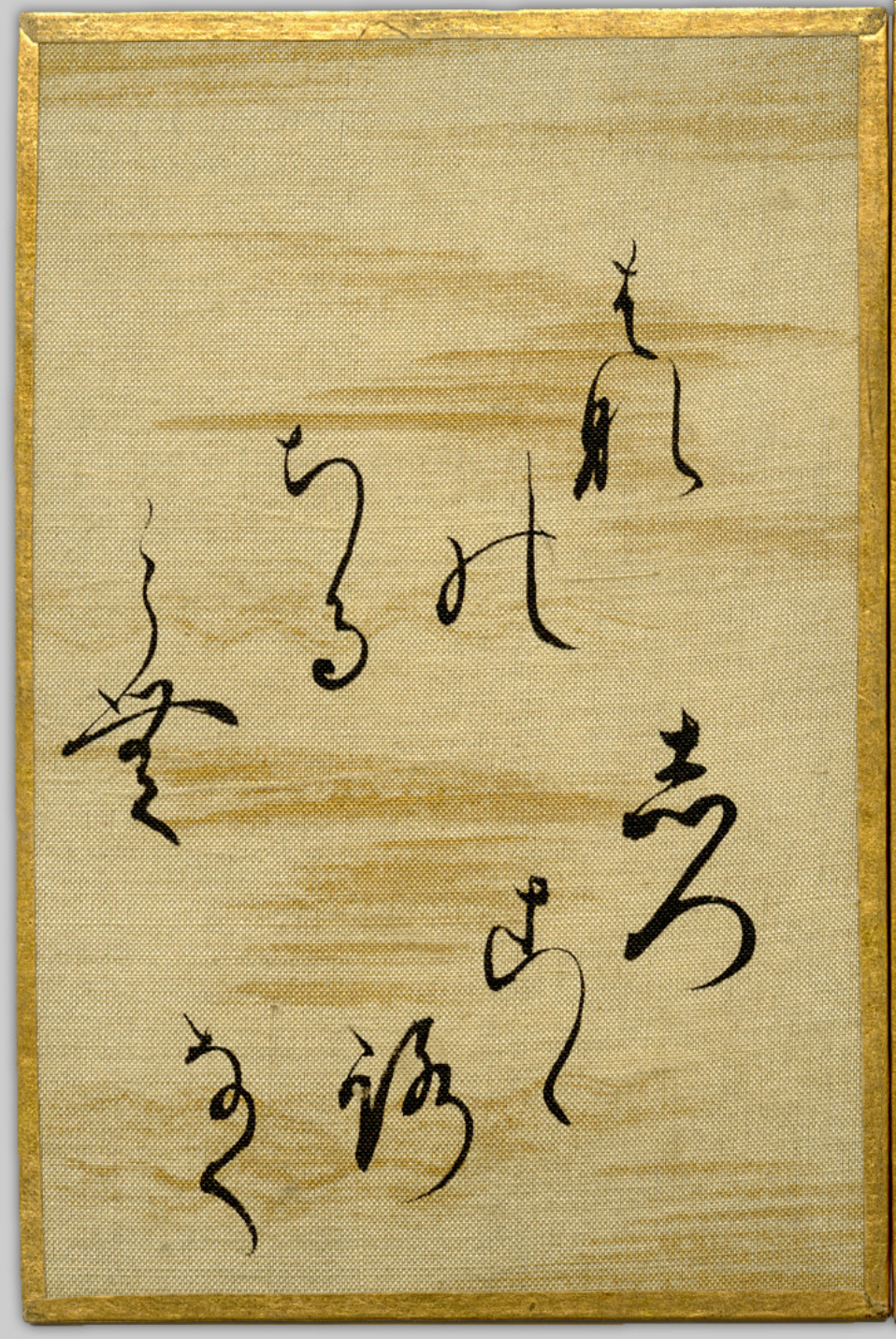
坂上是則

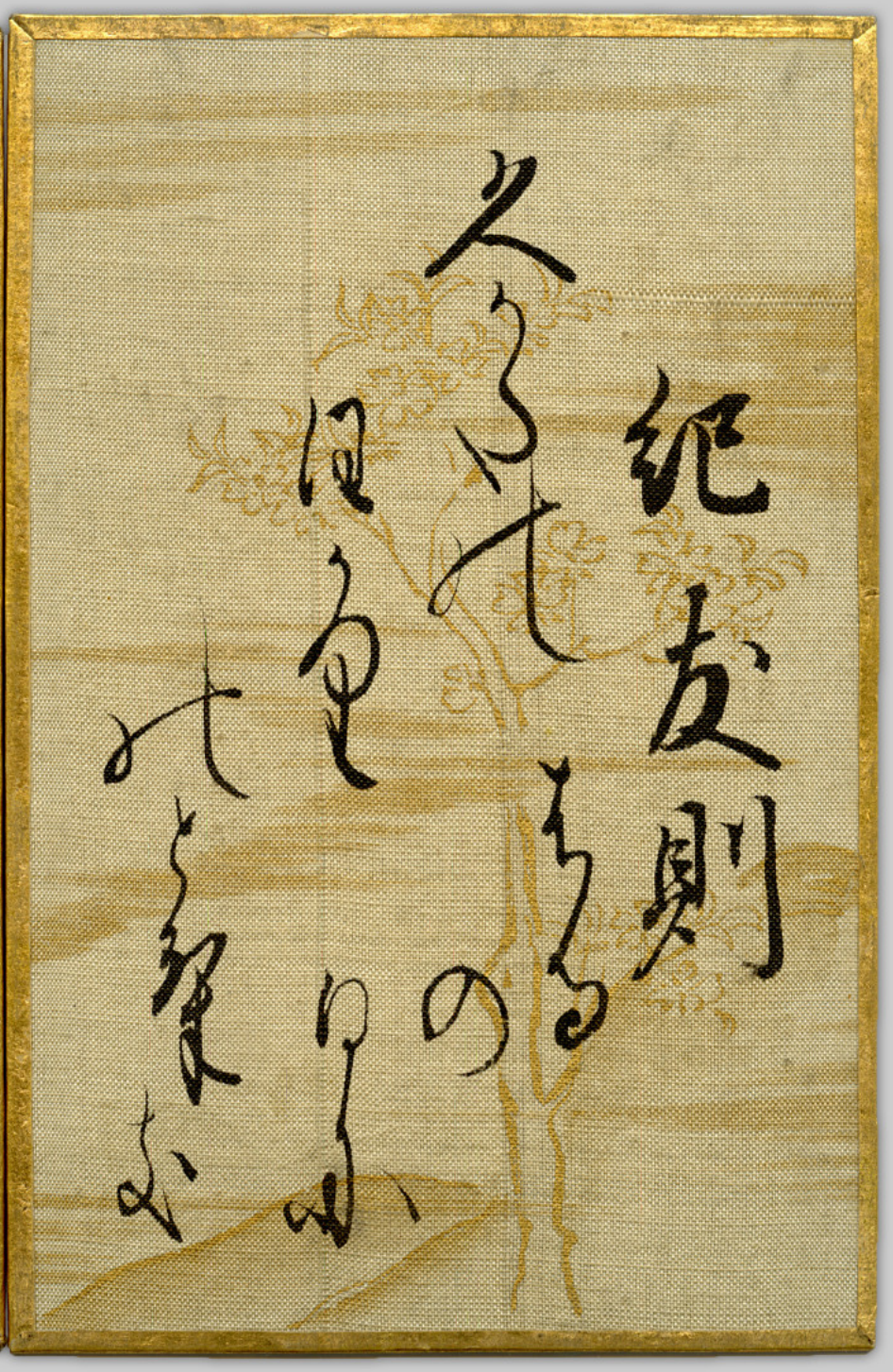


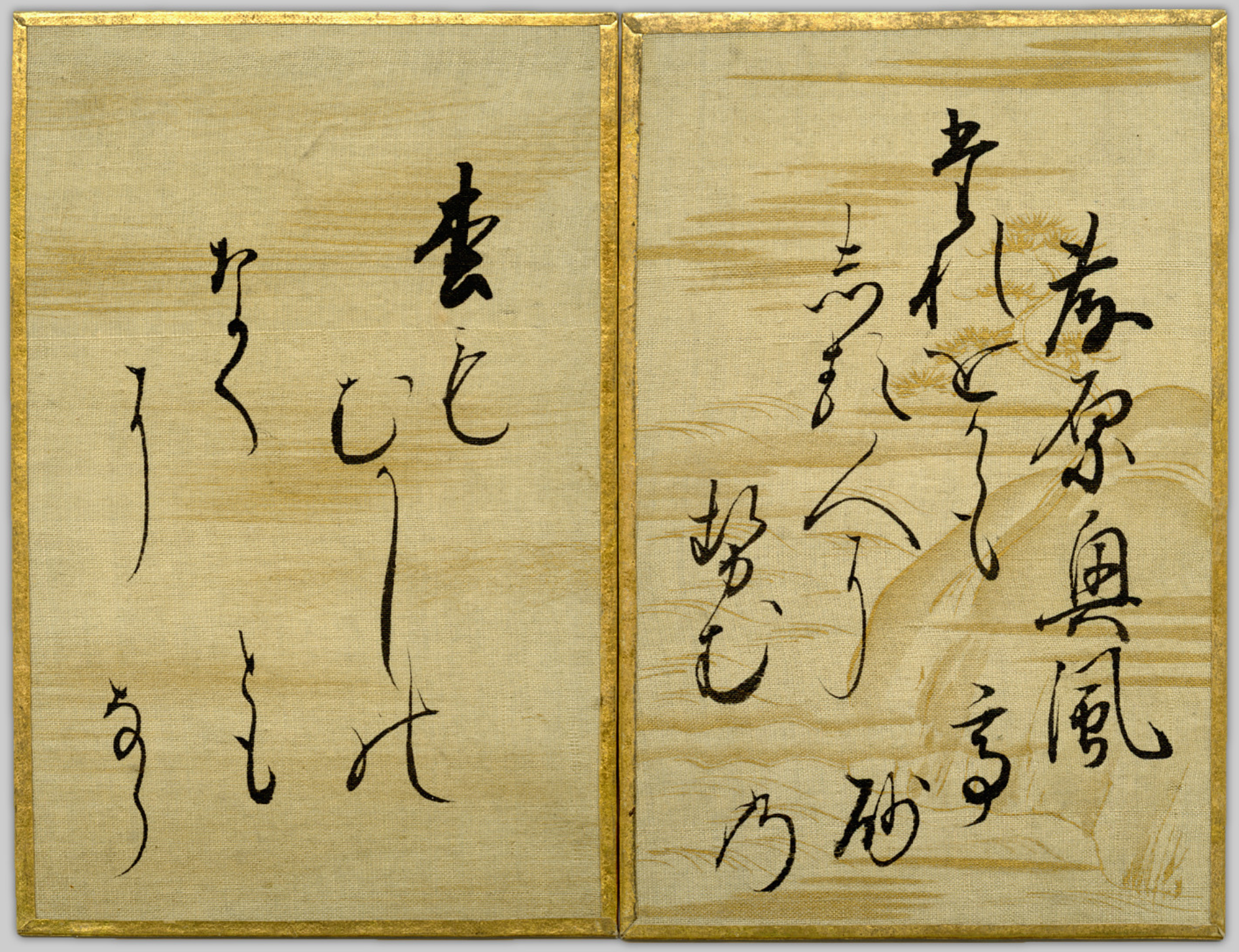
春道列樹

山川に風のかけたるしからみは

なかれもあへぬ紅葉なりけり

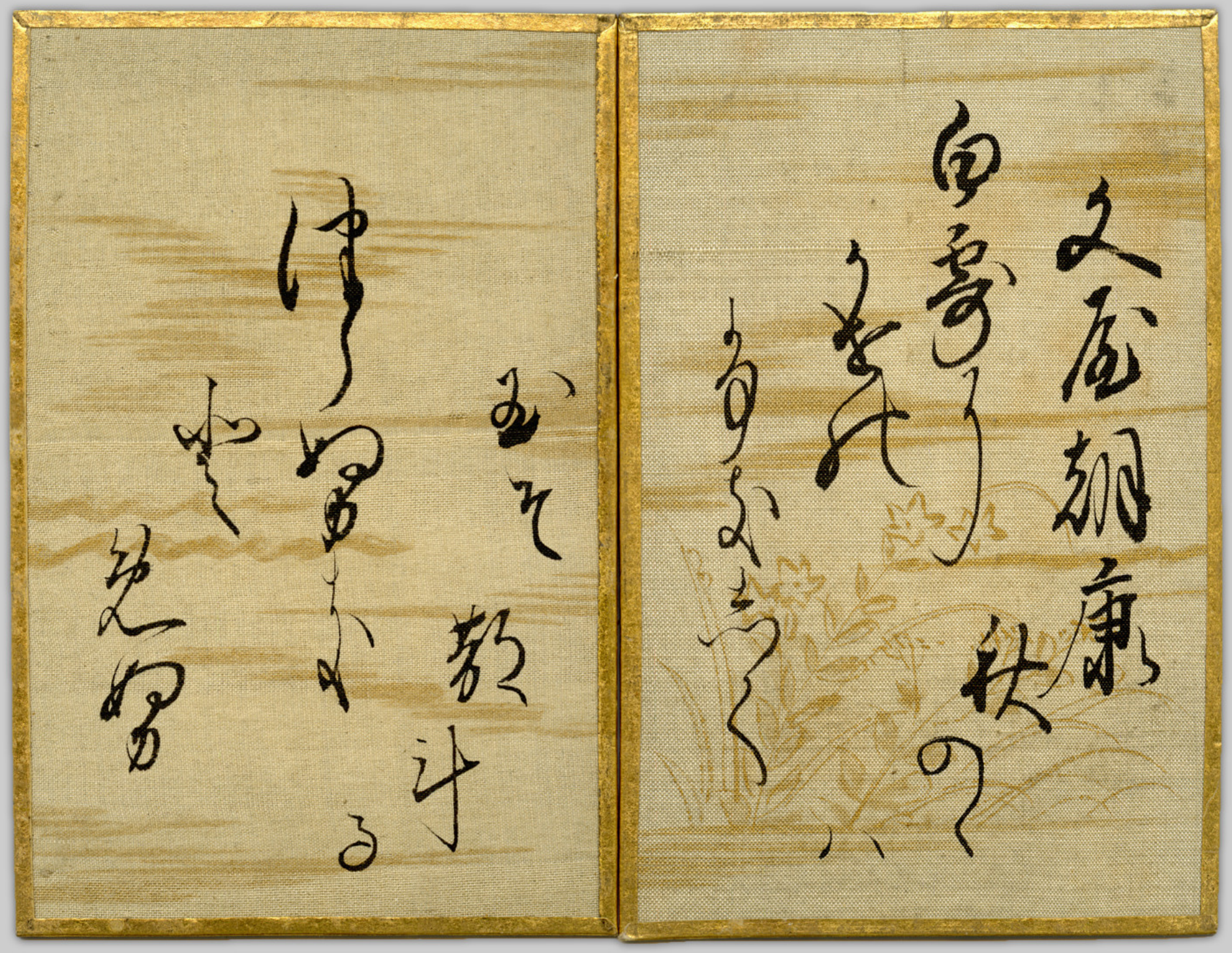






清原源豊父
文代東はあを
ゆるゆるゆるを
ひかりかりを

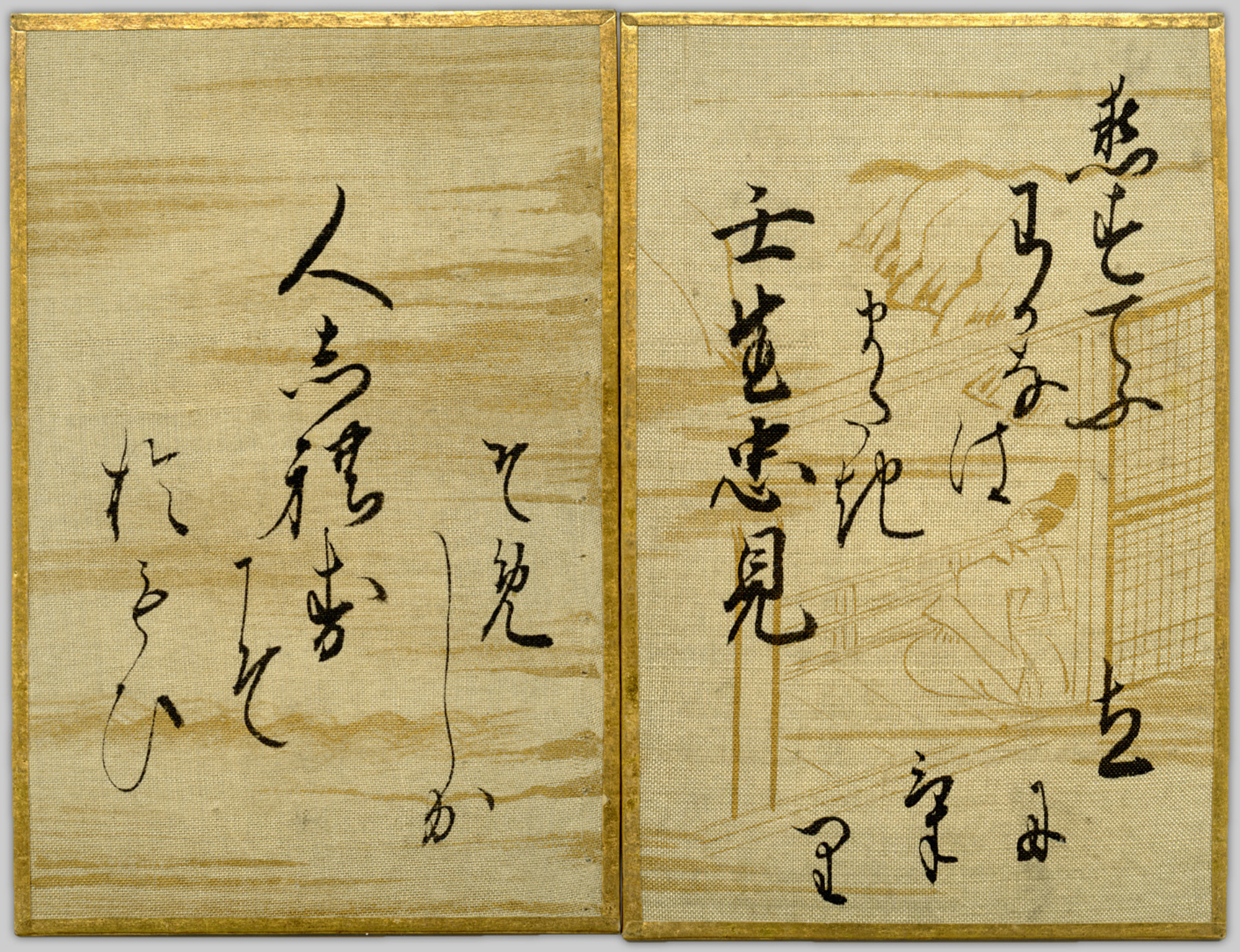
雲路やとる
いふ津を
月こり



参議等

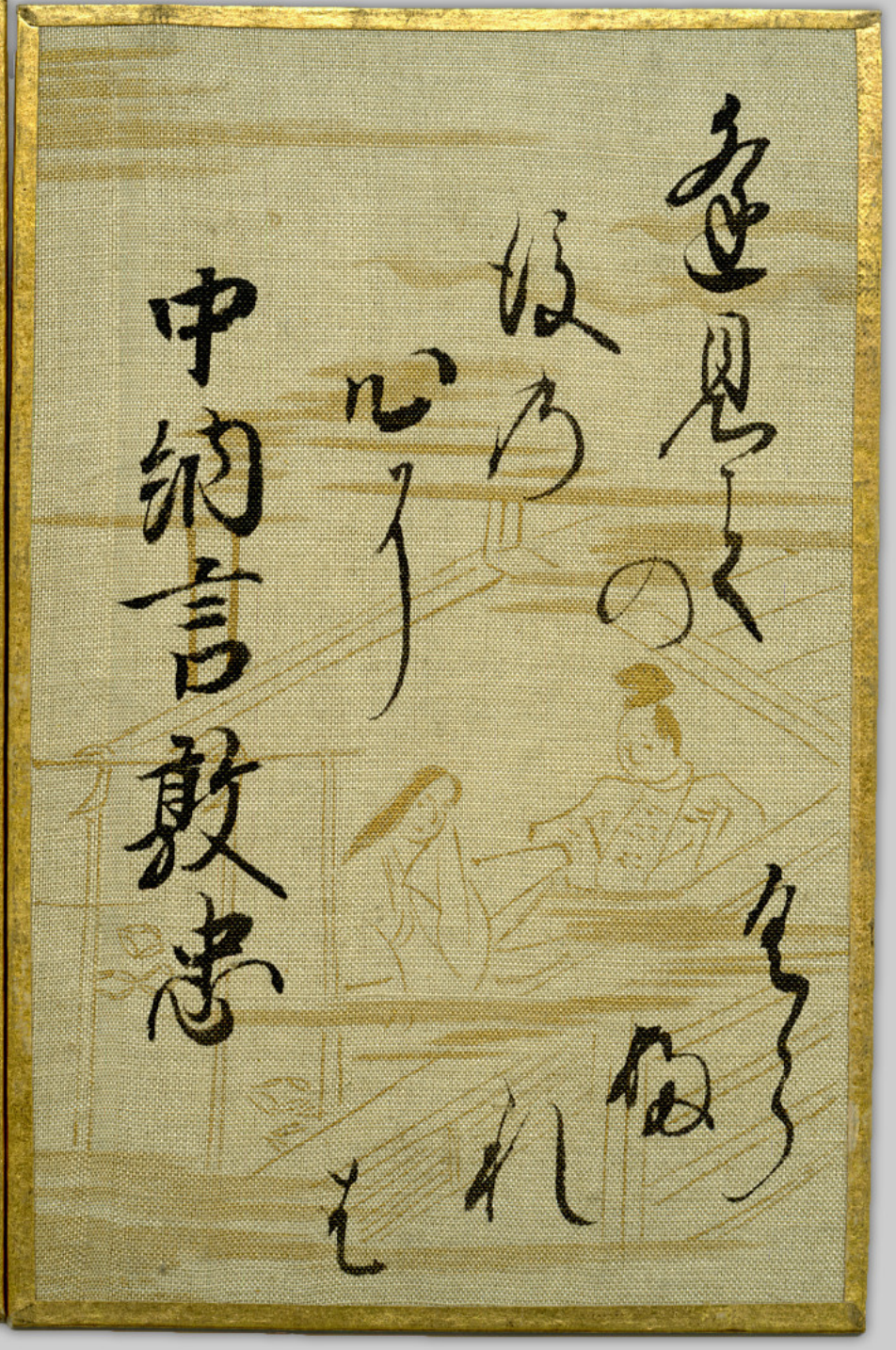
浅茅生の
をの
志乃原
志のふれと

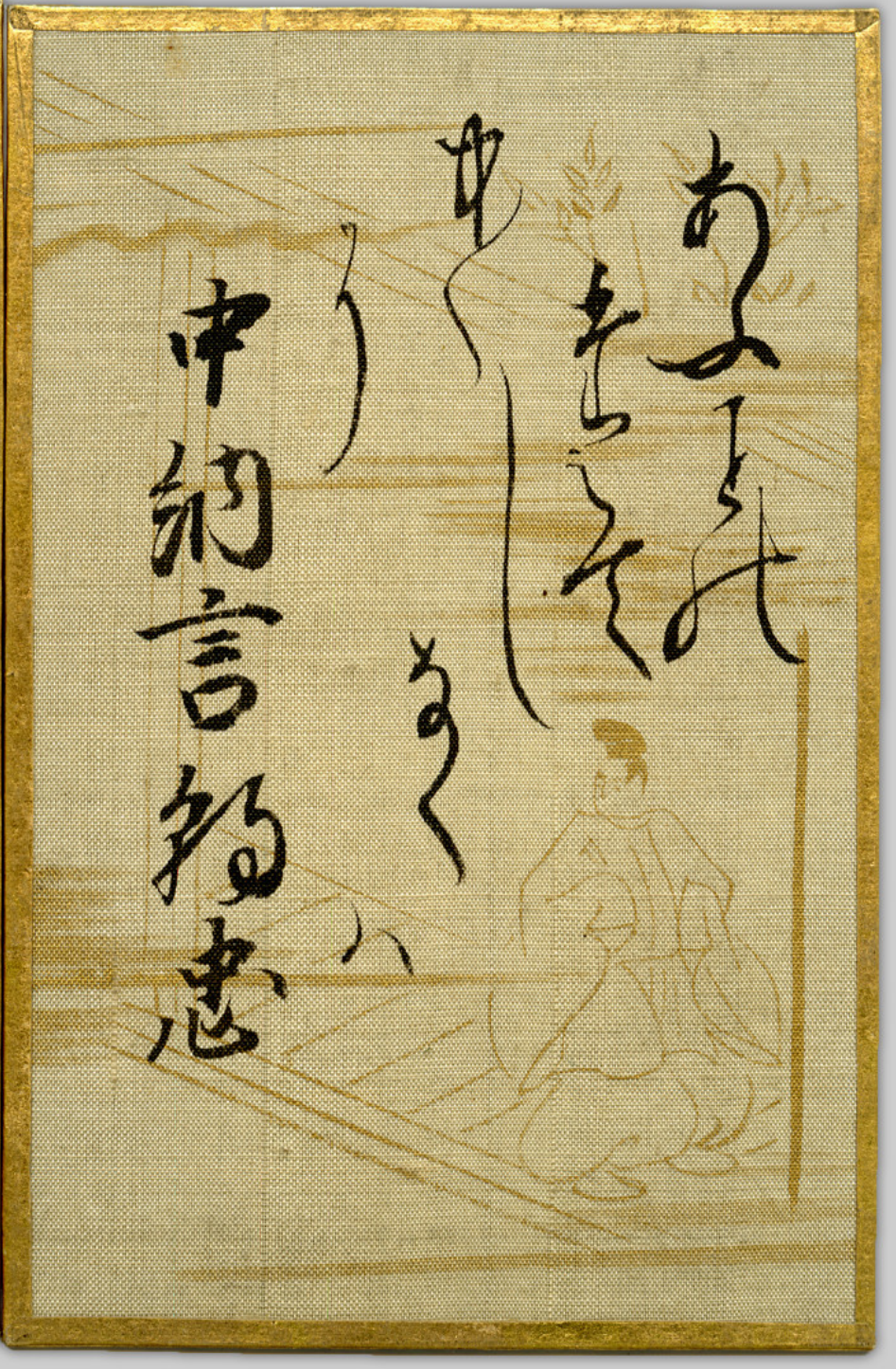
あまりて
なとか
人の
恋しき

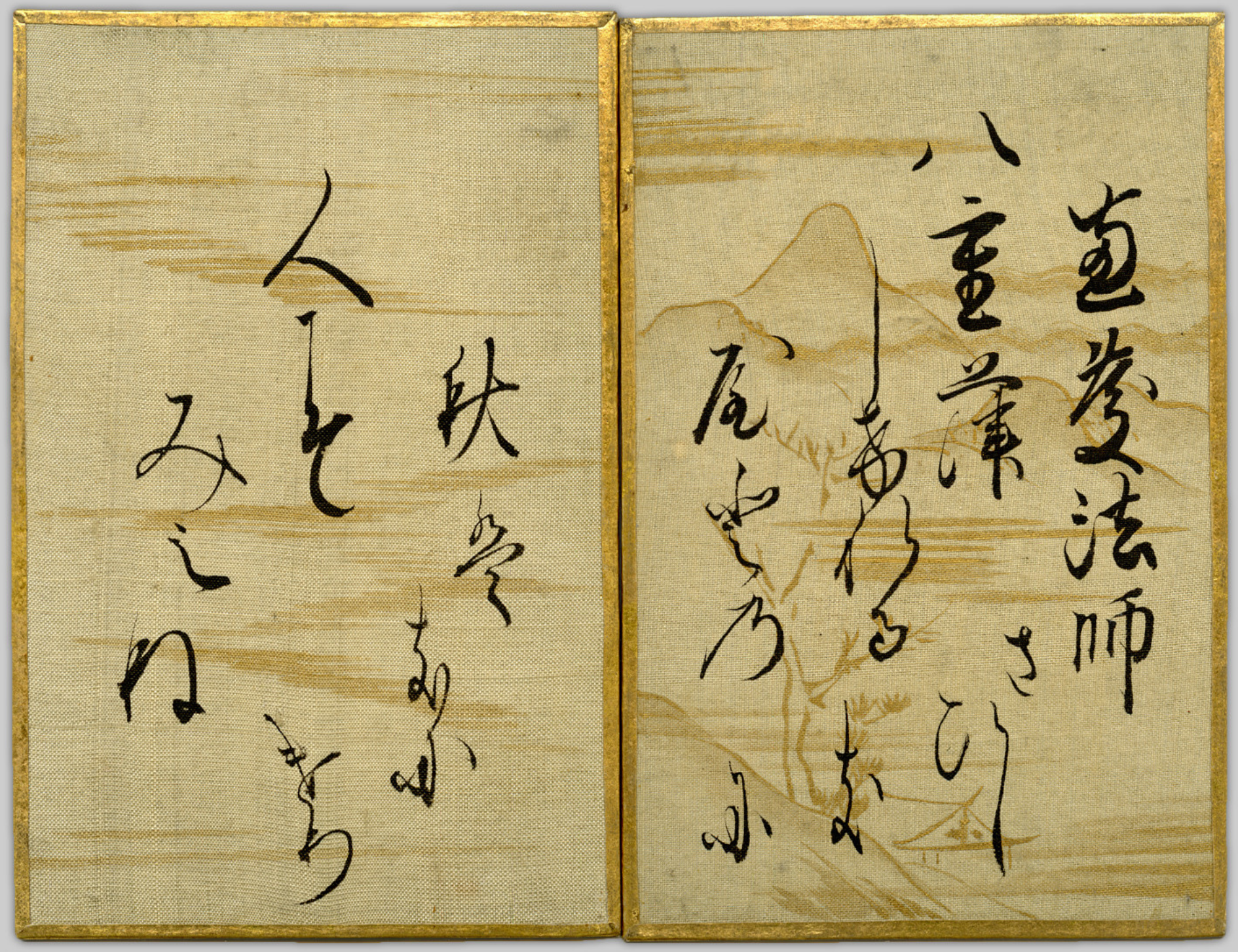


清原元輔

契りきなかたみに袖をしほりつゝ
末のまつ山なみこさしとは

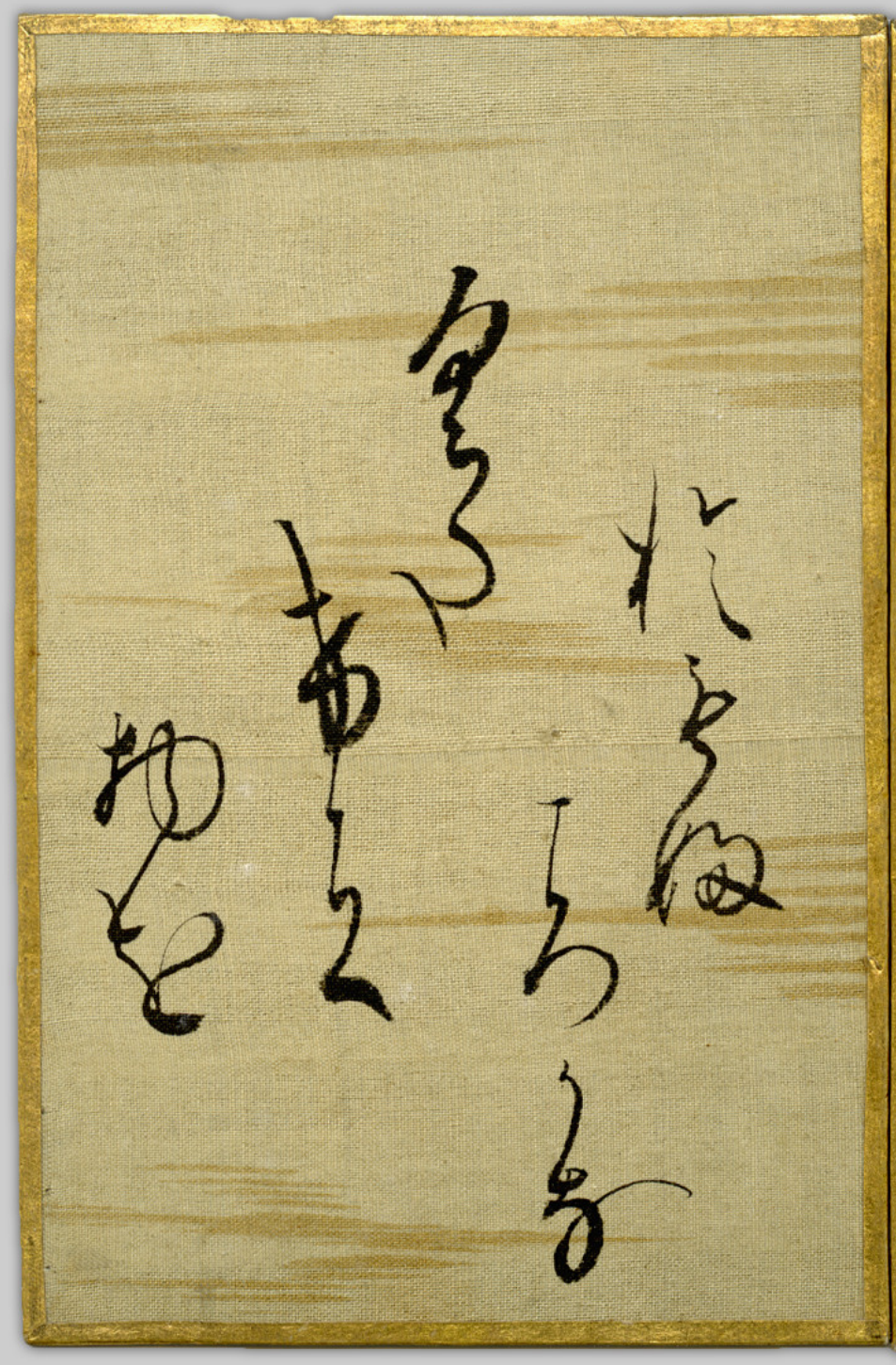






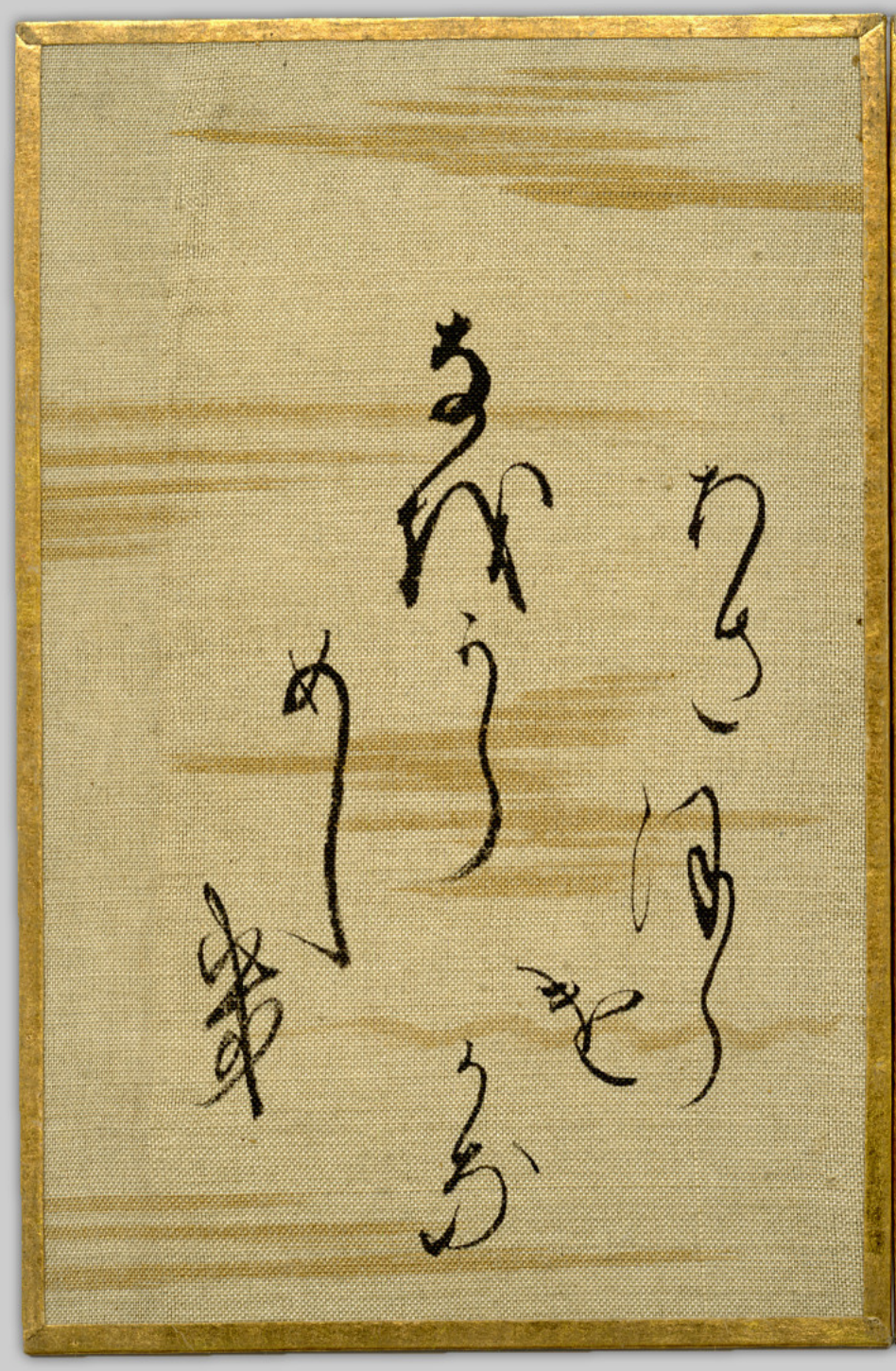
源重之

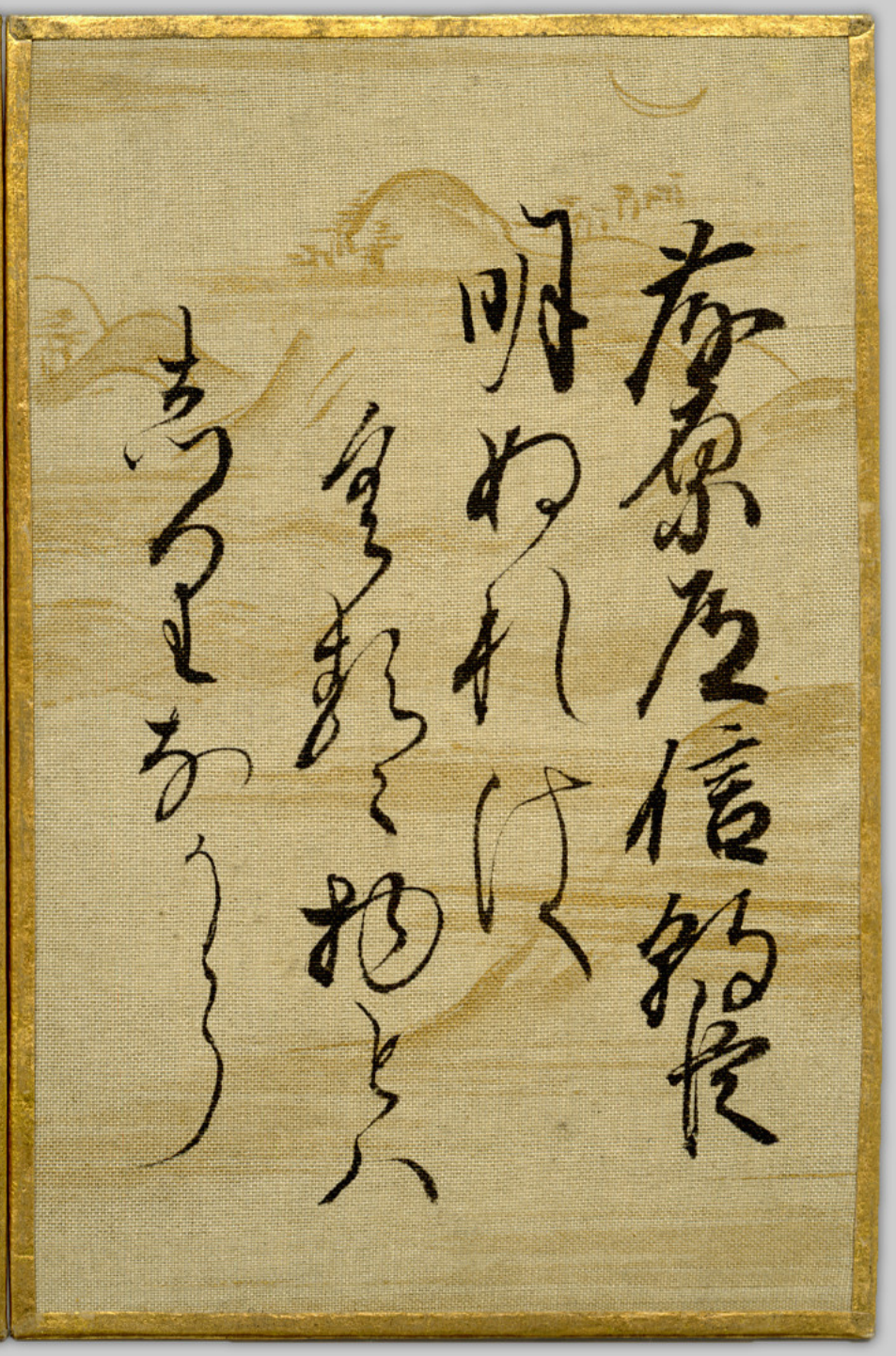
風をいたみ岩うつ波のおのれのみ



大中だ能宣朝だ
清垣の事
清士乃
東八 年く
も無く 火の

柄をしそ
おも
元る冬
弟元へ
清く





右大将為綱母
なきなくはくて
元とあ事ぬるあの
あくあくおく
まの八

いふ
元
あのとも
しるか

儀同三司母

忌れ乃ふ

しくあへきれ

はかなく

八

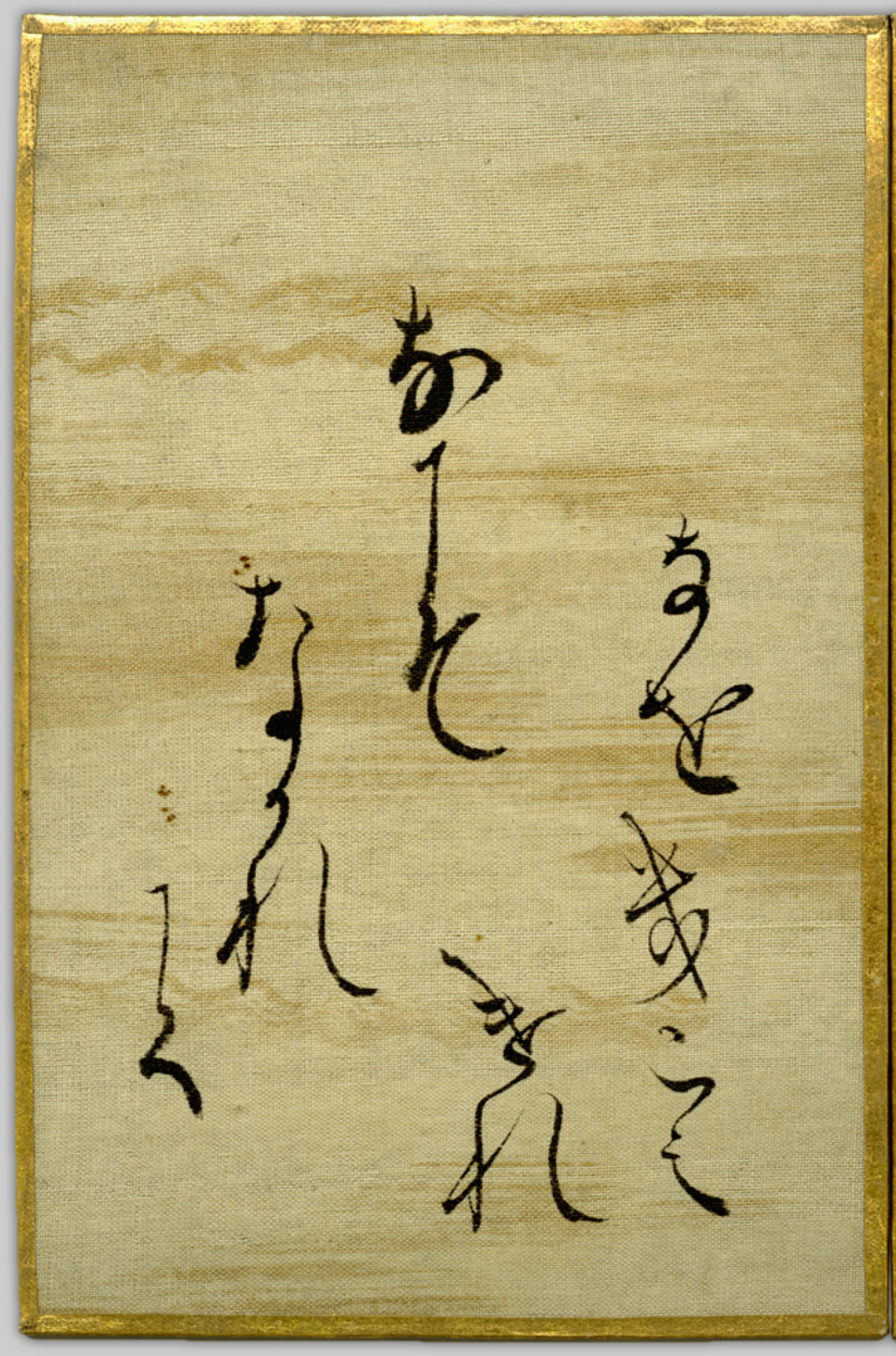
あまをとも

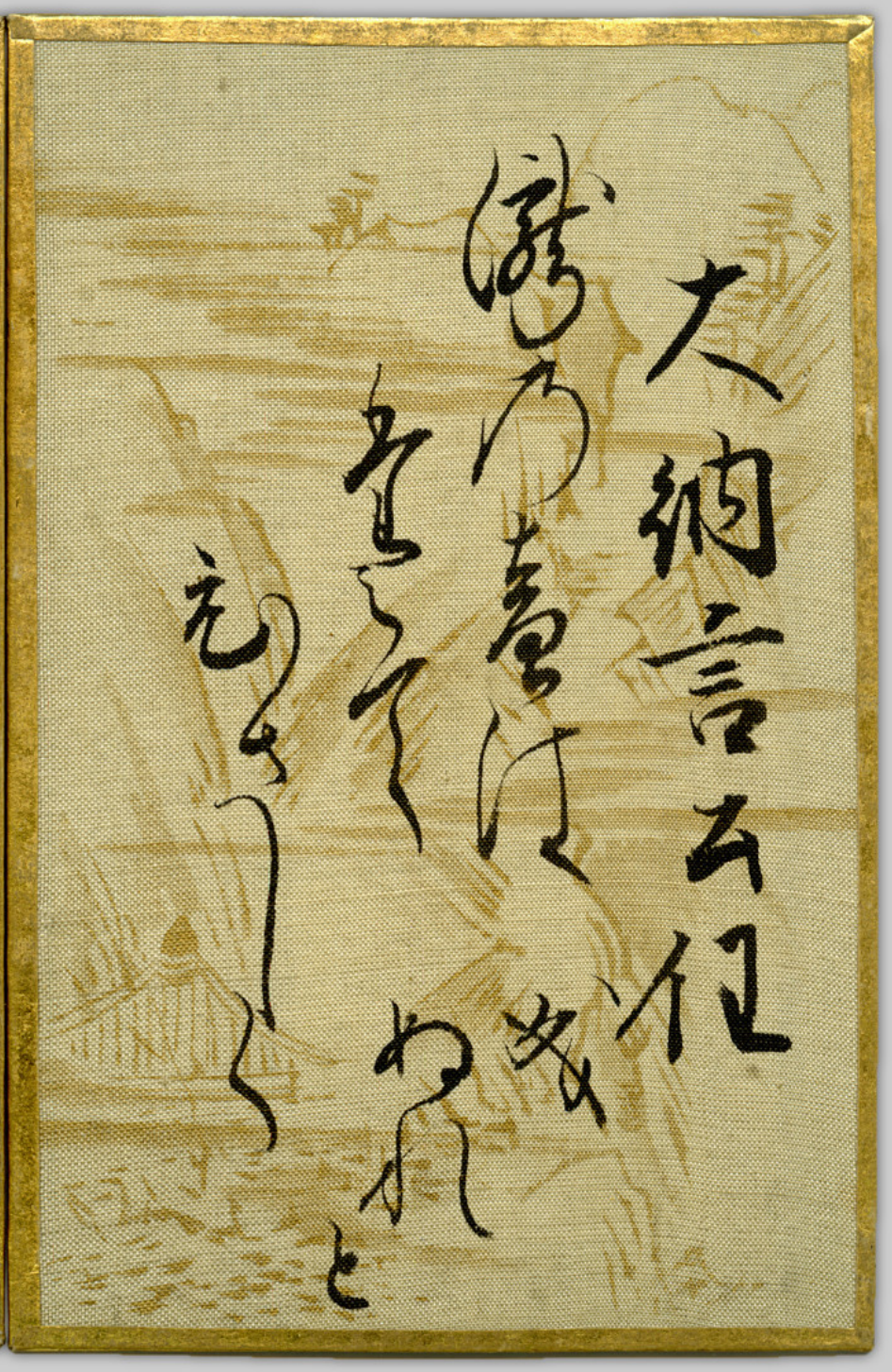
かなり

ゆるもち

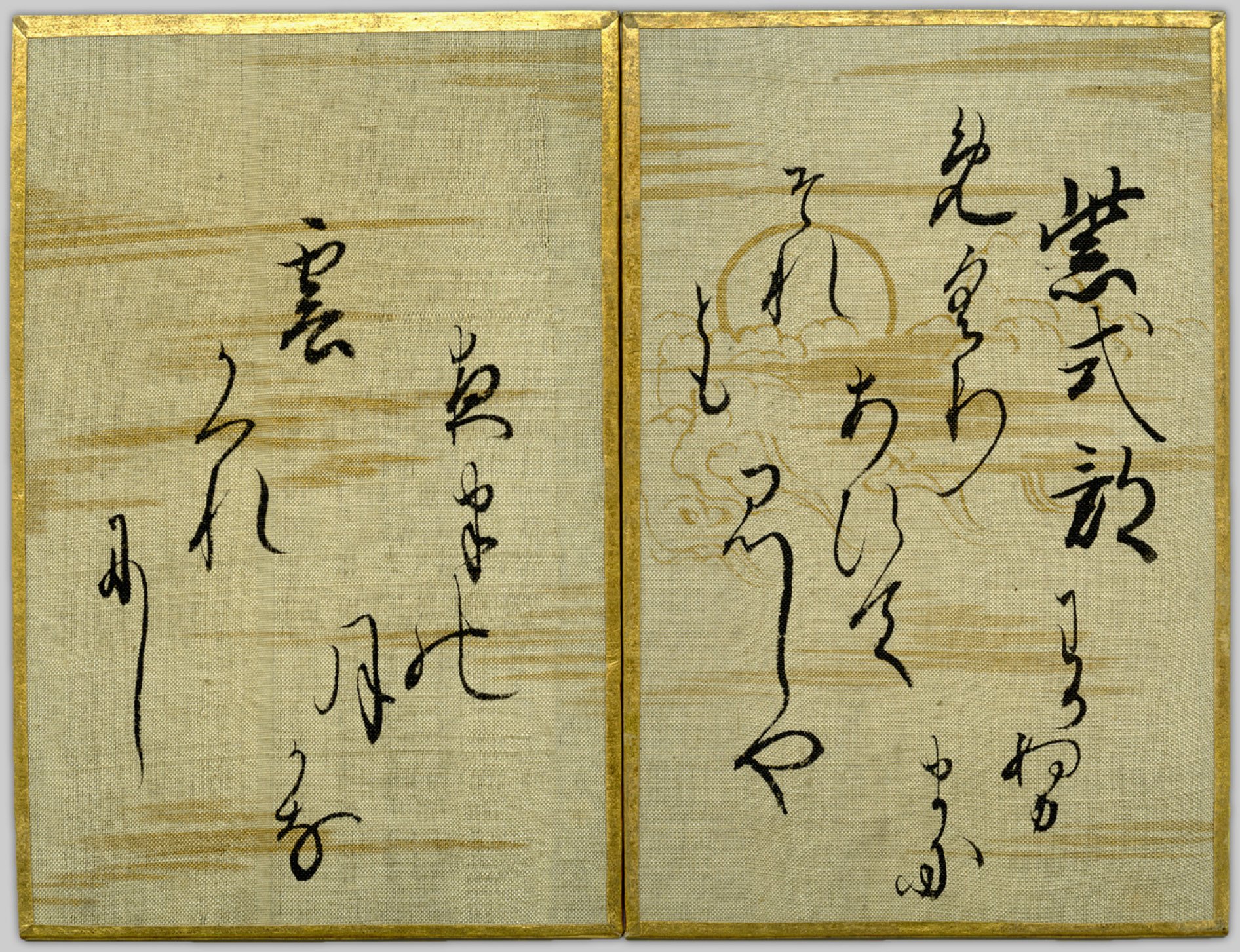
余

九





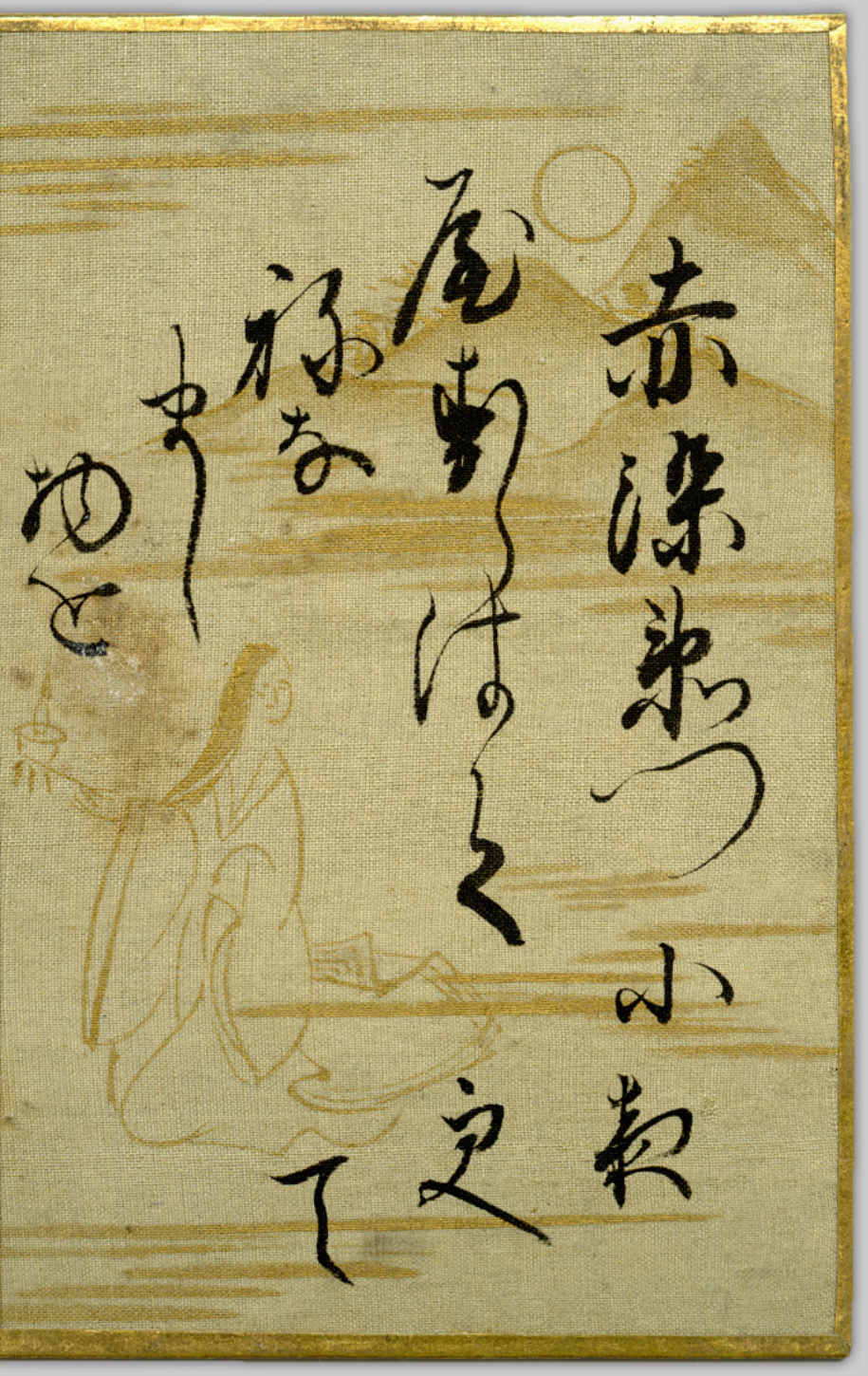
和泉式部

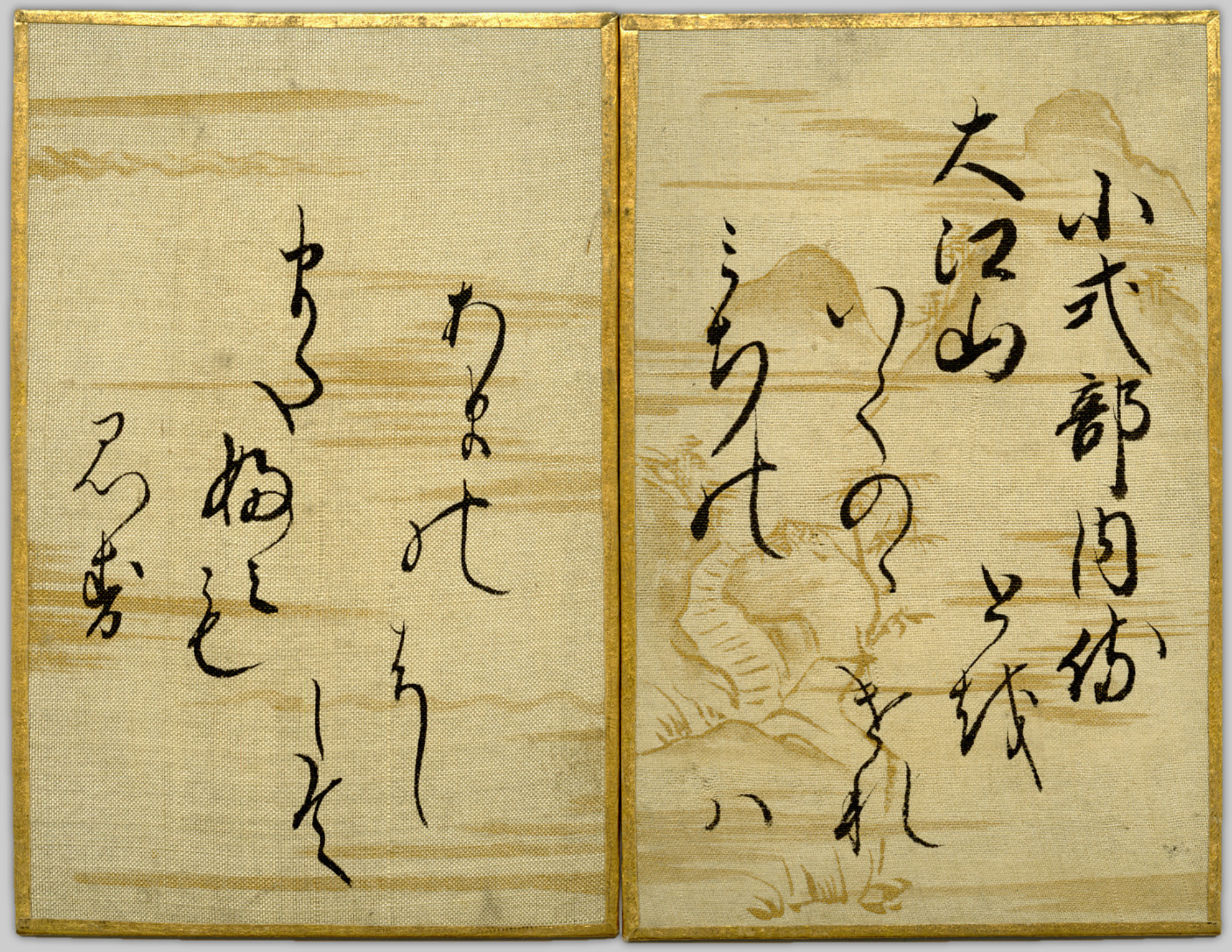


大貮三位

有馬山
いな乃
さゝ原
かせふけは

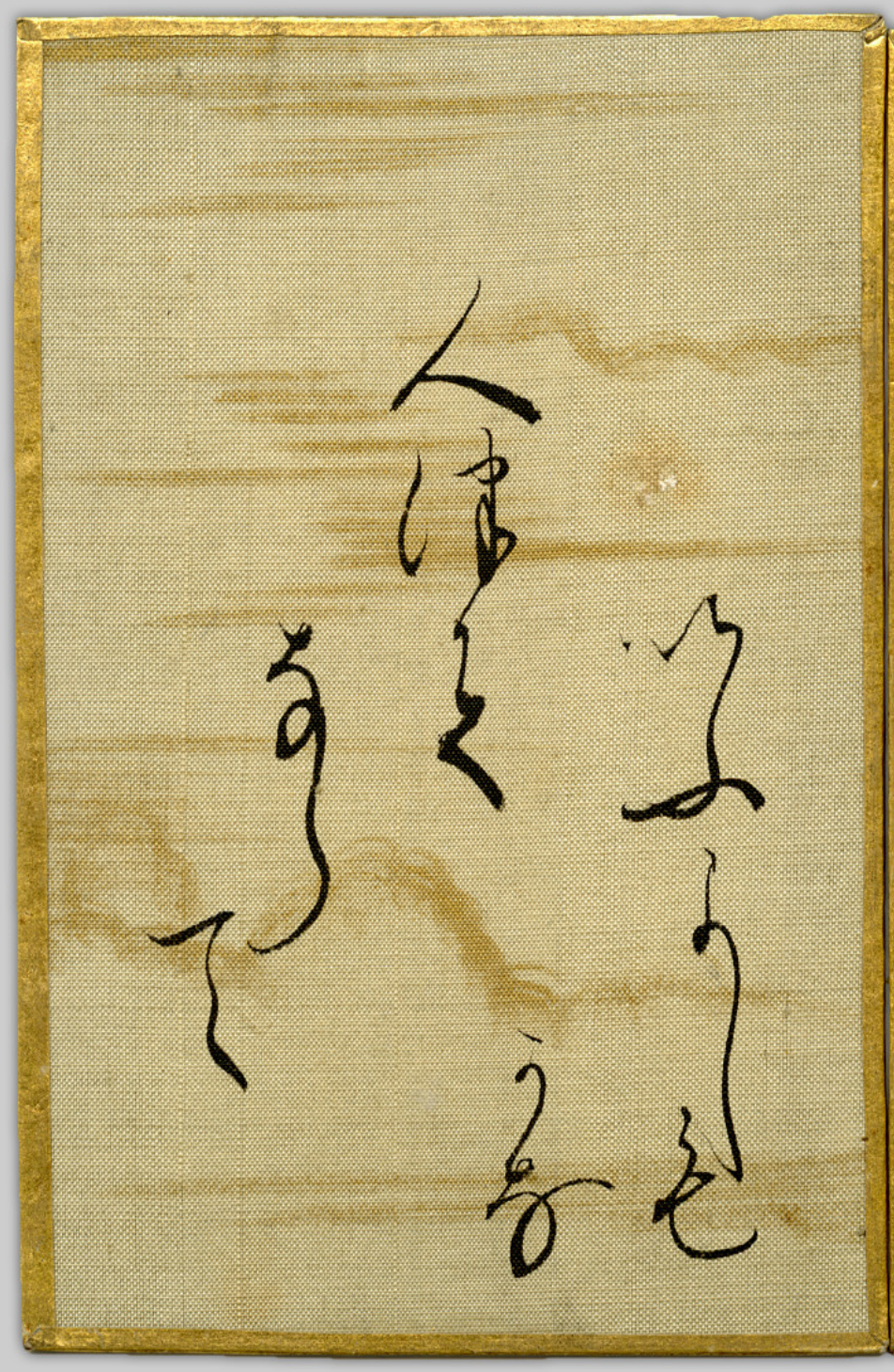
わすれや
いてそよ
人を
はする

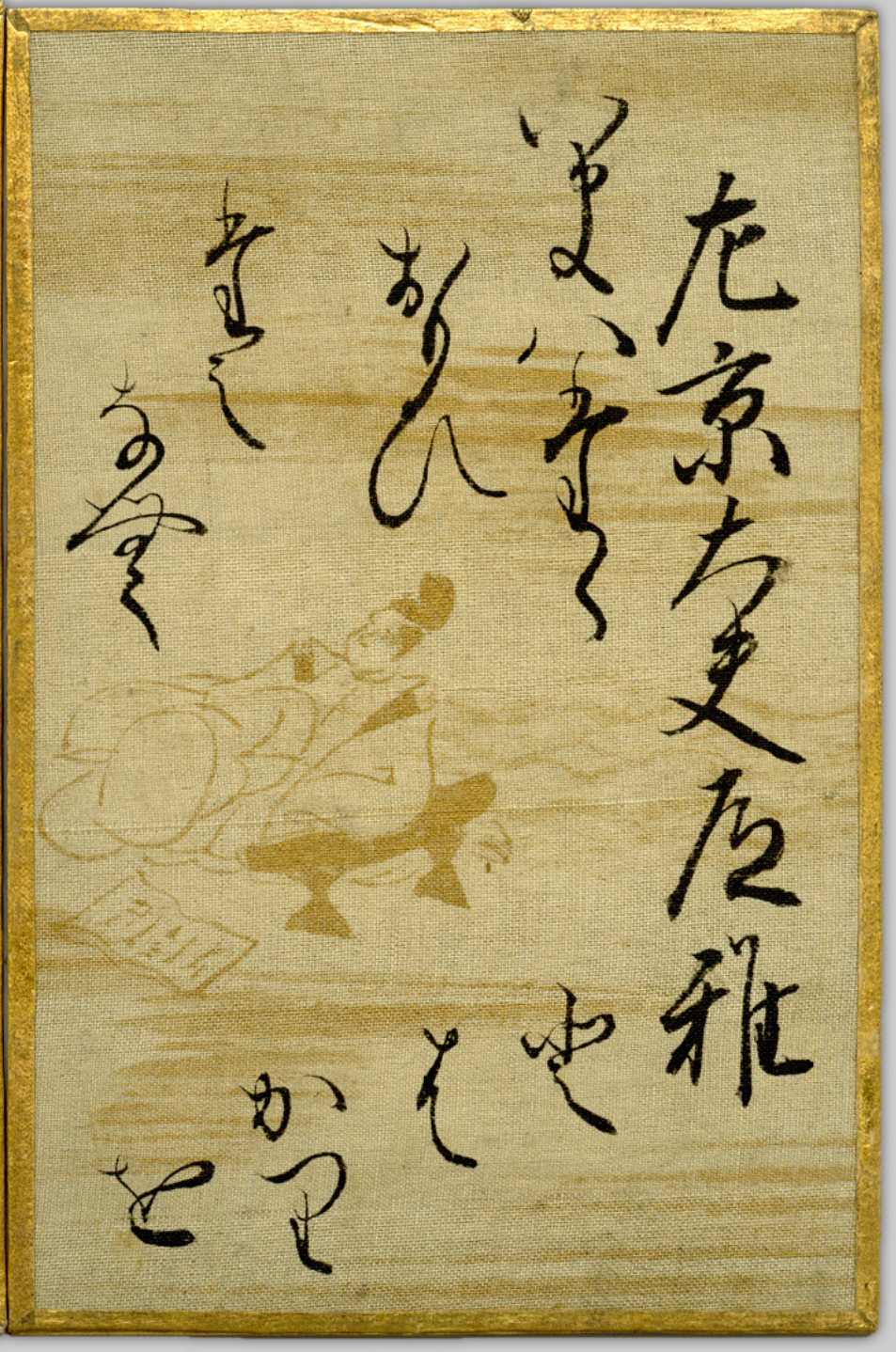


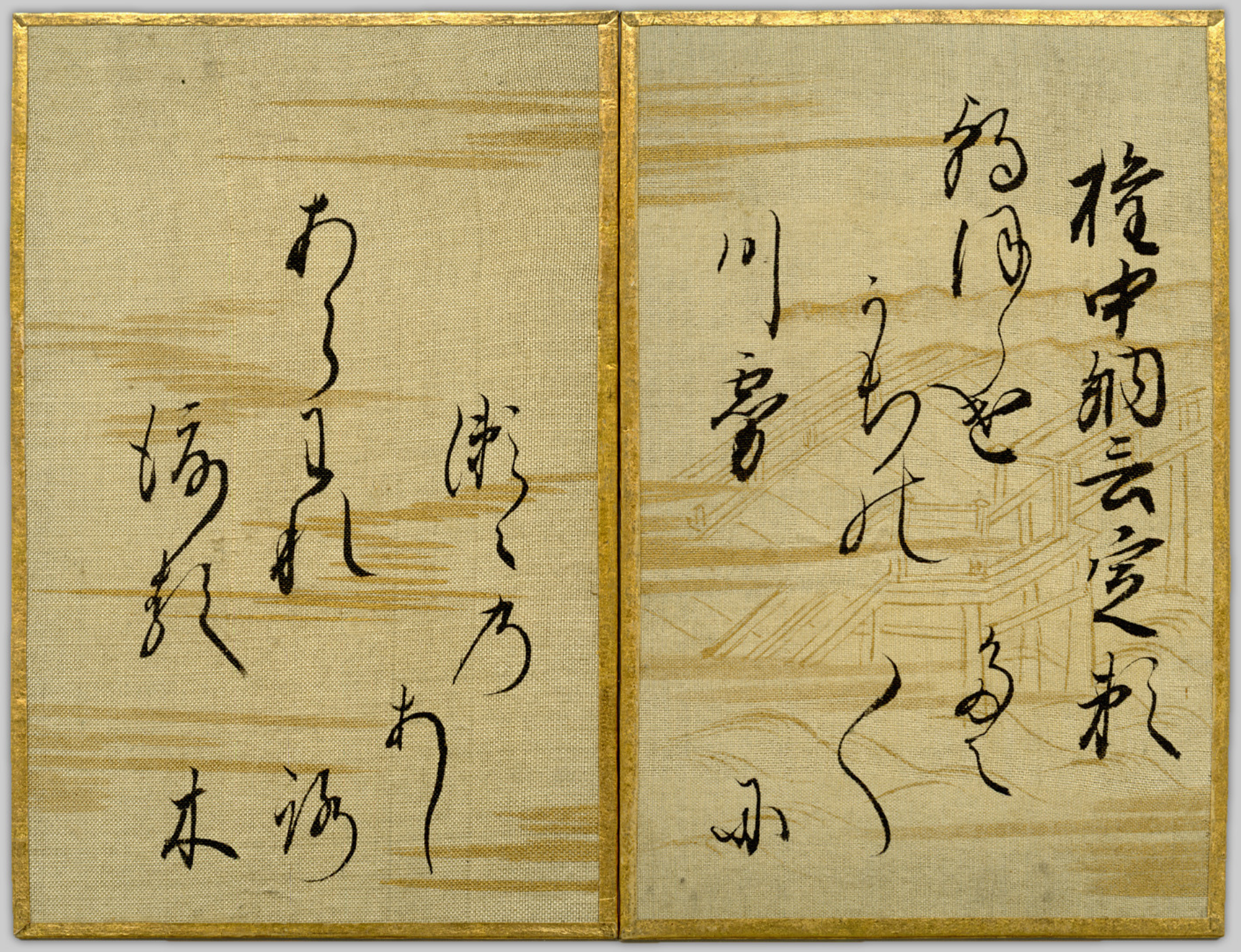


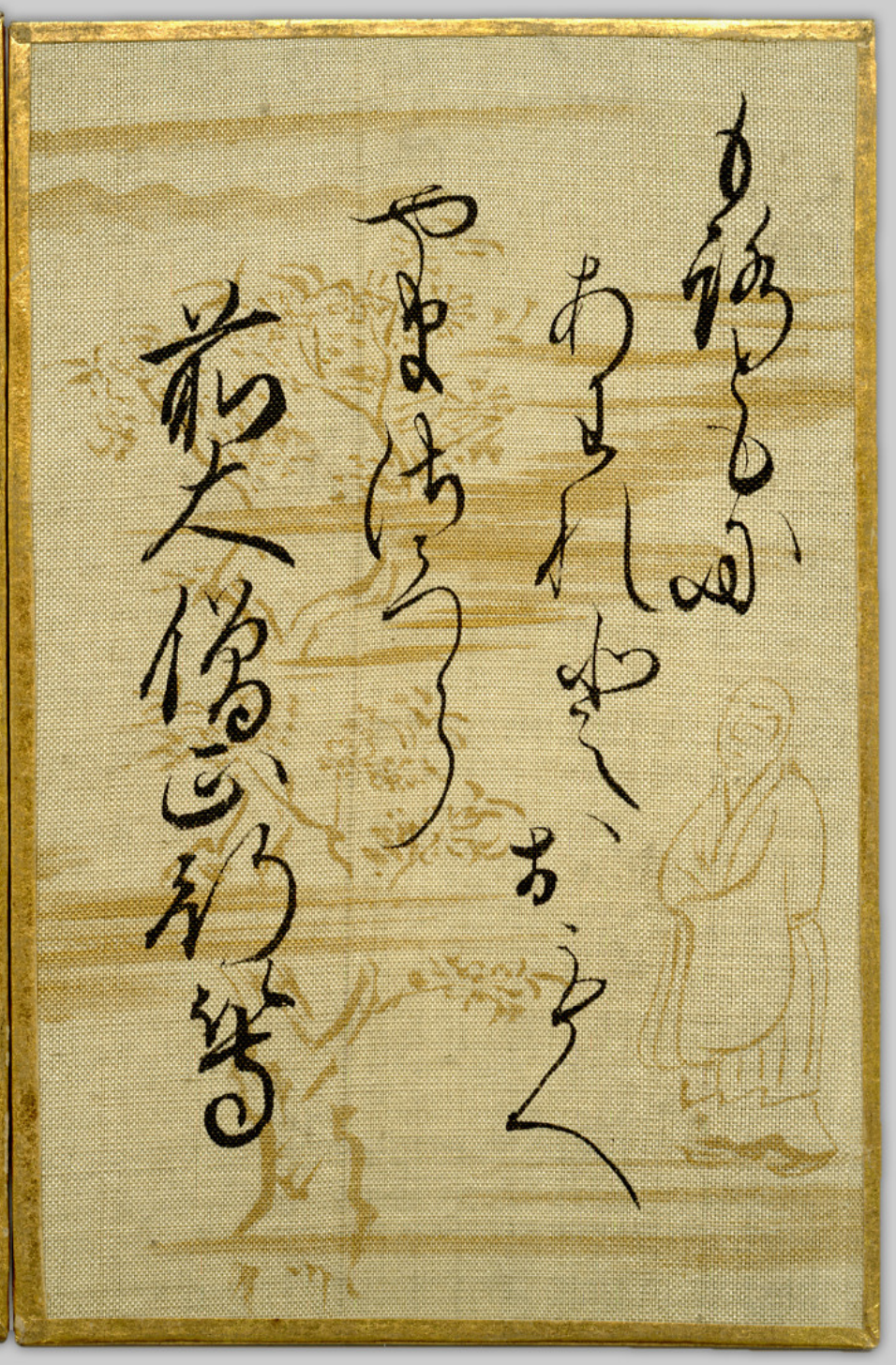
伊勢大輔
明人乃八重
なるの
ことわ
ゆこそ
うさ

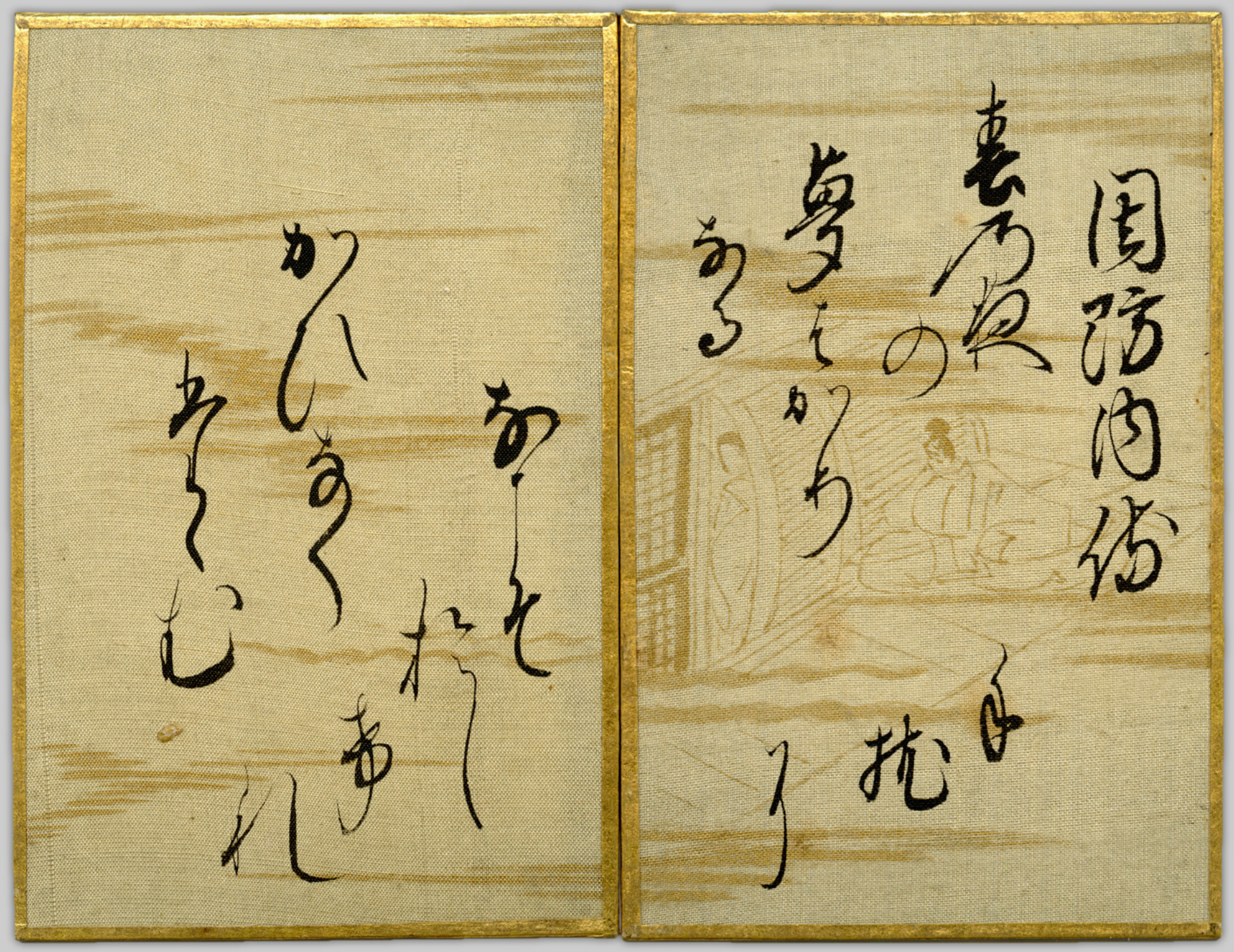
自ひ
寄る
ふ
九重
く











三条院

心にもあらでうき世にながらへば

恋しかるべき夜半の月かな

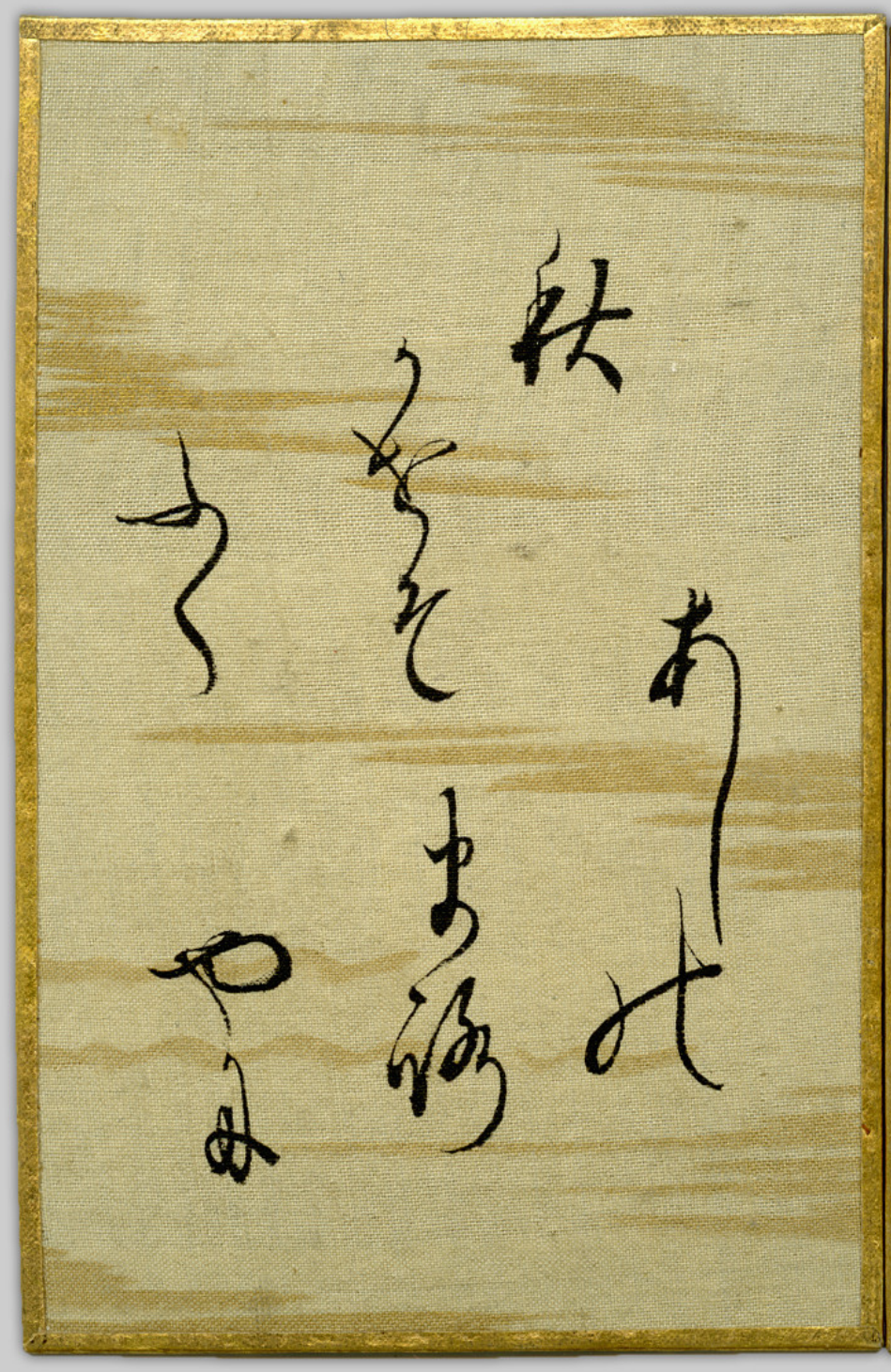
能因法師

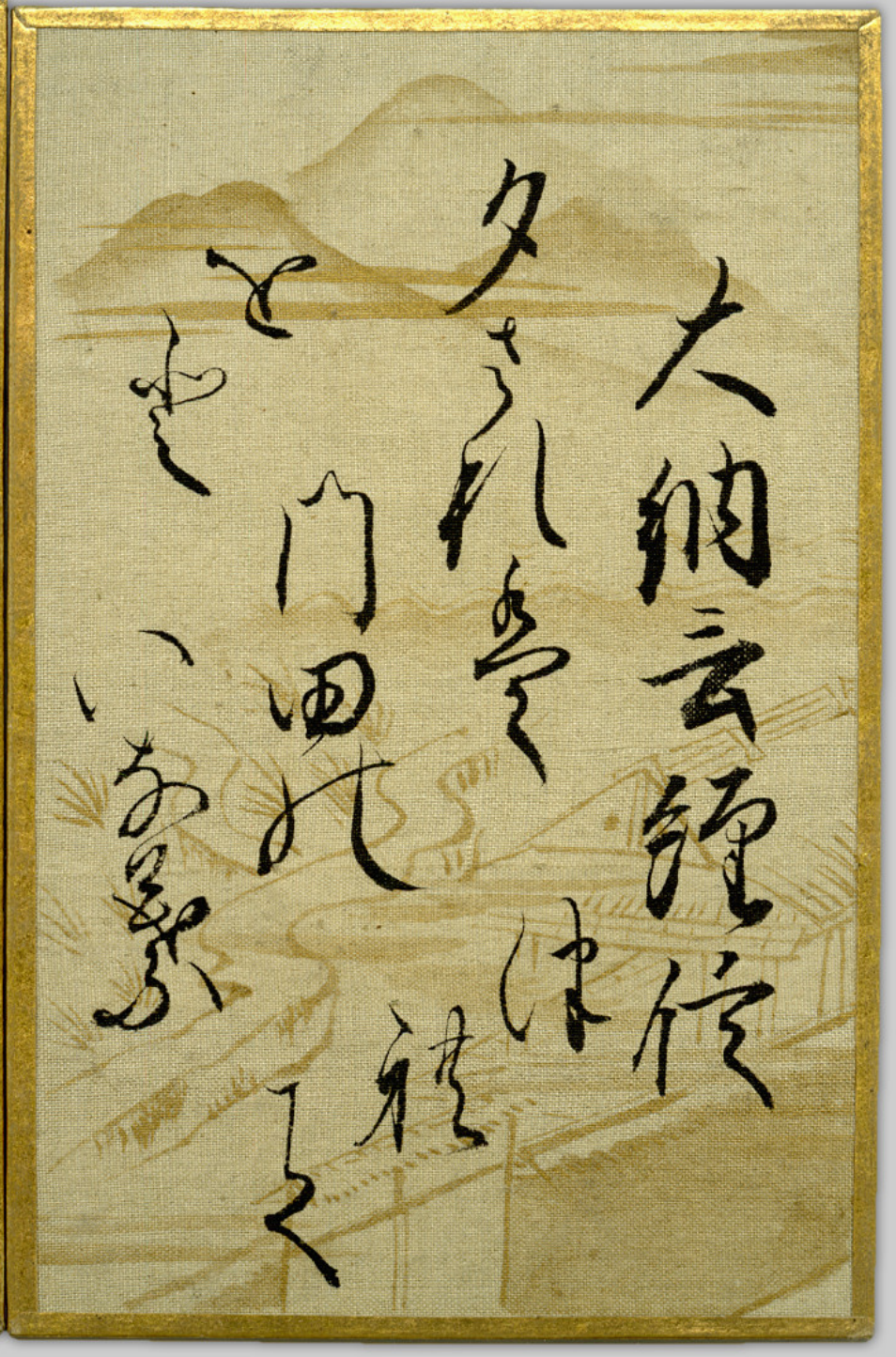
あらしふく
みむろの山の
もみち葉は

竜田乃
川の

にしきなり
けり

良還法師
さこのしさふ山なる
ち宿と
あるく

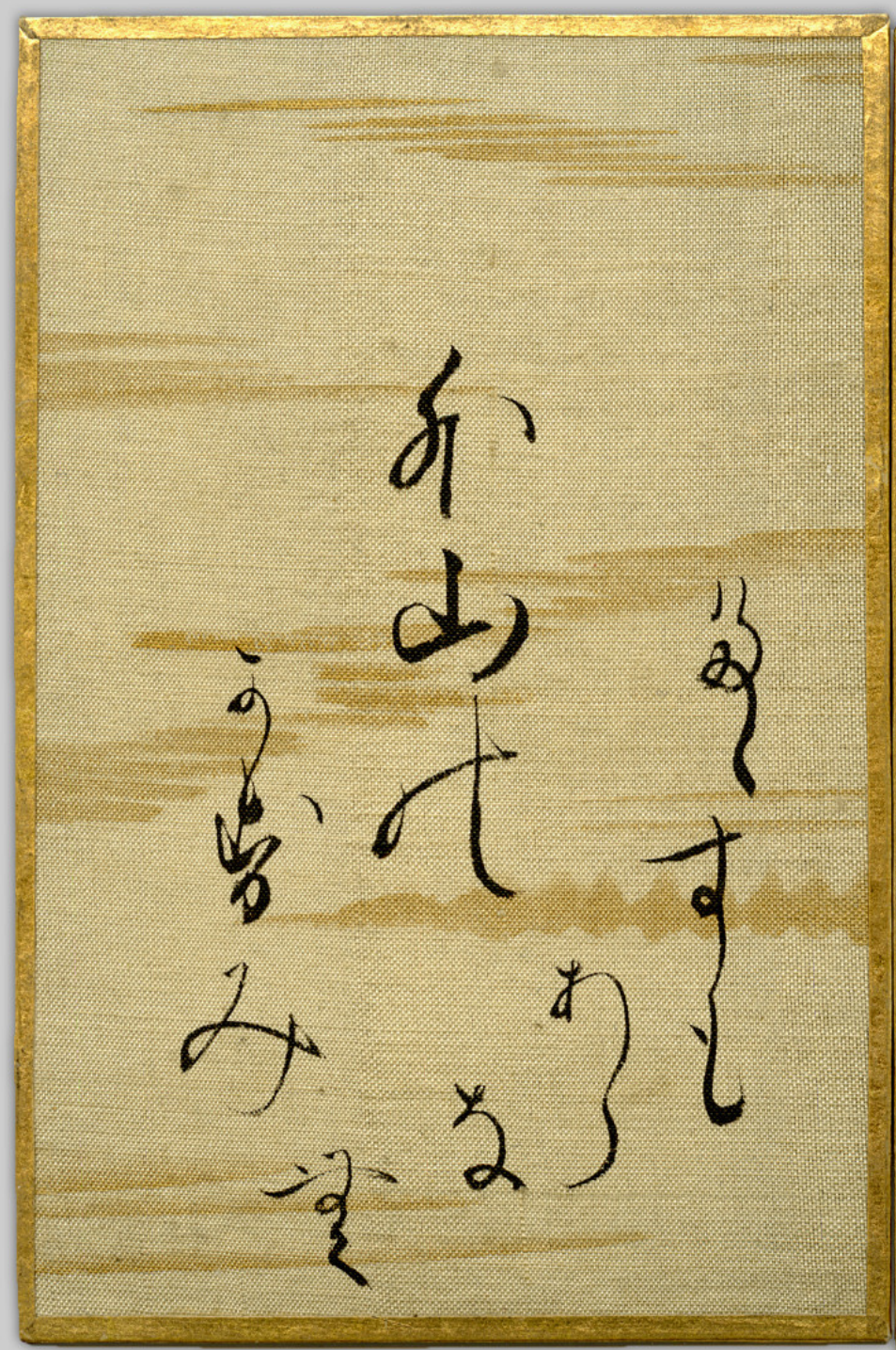


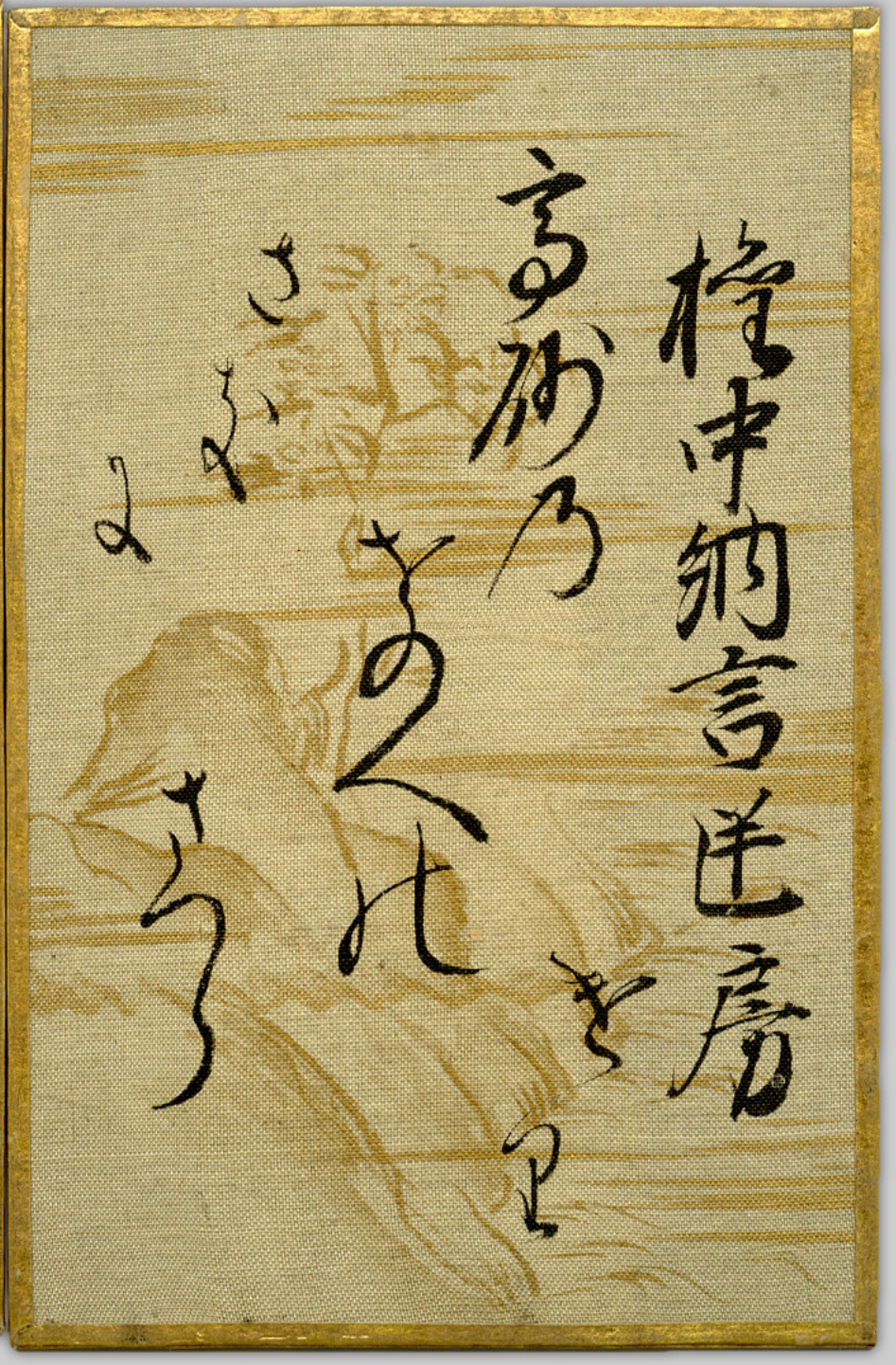


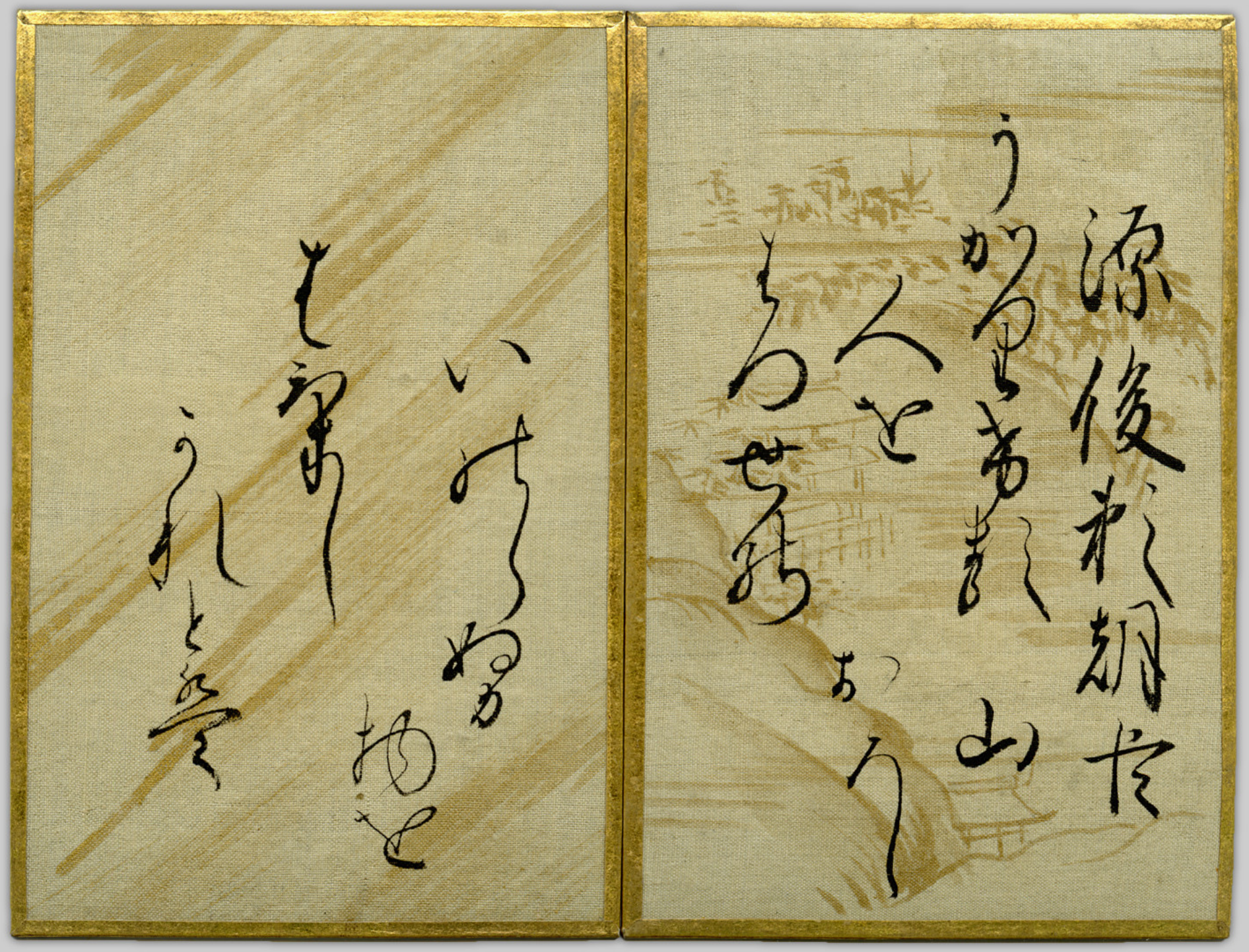
祐子内親王家紀伊

音にきく
たかしの
はまの
あた波ハ

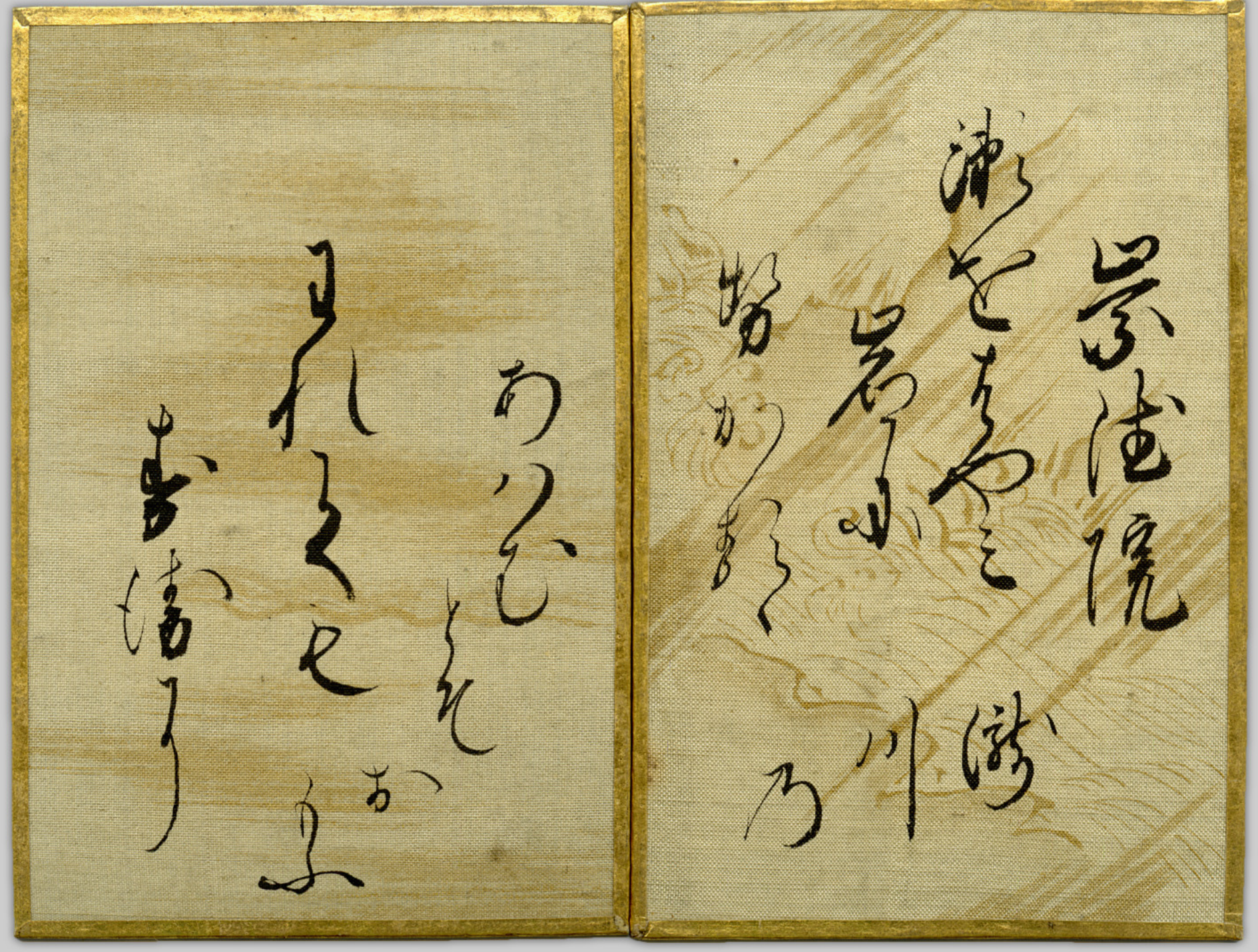
かけしや
袖の
ぬれもこそ
すれ







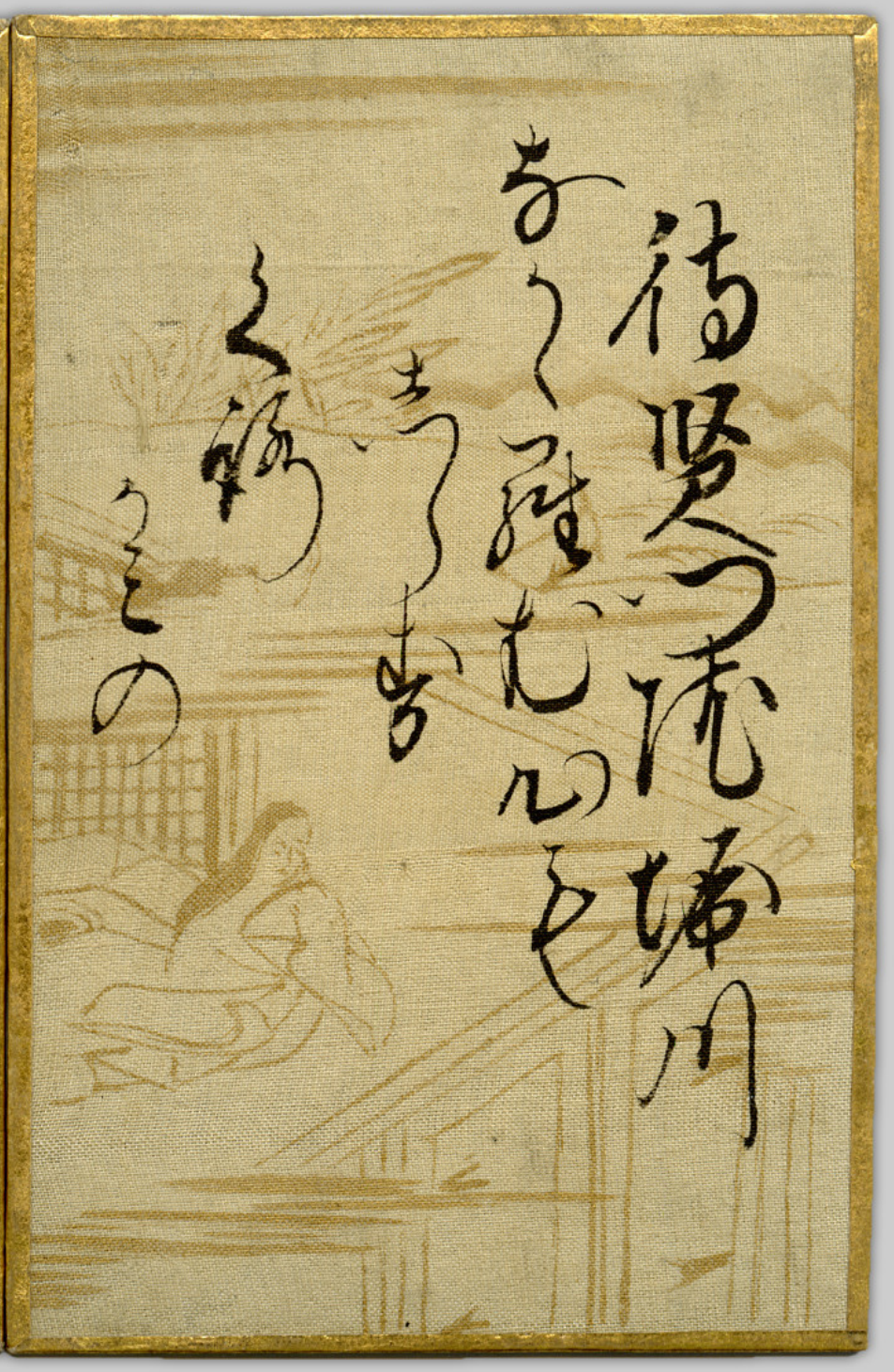
法性寺入居前関白太政大臣
和田忠
原
[illegible]
[illegible]
三代八
乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

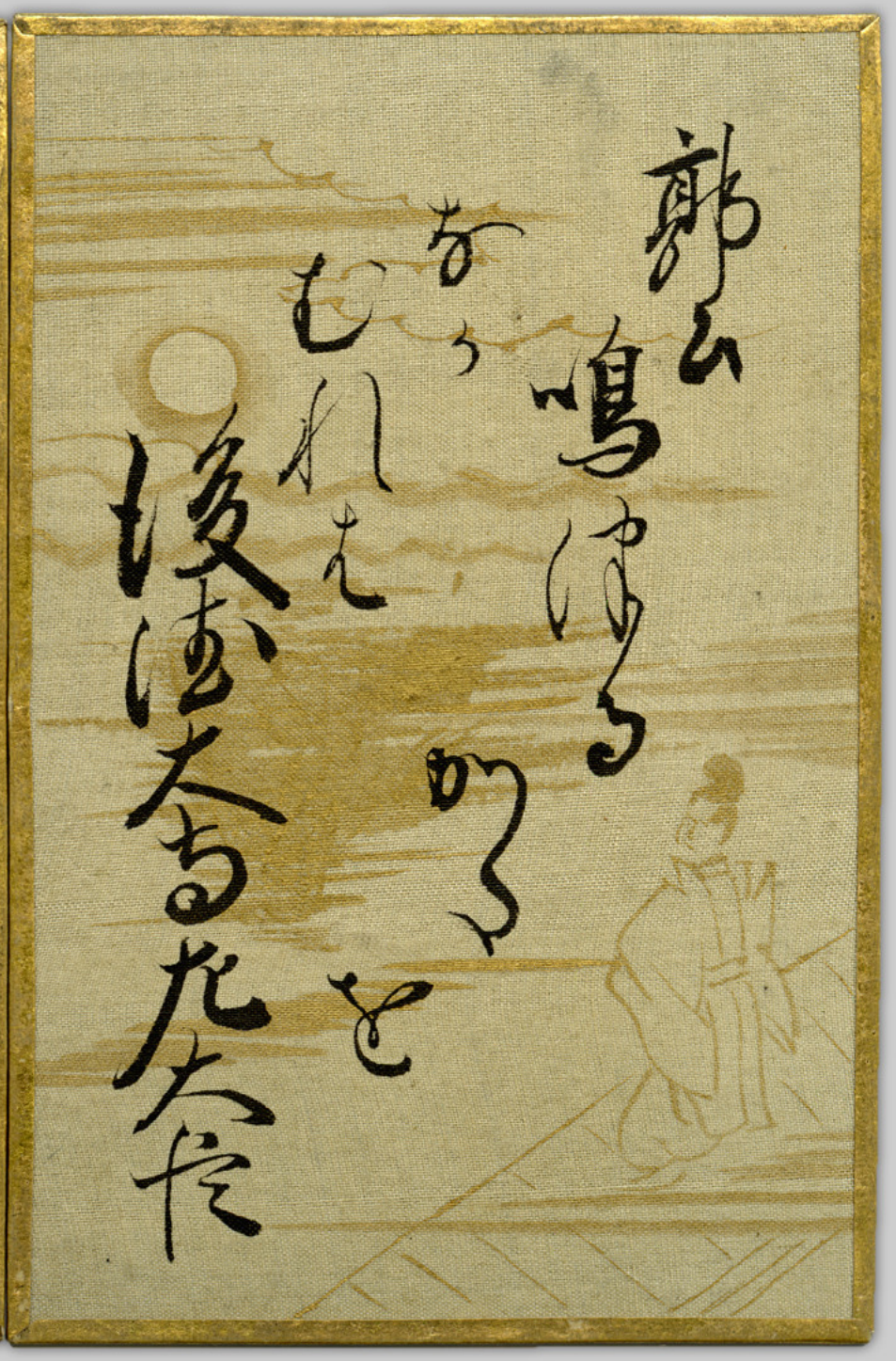


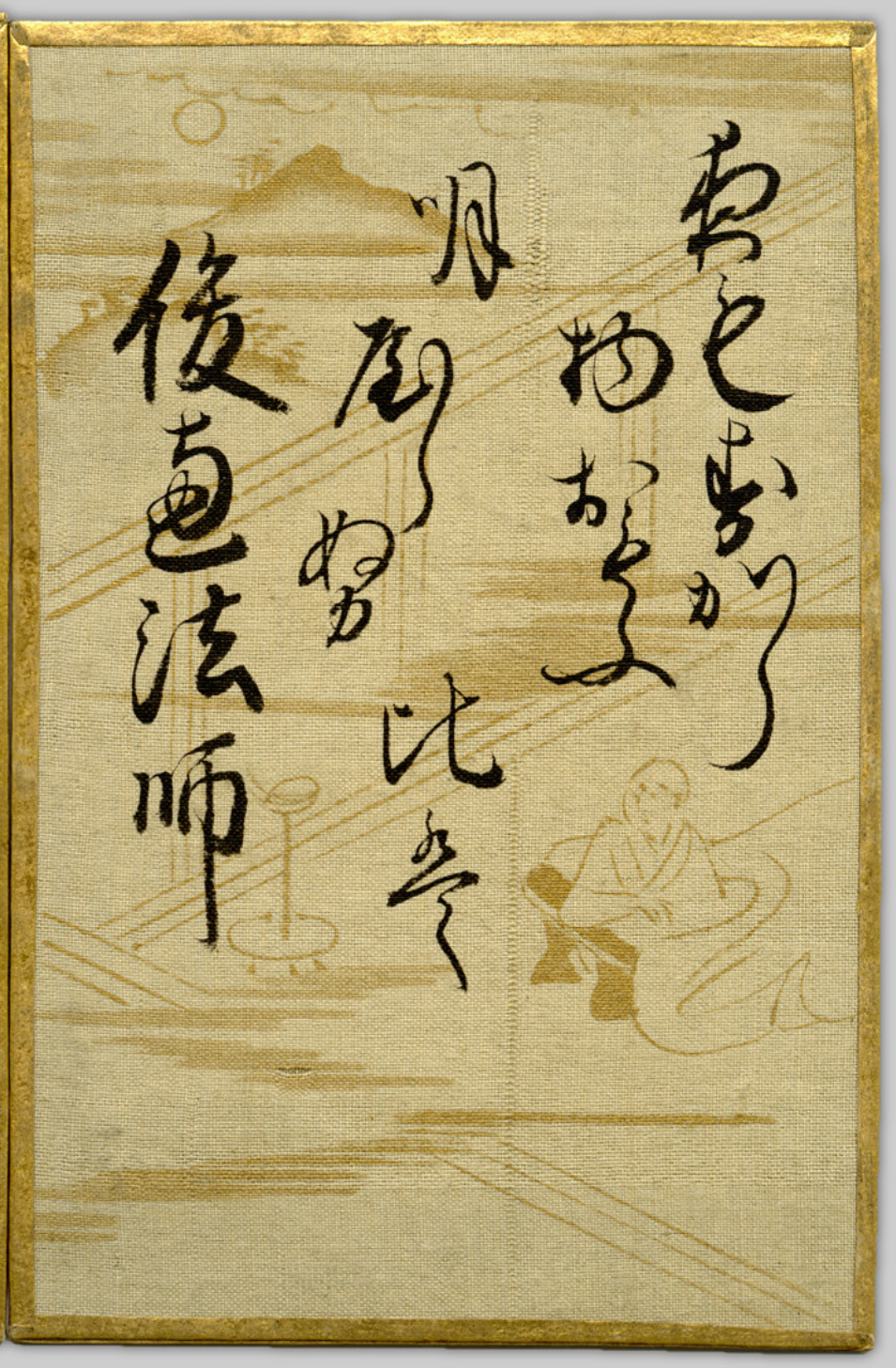
源兼昌

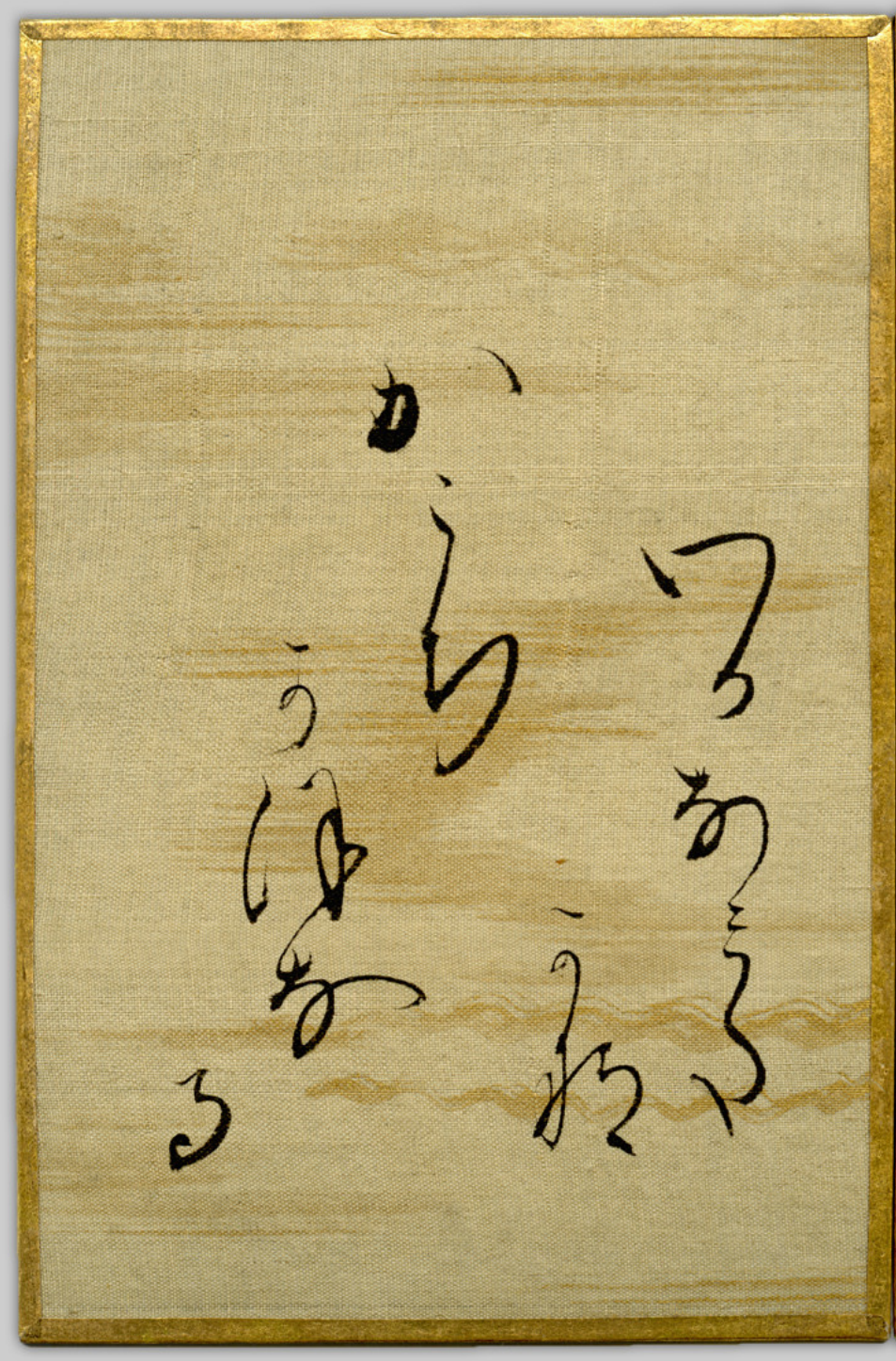
あはち嶋
かよふちとりの
なくこゑに

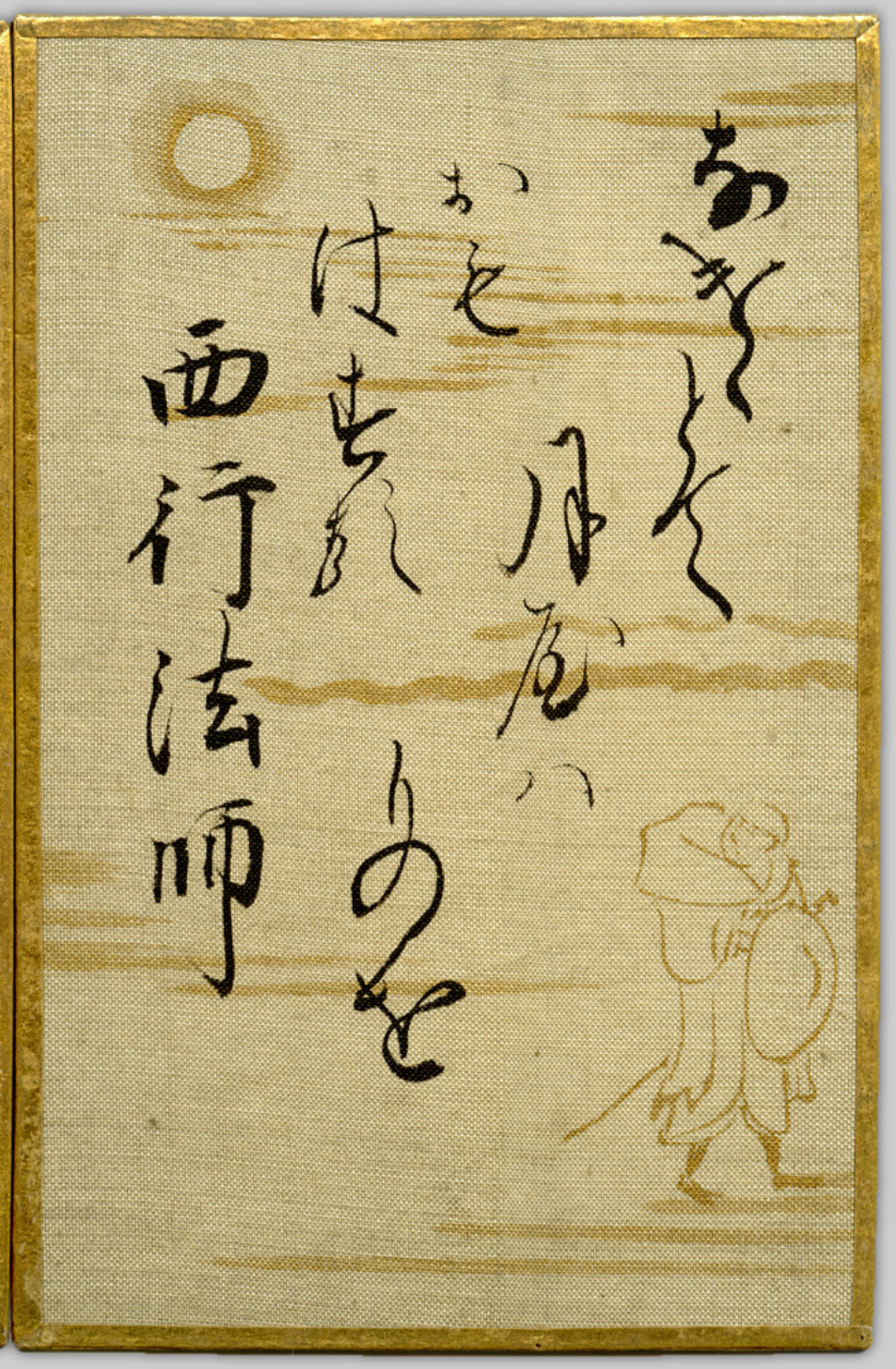
いく夜ねさめぬ
すまのせきもり

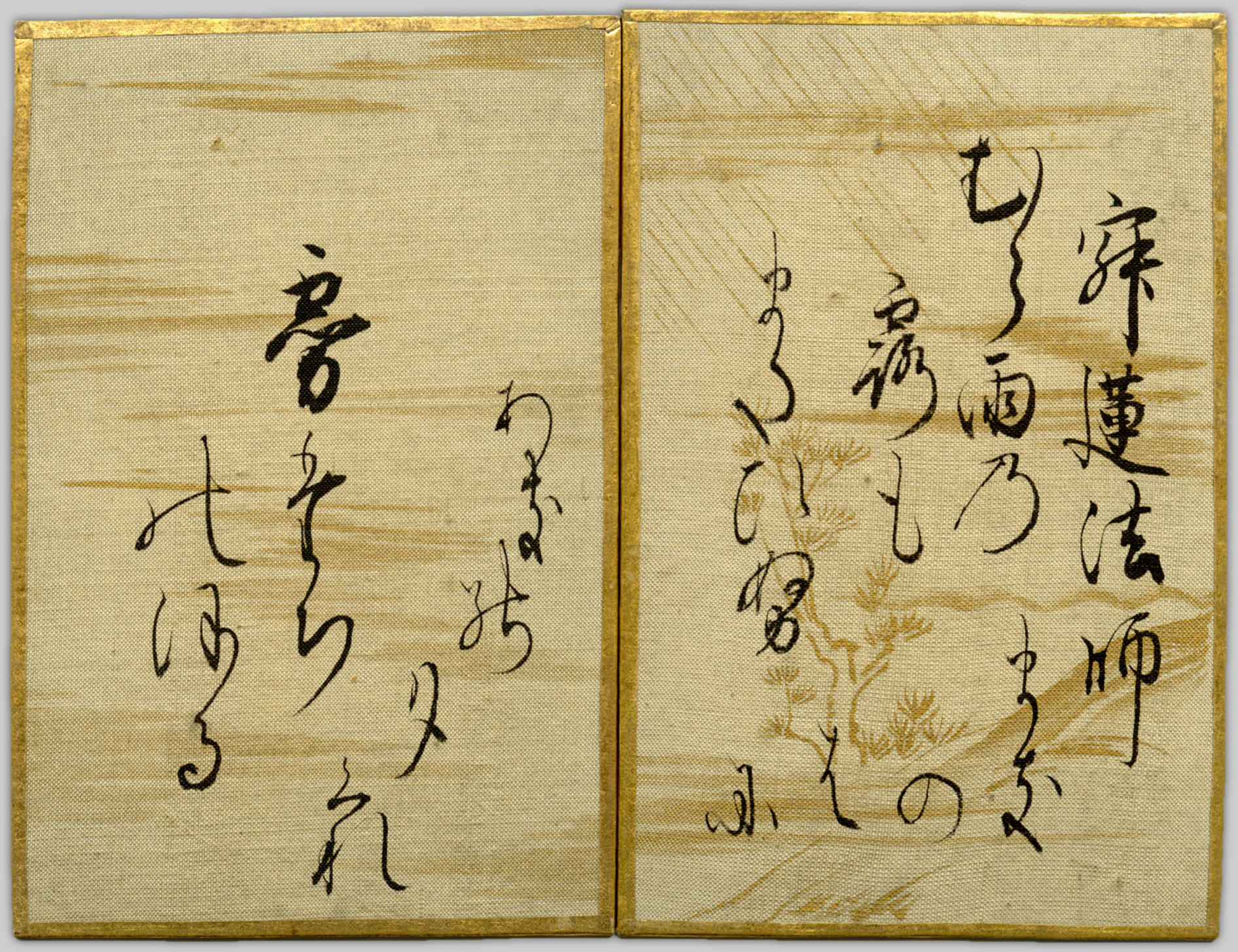


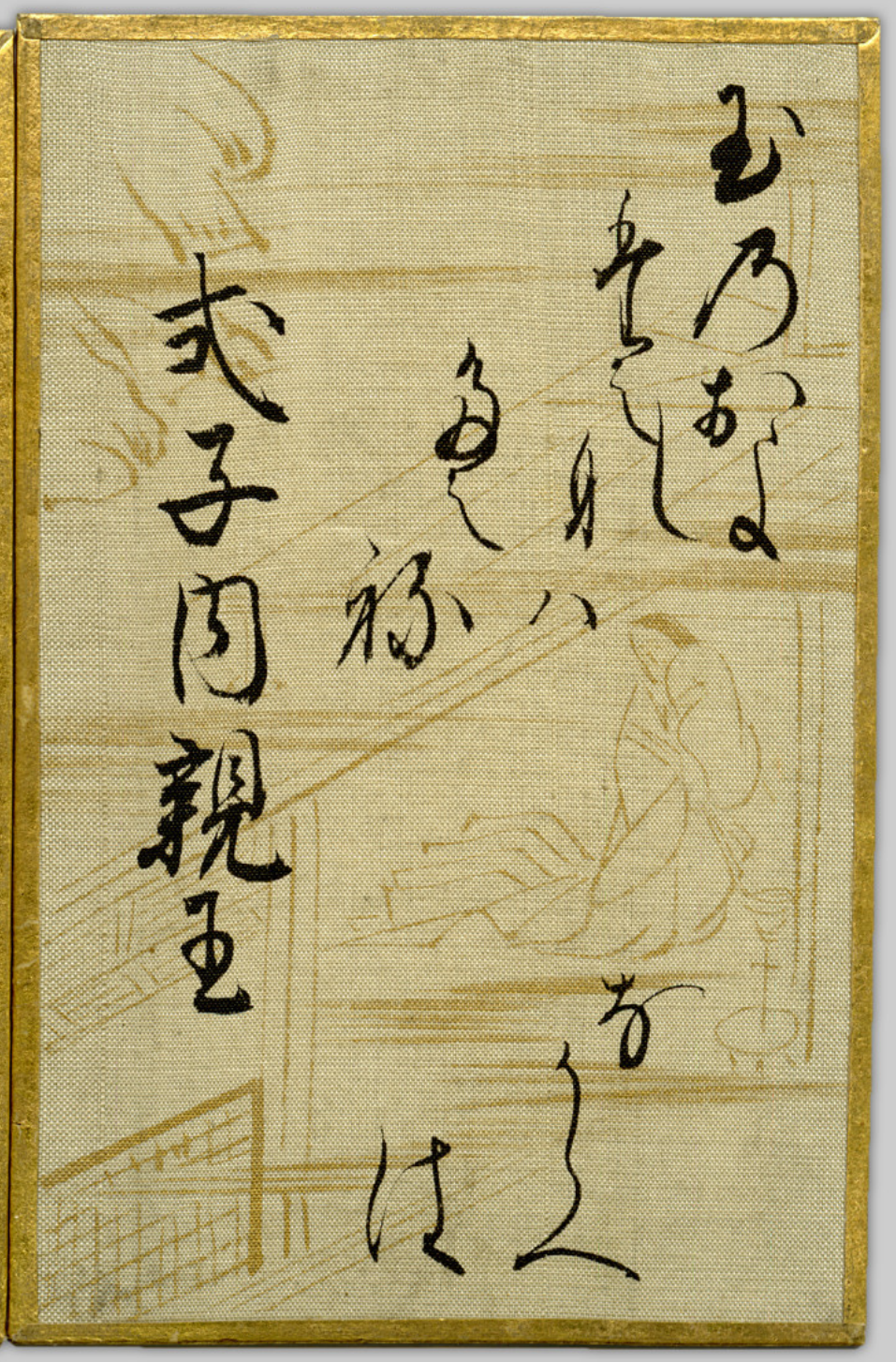







西行法師



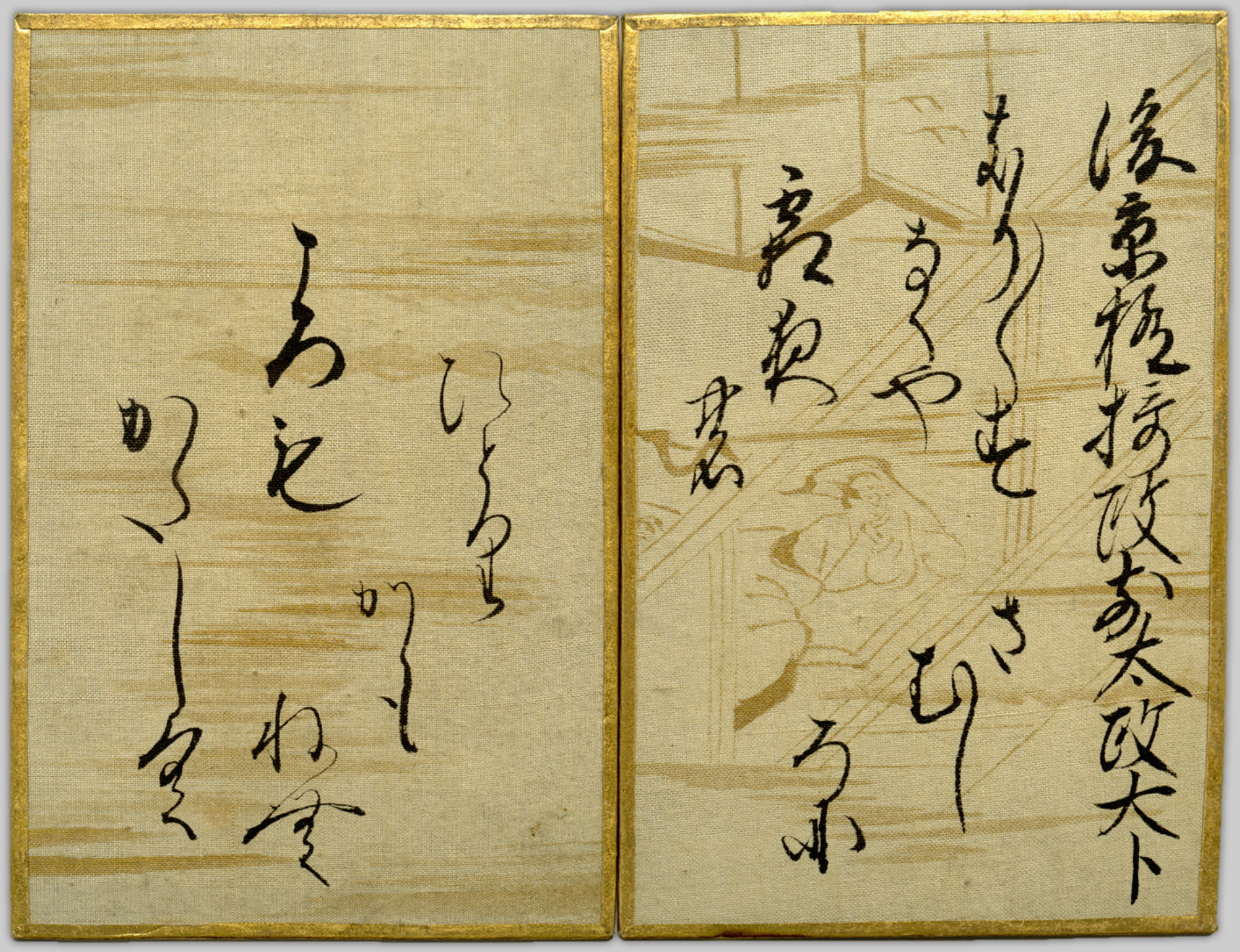


殷富門院大輔

みせはやなをしまのあまの袖たにも

いろはかはらす

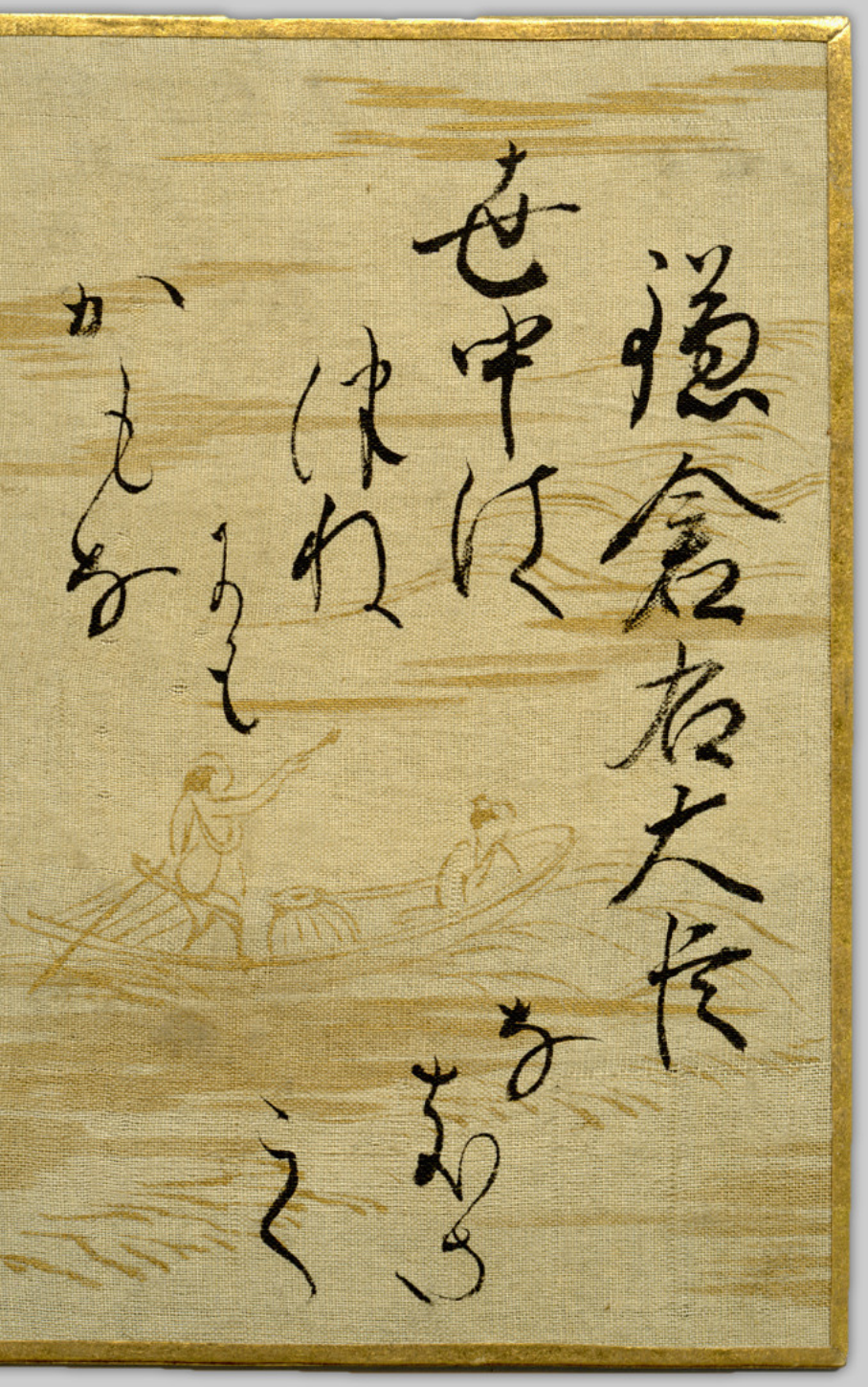
ぬれにそぬれし

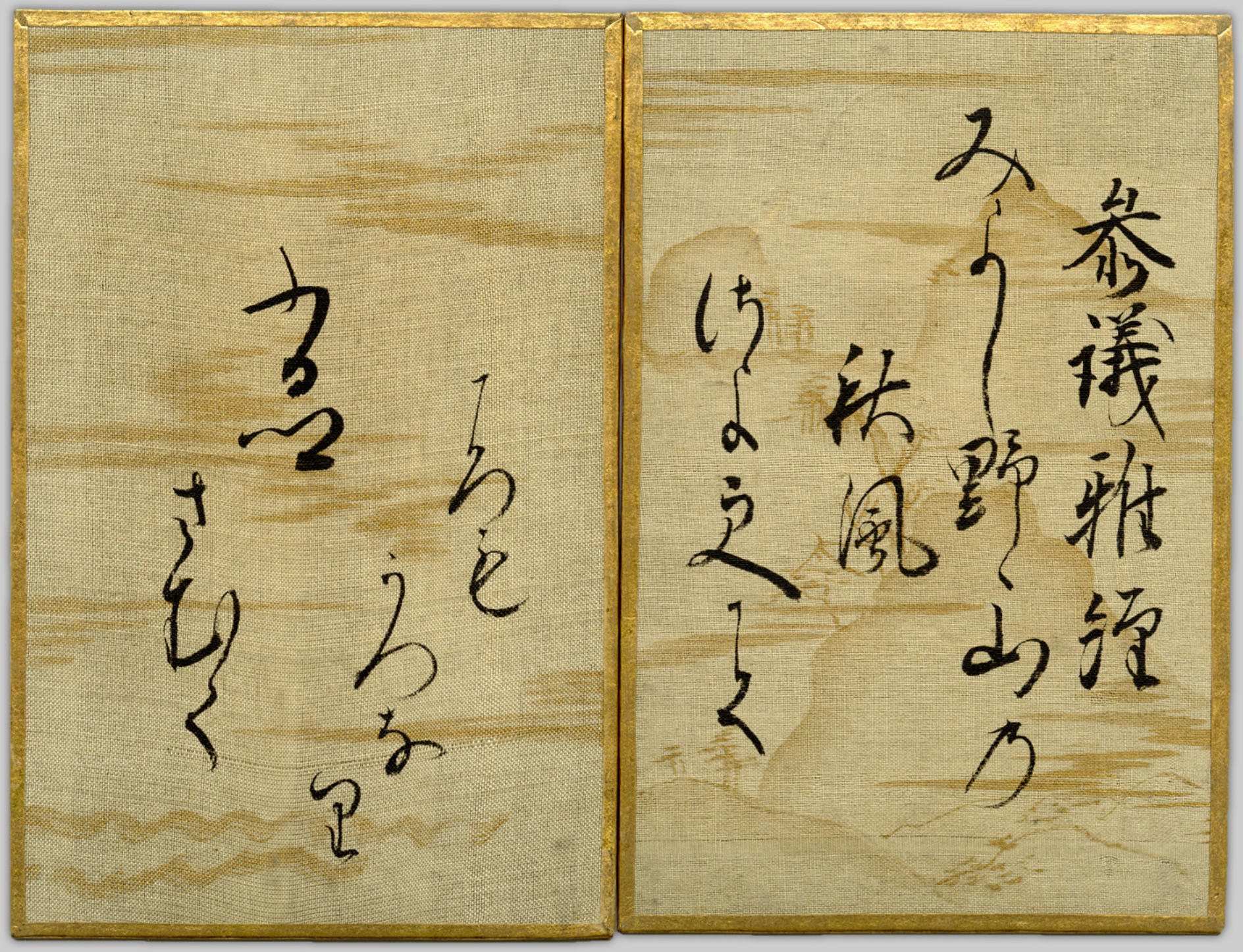


二條院讃岐

我袖は
志ほひにみえぬ
沖の石の
[illegible]

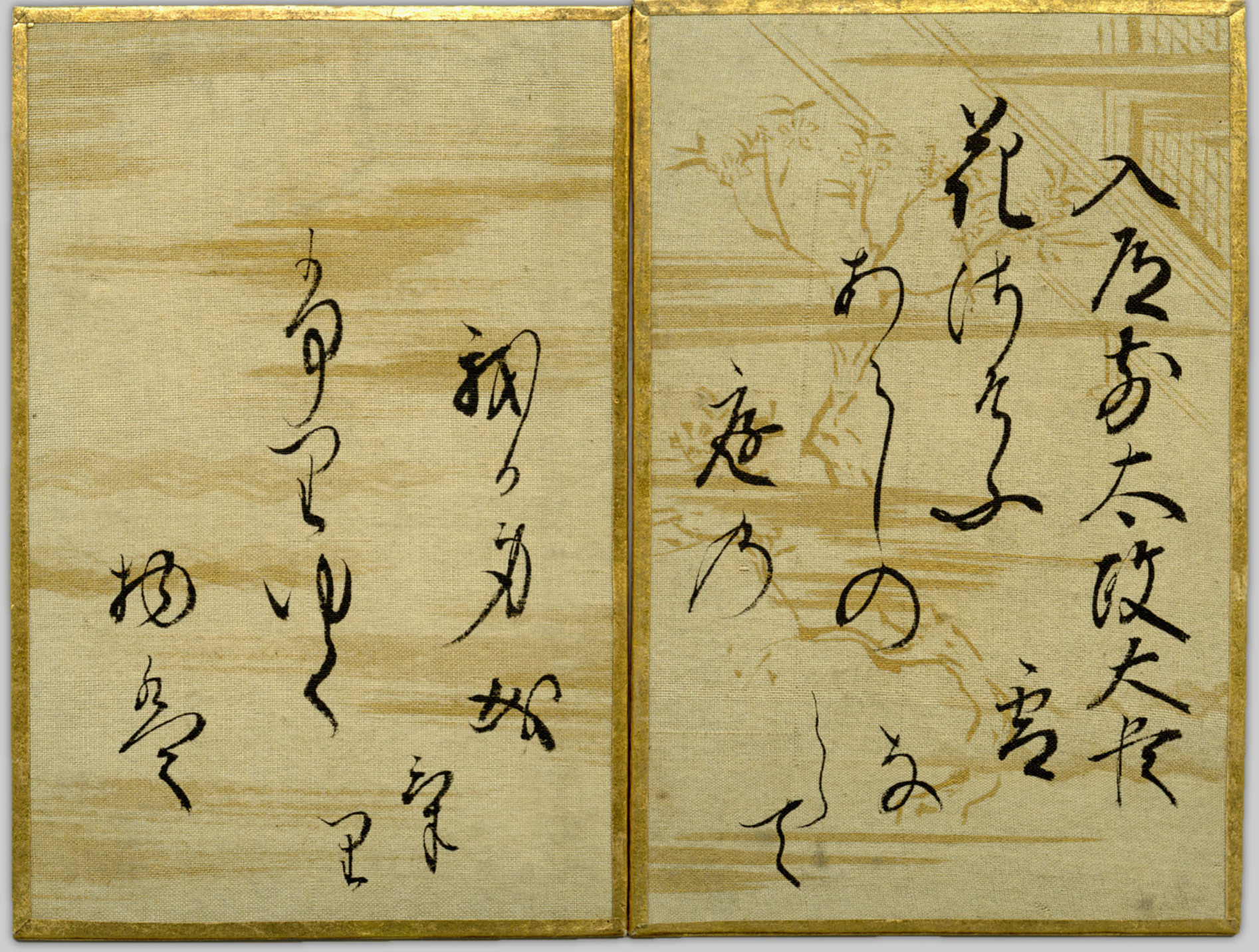
人こそ
志らね
かはく
まも
なし





参議雅經
みよし野山乃
秋風
けよ定しく

しろ
うつ
ゆ
さしく



権中納言定家

来留人と

よろ浪乃

夕

ちのなよ

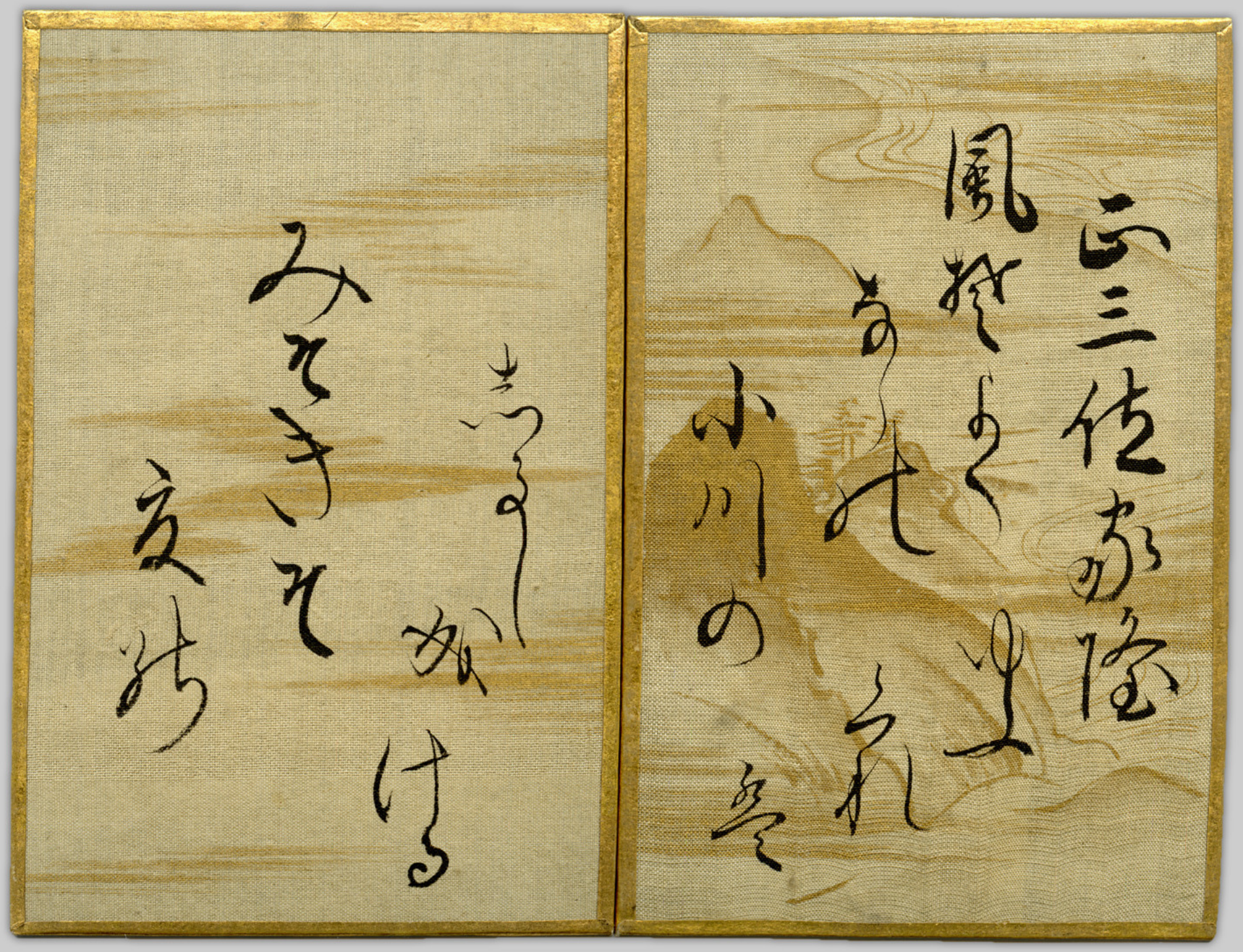
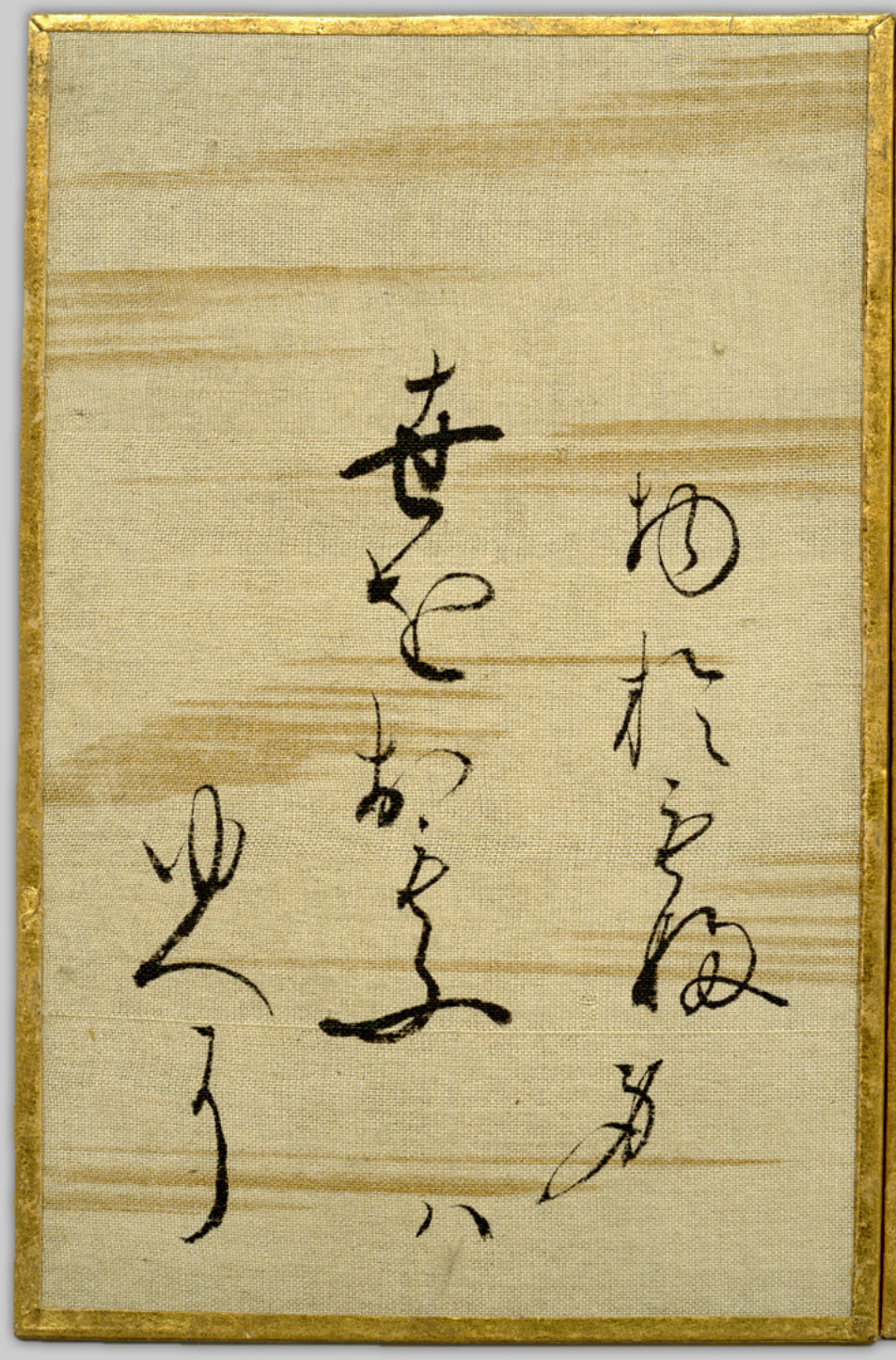
浦の

月をこ

れて

風くや

をし浪の



後鳥羽院